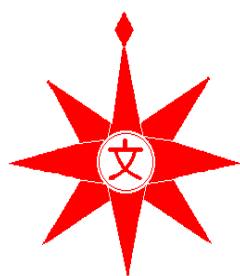


平成29年度
運営諮問会議報告書



鳥羽商船高等専門学校

平成 2 9 年 度 運 営 諮 問 会 議 委 員 名 簿

(五十音順)

氏 名	現 職	備 考
井 上 欣 三	国立大学法人神戸大学 名誉教授	
鳥 山 光一郎	鳥羽商船高等専門学校奨学後援会会長	(新)
池 田 栄	鳥羽市小中学校校長会会長 (鳥羽市立鳥羽東中学校長)	
菅 沼 延 之	鳥羽商船高等専門学校同窓会会長	(新)
本 田 直 基	美和ロック株式会社 伊勢工場群総務部長	
藤 川 貴 朗	(公益財団法人) 三重県産業支援センター 高度部材イノベーションセンター イノベーション課長	(新)
山 本 俊 彦	国立大学法人三重大学 理事・副学長 (教育担当)	

※ 委嘱期間 平成 2 9 年 1 2 月 1 日～平成 3 1 年 3 月 3 1 日

平成30年3月7日

平成29年度 運営諮問会議資料

- 1 平成29年度 鳥羽商船高等専門学校運営諮問会議次第
- 2 平成29年度 運営諮問会議委員名簿
- 3 平成29年度 運営諮問会議座席表
- 4 平成29年度 年度計画達成状況
- 5 平成29年度 学校要覧
- 6 学校だより V01.86、V01.87
- 7 2018 学校案内
- 8 学生の活躍（平成29年度）（新聞記事・ホームページ）
- 9 鳥羽商船高等専門学校運営諮問会議規則

平成 29 年度運営諮問会議 議事録

【日 時】：平成 30 年 3 月 7 日（水）

【出席者】

- 総務課長補佐 世古
- 国立大学法人神戸大学 名誉教授 井上先生
- 本校奨学校後援会長 鳥山様
- 本校同窓会会長 菅沼様
- 公益財団法人三重県産業支援センター課長 藤川様
- 国立大学法人三重大学理事 山本先生

【欠席者】

- 鳥羽市小中学校校長会会長 鳥羽東中学校長 池田先生
- 美和ロック株式会社伊勢工場群総務部長 本田様

【司会】

宜しいでしょうか。

それでは全員お揃いになりましたので、只今から平成 29 年度運営諮問会議を開催させて頂きます。本日はご多用中のところ、ご出席頂きまして有難うございます。進行を務めさせて頂きます総務課長補佐の世古と申します。宜しくお願いします。

本日は委員 7 名の内 5 名の方にご出席頂いております。名簿順にご紹介させて頂きます。国立大学法人神戸大学 名誉教授 井上先生です。よろしくお願いします。

【井上委員】

井上です。どうぞ宜しくお願いします。

【司会】

本校奨学校後援会長 鳥山様です。宜しくお願いします。

【鳥山委員】

鳥山です。宜しくお願いします。

【司会】

本校同窓会会長 菅沼様です。よろしくお願いします。

【菅沼委員】

宜しくお願いいたします。

【司会】

公益財団法人三重県産業支援センター高度部材イノベーションセンターイノベーション課長 藤川様です。宜しくお願いします。

【藤川委員】

産業支援センターの藤川と申します。宜しくお願いします。

【司会】

国立大学法人三重大学理事 山本先生です。宜しくお願いします。

【山本委員】

山本です。宜しくお願いします。

【司会】

鳥山様、菅沼様、藤川様におかれましては、今年度から新たに委員をお引き受け頂いております。また鳥羽市小中学校校長会会長 鳥羽東中学校長池田先生、ならびに美和ロック株式会社伊勢工場群総務部長の本田様は、本日は所用により欠席となっております。本校出席者につきましては、座席表に掲載しておりますので、各自の紹介は省略させていただきます。

また、この後の報告書作成等、ホームページの公開等で使用します関係で写真撮影および録音をさせて頂いておりますので、ご了承願います。

それでは、本校校長の林からご挨拶並びに学校概要を説明させていただきます。

林校長お願いします。

【林 校長】

校長の林です。年度末の非常にお忙しい中、ご参集くださいます有難うございます。鳥羽商船高等専門学校のこの1年間、どういうことをやってきたかということを皆さま方にご紹介して、色々ご意見を頂きたいというふうに考えております。よろしく願いいたします。まず、最初に新任の委員の先生方もいらっしゃるということで、概要を私の方から説明させていただきます。

国立高等専門学校というのは、全国で51高専、キャンパス的には55キャンパス。複数キャンパスを持つ高専がございますので、51校で55キャンパスでございます。その中で、商船学科があるのは、5校のみということで東から富山、鳥羽、弓削、広島、大島と

いうことでございます。大きな高専機構の中で5つ、ある意味、特異な存在として日本で船舶職員養成を行っているということでございます。

これがキャンパス全景でございます。校舎地区、今丁度指しているところがこの会議室でございます。右上は寮です。暁寮。その左側にグラウンドがあり、ここに第2体育館があり、ここに教員の宿舎がありということで、この辺りが寮の地区になっています。校舎地区から少し離れて、ここにポンドが存在します。鳥羽丸。現在244トン、長さ40メートル、幅8メートルの練習船、鳥羽丸が係留されています。ここの艇庫でございますけれども、この艇庫もかなり老朽化が進んでいるとそういう状況でございます。

鳥羽丸も船齢ほどして24歳ということで、練習船としましては結構高齢で、ただ文科省の意向としては30年ぐらい使ってくれということでございます。出来れば、大きくしたいのですが、今年から鳥羽が今5商船系高専の当番校でございまして、代替船ワーキングを立ち上げております。鳥羽の場合非常に係留環境、一見良さそうなのですが、実は水深が非常に浅くて3メートル、多分20ないかというところで、鳥羽丸、マックスの吃水が3メートル05ということで年に数回は船底もタッチしているのではないかなとそういった環境。それももう一つ、ポンドを継いで沖に出したらということなのですが、この辺りのきなみ3メートル前後ということで、今後、代替船をどのようにするかというのが大きな問題となっております。

まず、本校の教育理念、教育目標でございます。教育理念としましては、137年前から進取、礼譲、質実剛健ということで定められておりまして、それを今も連綿と守りながら教育を実施しております。教育目標は人間性豊かな教養人となること。それと創造性豊かな技術者となること。それから国際性豊かな社会人になること。この3つを教育目標として、日々教育を行っております。

高専教育システム本科の場合のみをここに明示しております。本科の特徴としましては、5年間の一体型の技術者養成教育でございます。その技術者を今後、グローバルに展開するのか、地域産業に人材を供給するのかといったところで色んなプロジェクトが動いているというのが現状でございます。一般科目と専門科目が相互に楔型になっており、その中でキャリア教育を実施しております。先ほどの商船学科に関しましては、5年修了後、半年の大型船実習が実施されます。合わせて5年半のうち12ヶ月の乗船実習を実施しております。それも含めて国際性の育成ということで、今後学生の皆さんが世界で、地域でいろいろ活躍をされると思いますけれども、シームレスに海外と色んな取引等々実施していく上では最も肝要すべき国際性の育成。それを目指しているところでございます。

本学のセールスポイントとしましては、先ほど申し上げた創起137年の伝統を持つということで、商船系の学校としましては、東京海洋大越中島に続いて、遅れること8年ぐらいで船舶職員の養成を始めております。同窓会活動は充実しており、卒業しても強い味方になっているということで、同窓会長がおられますけれども、種々の問題が一つありまして、その一つですけれども、どうしても商船系、工業系2学科のうち、現在同窓会の活動

を中心にやって頂いているのが、商船学科の卒業生ということで、どうしても2対1の割合で卒業生を輩出しますけれども、ぜひ工業系の学生もそういった同窓会活動にということで、副会長に本学を卒業した工業系の先生を起用したというところでございます。

立地条件として、交通の便が良いとここは書いてしまったのですが、括弧付きで他の4商船高専と比較してということで、立地条件が良いと書きました。広島とそれから弓削に関しましては、最後の最後、橋がなくて船でということで、いつも校長会議のときに2校からは前泊しないと東京都会議に出られないということをごぼしておられるということでございます。富山に北陸新幹線ができて、本当に東京から2時間10分位ということで、いろんな意味で立地条件が良くなっていくということでございます。

進路に関しましては、入り口で比較的入学しやすい学校ですけれども進学、就職先は他の工業高専と同程度、場合によっては凌ぐというぐらいで引く手数多と言うか就職状況は良好でございます。

簡単に歴史ですけれども、明治14年1881年に東京攻玉社分校として鳥羽商船黌、「こう」と読むのですけれども、開設するというところで8月20日が創立した日でございます。そのあと多く冠が変わったと言うか一時存続ができなくて、閉めたことがあるのですけれども、次に私立東海商船学校と改称しております。明治32年に今度は鳥羽町立になっております。明治44年、明治の末ですけれど、今度は県立になっておるということで明治の間に分校として、勿論私学として商船校が出来たのですけれど、あと私立、町立、県立と変わっております。大正期は大きな変化はございませんでしたけれど、昭和14年文部省の直轄の官立になっております。その後、昭和17年、戦争中でございますけれども通信省が運輸通信省になり、1945年終戦間際、運輸通信省は運輸省となりということでここも短い間に冠がどんどん変わっていくということでございます。

これは県立時代の正面玄関でございます。非常に伝統を感じるようなそういう建てであったということで、これが残っていればなんと私は今更ながらその思いが強いです。立地条件はこのような感じで随分とこの前に多分埋め立てたと思うのですけれども、池の浦湾の一番奥でございます。南の奥でございますけれども、ここは道路が走ったり、近鉄が走ったり、JRが走ったりということになっております。これは非常に見難いのですけれども、17年当時の平面図ということで、今の位置にほぼ集まって学生寮がここの辺り。グラウンドは今ここ。今はこちらの方になっているのですけれども、ここに陸上帆船がおいである。まさにこの写真ですけれども、グラウンドですけれども、非常にコンパクトなところに設置をされていたということでございます。その後、戦後でございますけれども、昭和26年に鳥羽、富山、大島、広島、弓削の5商船学校が国立商船高等学校として文部省に移管されております。昭和42年国立鳥羽商船高等専門学校を開校しております。ここ昭和56年から創基100周年記念を記憶しております。それから改装により電子機械工学科、工業系の電子機械工学科ができ、3年遅れて制御情報工学科が設置されております。これによって、商船学科を入れて3学科体制となり、現在に至っているということでござ

います。平成 13 年に創基 120 周年。最も 5 専の中では早く 120 周年を挙げております。平成 16 年独立行政法人国立高等専門学校機構鳥羽商船高等専門学校となるということで、今年度で 50 周年ということでございます。最近平成 17 年に専攻科、本科の上に 2 年間の専攻科を設置して海事システム学専攻、それと生産システム工学専攻の 2 専攻を持っております。

学校の教員、これは来年度頭。あと 1 カ月後ですけれども、4 月 1 日、これは予定でございます。校長、教授 24、准教授 22、講師 1、助教 8 ということで、教員数は 56。定員いっぱいになります。工業系の助手 1 名、商船系は航海系の助手 1 名と機関係の助手 1 名、それと社会科、一般科目の社会科の担当する先生も 4 月 1 日で採用決定しております。あと事務職員は、部課長クラスが 3 人、係長 15 人、それから一般職 25 人、合わせて 43 人、トータルが 99 人というところでございます。

今後、この定員特に教育職がこの数字をキープできるかというのは、現在、高専機構がいろいろと計画している教育体制改革でそういったところでかなり厳しい数字を押し付けられるというか、受けざるをえないというような状況であるということでこの 56 が今後予定では平成 35 年末には約 1 割減らしなさいということで、かなり強く指導を受けているという状況でございます。

学科の紹介でございます。商船学科、航海コースと機関コース、それぞれ船長を目指す、機関長を目指すということで、第 3 学年で 1 年、2 年は一緒に授業を聞いていますけれども、3 年生でコース分けが行われ、ほぼ 20、20、計 40 という形でございます。1 年間の先ほど申し上げた大型練習船実習が義務として、卒業の要件として課せられております。ということで、5 年プラス 6 月在学をするということでございます。

電子機械工学科、これはロボコンの一場面なのでございますけれども、好きなことを追求し夢に向かって進むということで、機械工学と電気電子工学の両方の専門知識で将来活躍して頂こうということで、俗にいう PBL というプロジェクトベースドラーニングというまさにその典型でございますけれども NHK の後援を受けて、全国区になっております。ロボットを作る、動かすということで今年度は全国大会出場。地域で第 3 ブロックと呼んでいますけれども東海、北陸、近畿、11 高専の 22 チームが参加した大会で、今年度は 4 位。別に 3 位決定戦がなかったので 3 位でもよろしいのですけれども、4 位までは全国に行けるということで全国大会の出場を果たしております。

制御情報工学科でございます。先端技術を学び、未知の領域に挑戦をするということで情報処理と自動制御技術で今後将来活躍をして頂くということで、AI と、IoT ですね、インターネットオブシングスというそういった教育を実践しております、これは授業で自動走行のロボットですけれども、こういったものを作って学習をしているというところでございます。全国区の学科でございますプログラミングコンテスト、プロコンと呼んでいますけれども 2 年連続で文部科学大臣賞を受賞しており最高の賞を頂いております。

本科の次にある 2 年間の専攻科でございます。

海事システム学専攻、これは商船学科からの進学を想定しております。定員は4名。1学年で4名。2学年で合計8人ということ。

それと生産システム工学専攻。これは定員が8人ということ。先ほどの電子機械工学科、制御情報工学科などから進学を想定しております。本科の上に専攻科が設置されていますよということでございます。高度な専門的学術を学んで、国際的感覚と広い視野を持った自立線的専門技術者を目指しますということでございます。2年間の本当にマンツーマンに近い形の少人数教育を実施しているということで、最終的には学士の学位を取得できるということでございます。

今年度のプロジェクト採択と主な事業ということで、まずプロジェクトの採択でございます。これは高専機構が実施したもので、総額5億円を51高専が取りにいくという非常に熾烈な争いでございます。名前は“KOSEN4.0”イニシアティブということで全51高専から96件のプロジェクトの提案がありまして、その内36件が採択しております。ということで全高専が一つずつ貰ったというわけではなく、選ばれた所が頂いたということです。本学は採択プロジェクトとして第4次産業革命を推進するプログラマー育成と地域活性モデルということで予算規模1,260万を頂いております。これは2カ年に渡ってということで、次年度もそのまま継続ということ。それと30年度の次年度はまた新たに募集があるということで、今現在、準備中ということで是非2件取っていきたいという風に考えております。

あと学生の方の頑張りで第28回の全国高等専門学校プログラミングコンテストということで10部門、最優賞、文部科学大臣賞を連続で頂いているということです。あとロボコン、先ほど申した2年連続、全国大会ということで、徐々に全国大会の常連校になりつつあるということでございます。

一方で、第6回の気象文化大賞。高校、高専気象観測機器コンテスト、これも最優秀賞、優秀賞を頂いているということで、非常に学生の皆さんには頑張ってもらっているということでございます。

一方、地方自治体、及び他の高専との連携ということで、まず左側ですけれども、三重県の工業研究所との包括連携をついこの間、結ばせて頂きました。非常に観測機器が充実した人材が充実した所でございまして、本学は持つことが出来ないような非常に貴重な観測機器が沢山あるということで、お互い、向こうは向こうで情報系の知識が欲しいということもあってお互いWin-Winの関係で今いろんなプロジェクトが先生方を中心に動こうとしております。

あとこれは、実はまだ包括連携は3月の末に27日だったと思いますが、鳥羽市との包括連携ということで、これは防災も含めて、鳥羽市が持ついろんな懸案を商船高専と一緒に解決していきましょうということで、包括連携を結ぶ予定でございます。

あとこれも、かなり実績のあるお隣の三重県内のもう一つの高専。鈴鹿工業高専との連携ということでいろんな共有研究関係、それから人事交流そういったことを行っております。

す。あとこれは、今年のトピックスですけれども、和歌山工業高専との連携ということで実は科学研究費、科研で基盤 S と基盤 A と、要するに紀伊半島の海ということ 키워ワードにいろんなところで連携をしていきたいと思いますということで申請を出しているところがございます。基盤 S はちょっと無理かなと思っておりますけれども、基盤 A は是非なんとかしたいと考えております。

第 3 ブロック校長会議、事務部長会議も並行して行われますけれども、51 高専を 5 つのブロックに分けております。鳥羽は第 3 ブロック。ほぼ日本列島の中心にございまして、第 3 ブロックで参加校は東海の 4 校、北陸の 3 校、近畿の 4 校ということで 11 高専がブロック単位でいろんな諸問題を解決していきたいと思いますということです。これも同じく教育研究関係、それから国際交流ですね。それから人事、管理運営ということで常に第 3 ブロックで一つ固まっているいろんな情報交換、活動を行っているというところがございます。以上でございます。

【司会】

それでは資料の確認をしたいと思います。お手元の資料をご覧ください。クリップ止のものがあるのでございますけれども、運営諮問会議資料ということで捲って頂いて 2 枚目が次第になっております。その次が委員名簿になっております。その次が座席表です。その次が年度計画達成状況ということで 10 枚ついております。これが 1 冊です。それとその下にオレンジ色の学校要覧が 1 冊。その下に学校だよりの Vol.86、Vol.87 が各一冊。その次、少し小さい目の 2018 年学校案内が 1 冊、そのあとクリップ止めの学生の活躍というものが 1 冊。最後に鳥羽商船高専の運営諮問会議規則がついております。資料はございましたでしょうか。大丈夫でしょうか。

それでは此处で議長の選出を行わせて頂きます。本校運営諮問会議規則第 3 条により、議長は委員の互選を持って立てると定められております。昨年度の本会議で議長を務められた井上先生に今年度もお願いしたいと思いますが、宜しいでしょうか。異議がなければ、拍手をお願いいたします。

《 拍手 》

【司会】

有難うございます。それでは井上先生よろしくお願いします。

【井上議長】

分かりました。井上でございます。宜しくお願いします。本校そのものの長い歴史の中で最近とみに難しい問題に直面されていると思うのですが、今日ご出席の方々にはこれらの問題について奇譚のない意見を伺いたいと思いますので、宜しくお願いします。

それではお手元の議事次第に沿って進めさせていただきますけれども、まずは本校の現状について石田副校長のほうから説明があります。

【石田副校長】

それでは本校の現状と課題ということで少し説明をさせていただきますと思います。パワーポイントのシートは一杯あるのですが、時間の関係で時々飛ばすかもしれませんがその点ご容赦ください。

今日はこんな形で話をさせて頂こうかと思います。昨年度ちょっと説明させていただいたこの教育改善のところで、3つの部屋が立ち上がりまして、その辺の話とそれから校長の話にも少しありましたが、イニシアティブ、この辺のところを主に話をさせて頂こうかなと思います。ポリシー、この辺はちょっと時間の関係で省かせて頂いて。

やはり高専というか本校、何処の学校でもそうですが、一番の大きなテーマは優秀な学生を確保すると、入学させるというのが最大の課題になっている訳ですが、本校は特に非常にその辺は毎年毎年、頭を痛めているところでもあるわけですが、それに対してどんなことをやっているかという様々な取り組みをしております。

ものによってはあまり効果がなくて止めたものもありますし、新たに始めたものもあります。こういった各学校を回ったり、説明会をやったりというのは勿論ですが、今年度から今までちょっと鈴鹿高専におんぶに抱っこでPRしていたのですが、本校も自主的に開催場所を志摩ですが設けて、三重県内の3つの高専ですね。近代高専と鈴鹿高専とうちと一緒に入試説明会、入学説明会をやりましょうということで参加させて貰うように今年からなりました。志摩はうちが主催したのですが、結構集まっているというところであります。

それから、あとは中学校には呼ばれて行ったりとか、塾の先生方に説明したりとか、あと今年はこの入試対策講座、それから学力検査選抜直前入試説明会、この辺が学力試験に対して高専の問題に対していろんな質問も聞きますし、教えますよという講座をさせて頂いております。来る学生は別に本校を受験するとは限らず鈴鹿だったりするのですが、そういうのは問わずに本校に来てもらって勉強をしてもらおうと。

あとはここずっと続いております5校でやっているガイダンスです。それから公開講座。それから理系女子フォーラム。これは近代高専が主催でやっていたのですが、次年度は予算がつくかどうか分からないので、次年度はどうなるか分かりません。

あと、本校の豊橋技科大出身の教員がおりますので、「行ってちょっと宣伝してきてよ」と行ってもらったものもあり、あとは鳥羽丸を使ったPR。大阪港に行く予定だったのですが、台風で行けなかったのですね。これは5年生が夜航海といって、24時間当直しながらする航海があるのですが、それを経験させるために今年初めて神戸まで行きました。これは船長が是非行かせてくれということだったので行きました。あとは同窓会の

ほうの故郷の海を愛する会に協賛させてもらったり、いろんなところで情報を発信してきたというところであります。

一つデータとして学校説明会というものがあるのですが、実は参加者が少し増えております。これはちょっとありがたいなと思っているところですが、これが増えたから入学志願者が増えたかということこれはまた別問題です。

それで入学志願者ですが、これは中学校の卒業生です。県内の。どんどん下がっています。特に南の方は。この南の南勢地区の学生を如何にうちの学校に引き入れるかっていうのが一番の課題なのわけですけども、倍率でいくとこんな状況です。これが去年の受験のときです。今日はあまりデータをお見せしたくないので出していないのですが、実は今年もっと下がりました。もっと下がったっていうのは商船学科なのですが、これがぐんと下がったのでちょっとその辺が今後本校の大きな課題として残っています。

ただ、制御情報と電子機械はちょっと良かったです。今年は。商船学科がちょっと下がったので、その辺の原因を少し分析しなければいけないというのが、一つ大きな課題です。

定員を確保できても学力的にはどうなのだろうかということなのですが、学力的には正直なところあまり変わっていません。ずっと横ばいです。推薦で入って来ているもの、それから体験で入って来るもの、それから学力。学力に関しては、S科とM科は同じくらいだったのですが、今年は多分データをしっかり見ていませんけれども、M科は少し上がっているはずですが、S科はちょっと下がっているかもしれません。I科は多分かなり上がっている可能性があります。I科は常にキープ

この辺のところ3つの入試を持っているのですが、これをどうするかっていう問題もこのデータからちょっと考えないといけないなという部分が出てきます。実際に学力で入ってくるもの、入試ですが、これがここ350点までしかないですが、実際には500点満点です。これが制御情報、これが電子機械、これが商船学科です。ですからちょっとこれが下がっている。M科は横ばい。I科はちょっと上がっている。

そこでですね、優秀な学生を確保したい、定員を確保したいというので今までの入試制度がよかったのかどうかこの1年間色々検討させて貰いました。どうするか。これまでは例えば推薦と体験と学力。学力は今までどおり行うのですが、この2つをどうしましょうかということなのです。

推薦については内申書ですね。これが合計96以上あれば一応志願できます。

体験の方はこれ全学科で行っていて、1年から3年生までの合計で81以上あれば望ましいです。要するにオール3以上ですね。但し主要5科目については3以上。2、1があつてはいけないという条件でした。これの縛りはどうしましょうかねということを考えて一つには1年生の内申書を入れると2年生、3年生で目指す学校ができて頑張ってきた学生を獲得できないというのが内情としてありました。

ということで、推薦を2つにします。これ、次年度からこれにしますが、推薦Aというものです。2年生と3年生のやつが72以上あればいい。要するにオール4以上あればいい

い但しその中に 2、1 が入っているのはダメですよ。書類としては理由書と推薦書を出させて、選考としては書類選考と面接を課す。推薦 B の方ですが、これは 62 以上です。平均が 3.4 ちょっくらいですかね。但し、2、1 がやっぱりあってはダメですよ。書類は一緒です。此处で A との違いは何かというと作文を課すということです。要するに作文を課すということは理論的な思考力があるかということを見たいということでこれを課します。

あと、体験をどうするかということですが、工業系 2 学科は止めます。商船学科のほうは、これはどちらかというといろんな人間力が問われますので、これは体験を入れましょうと。これは残しましょうということでやります。今、工業系 2 学科と言いましたが、ちょっとその辺は改組がありますので、また後でお話します。

高専機構本部からいつも突っつかれるのですが、「留年を無くせ」と言うわけです。原級留置っていうのが正しい言葉ですが、平均よりも多いパーセンテージ。多いので、またこれは何かを言われるかもしれません。最近こういうことになると高専機構は学校にペナルティを課すので、そうすると予算を減らされるって可能性もあるのですけれど。

退学。退学は一応平均を下回っているのですが、実は、今年度末のデータからすると両方とも実はちょっと上に上がるかもしれません。そういう問題もちょっと出てきました。というのは進級制度を 27 年から変えたのですけど、どうもその影響が出ているのか学生の指導がきちんとできていないのかその辺もやっぱり分析しなければならないという問題が起きてきました。

あと就職ですね。就職はほぼ同じ形で行っていますが、此处でやっぱり一つ悩みの種は進学率が非常に本校は低い。出来ないのではなくて、希望する学生が少ない。ということで実は、此处をセールスポイントに出来ないというのがちょっとネックになっています。工業高専だとそこを売りにしている学校もたくさん出て、本来それを売りにするものではないのですけど、呼び込みとしては一つのセールスポイントになるのでこの辺をちょっと上げたいなという気はしています。

満足度アンケート。これをとりました。実は 2 年に 1 度か 3 年に 1 度やっているのですが、まず就職先、進学先に学生を送りこんだところですね、どういった力が重要ですかっていうのを聞いています。そうするとここの下のほうです。協調性、積極性、責任感、リーダーシップが結構重要だと考えていますっていうのが結構あるのです。これに対して、身に付いていますかというのを問うたらリーダーシップに至っては身に付いているっていうのが殆どない。此方もちょっと低くなっているのですね。ということは本校が送り出す学生に身に付けさせる力としてこの辺、特にリーダーシップなんかはもっと何らかの形で付けさせないと不味いのかなというのは此处から見えて来たということです。

これは、卒業生とか専攻科でいうと修了生に対してとったアンケートです。本校で学んで良かったですかということを問うとそう思いますとこれはまあまあ。学校としてもほっとしているところで良かったなど。

この次なのですね。学校で学んだことが役に立っていますかと問うと、そこそこなのですけど、気になるのが、あまり役に立っていないっていうのが、16 パーセントもある。これは学校としても不味いなというのがあって、此処をちょっと考えないといけないなというのがこのデータからちょっと見えてきたところです。あと実際にいろんなものを聞いているので、ちょっとそれを分析してみないと分からないのですが、ザクッというこういう傾向です。

教育改革に着手ということで前年度 3 室を今後立ち上げますという話をしました。意味合いとしてはこういうことです。入学生の基礎学力が低いとどういうことが起きるかという当然学業不振。先程言った留年、退学が出てくる。生活の乱れ。懲戒っていう凄い言葉を使っていますが、こんなのが出てくる。将来何になっていいのか分からないというのが入ってきますからミスマッチ、学業不振。じゃあ、どうすればいいのって。確かに入学志願者のレベルを上げれば良いのですが、そう簡単にはいかない。それではどうしましょうか。一つには先ほど説明しましたとりあえず新入試制度を導入していきましよう。ただし問題はこれがいつも残ります。定員確保できるのか。これは常に問題としてあります。

あと学びの魅力がどうなの。要するにうちの学校として勉強することに魅力があるのでしょうかということを考えると今のままではどうも不味いというかもっともっと改革していかなければならないということで学科改組を考えましよう。入学させたあと、どう育てるかということで積極的に取り組んでいく必要がある、ということでこの 3 つを昨年度というか今年度立ち上げました。

学習推進支援室。学生の力を付けましよう。勉強の力を付けましよう。教員の質を上げましよう。キャリア教育。要するに入ってから出ていって、社会への架け渡しをどうやるか。きちんと学ばせましよう。グローバル。此れはどうしても高等教育機関である以上、今はこの国際性というのは問われるところなので、どうしてもこれは身に付けさせる必要があるということで、この 3 本柱を走らせて、学生をより良いものにして出してあげたいというわけです。学習推進支援室です。実際に部屋を設けて、室員を設けて学生に対応していくというのをずっとやってきました。いろんなことをやっています。ダメな学生を呼んで勉強をさせたりとかいろんなことをやっています。教員のほうもやっています。教員も教えるほうも質をあげないといけないので、実際に授業を他の先生に見てもらって、意見をもらって、それを担当の先生にフィードバックするというようなことも今年から始めました。

それからいろんな FD。先日も AL に関する FD をやっています。次年度も同じような方向で少し改良しながら今年は初めて立ち上がったので、どの部屋もそうですけれど、試行錯誤という部分があるので、この 1 年を振り返って、来年どうしようかというのは計画しているところです。

キャリア教育推進室。これは入ってから卒業するまで、これは専攻科の部分も入っていますが、キャリアデザインをどうするか。そういったところをいろんなものを組み合わせながらやっていきましょう。この関連性を見ながら、例えば授業の中にどう組み入れていくかっていうのはこの部屋の大きな仕事になっていて、その辺で今年1年、いろんなところを見渡しながら今後どうしていきましょうかというのを考えてもらっています。多くは2つ。社会人基礎力をつけさせるのと就職力をつけさせる。このために授業の中にいろんなことを組み込んだり、講演会をやったり、セミナーをやったりというのをやってもらっているところです。

これは就職支援セミナー。今年実際やったときの写真です。もうこれ以上企業が増えるといえなくなるかなというような状況になっています。次年度も同じようなところでやっていきましょうかというのが。

それからグローバル教育推進室。ここは国際交流授業としては、今年度これだけの授業を展開しています。この中で学生が実際に行かなかったものもあるのですが、一応学生に提供しているものはこれだけあるということです。

例えば MEL キャンプ。これはシンガポールに行かせるものですね。

それから SMA。これはシンガポールの学校からうちの学校に来て鳥羽丸でいろんな訓練をしたり、交流を深めてもらうという事業です。

それから KCC。これはハワイのカウアイ島に学生を送り込む。これは商船系の学生だけですが、伝統文化だとかを学んで帰ってくるというものです。

それからオタゴ・ポリテクニク就業体験。これはニュージーランドのポリテクですが、実験などをして研修をしてくるというので、本校からは2名。これは今年初めて行われたものですが2名参加しています。

あとは高専生のための英語キャンプ。これは熊本高専が中心でやっていますが、本校からも1名参加。これは SP プロジェクト。これはシンガポールから学生がうちに来て、実験室に配属されてゼミ形式で取り組むというもので、現在3名来て実際にやっています。

それからプログラミングチャレンジ in シンガポール。これも実際に本校から専攻科生が1名参加しています。それからトビタテ！留学 JAPAN。これが大学生向けと今、今年から高校生向けができて、主に高校生向けのほうで本校が頑張っていて、トータル4人採択されて行きました。大学生向けのほうでも1名合格して行きます。今16名の高校生コースが申請中ですが、さきほどちらっと聞いたら6名が一次試験を合格したという話を。あと、せっかく行って、いろんな研修を受けてくるので学内で報告会をします。今年は2回行いました。これはほとんど行った学生は英語で全部報告します。

あと今年はじめて校長の発案で TOEIC 特別対策講座を開きました。結構50名近くの学生が集まって行なったというものです。今後も続けていく予定にしています。あとは来年もまた同じようなプログラムを走らせる予定です。平成30年度も、同じプログラムを基本的にはやりますということにしております。

さて、“KOSEN（高専）4.0”イニシアティブですが、校長のほうから話がありました。が、簡単に言うところの新産業牽引する人材、もしくは地域に貢献する人材、それから国際化を促進するようなこれのどれかを特化してもいいですし、これ3つを組み合わせてもいいですが、この3つがキーになるような企画を考えなさいということです。

本校は、このうちどこに特化したものをだしていったかという、基本的には地域への貢献です。この辺を打ち出したということで、今年度採択されたのがこれになります。先ほどこのタイトルだけを校長のスライドにあります。簡単に言うと1年生のときにプログラミング教育というので、理論的思考力を植え付けてその上でいろんな専門のところに行って勉強をして最終的にはここに書いてありますが、特に県内ですね、三重県で活躍できる人材を排出したいと。地域に根ざした学生を排出したいということで採択されたものです。実際にこの1年間の成果としては、先日このタイトルの通りでこのフォーラムを開催しました。発表いろいろ報告がなされています。基調講演は三重大学の坂本先生にお願いして、学生の方からは事例報告が8件、ポスターセッションで23件出してもらっています。ですから結構いろんなことをやってもらいました。

ということで実は今の4.0イニシアティブは何を目指していたかという実は学科改正につなげたいというのがあります。その助走として4.0イニシアティブを申請してお金をもらっているいろんなことをやってきた。

どういう学科改正を目指しているかという、基本は一緒です。要するに地域に根ざした、地域のために、地域のことを考えて、地域で活躍できる人材を育成したいということです。だからここに書いてありますが、いろんな地域産業への貢献。

それから本校が得意とする超スマート社会に対して対応する力をお助けすると。なおかつ、場合によっては三重県内で企業を起こすような学生を育てたい。なおかつ、そのためには高専に来る前の小さな子どもたちにもアピールしていく必要があるでしょう。というようなことでこういったことができるような学科を作りたい。ここにいくつの履修モデルと書いてありますが、簡単に言うとうちの学校にとりあえず入って来て、そのうちどういものが自分にあっているかを見つけて、いろんな選択肢を持たせて、いろんなカリキュラムをその本人にあったようなカリキュラムを組んで育てたいということにあります。ですから、この辺のところで基礎的な力をつけさせてとにかくやらせてみて経験させる。理屈はともかく。なんでそうなるのっていうのは上で考えればいい。とにかくやってみて体験させるということをやったその後になぜそうなるかを考えさせれば良いのじゃないの。ここでもって、自分に何が向いているか、何をやりたいか決めて行けばいい。こういうようなカリキュラム構成を持っています。

校長の話にもありましたが、次年度と2つ一応。今のはもう1年継続する予定ですので、新しい2つ出す予定です。1つは今の延長線で特に三重県、県とそれから県内の産業界との結びつきを強化させていろんな人材創出をプログラムに組んでいくと。特に三重県が力を入れているのが、航空宇宙産業、医療、福祉、農林水産、食と観光というのもある

んですが、食と観光というのは、うちはちょっと厳しいかなというのがあるので、この辺のところで活躍というか支援したり、一緒にやっていける分野があるだろうということ、こういう新産業創出人材。これをキーの一つ出しましょう。

もう1つは先ほどグローバル教育推進室の話をしていましたが、英語。いろんなプログラムを本校で組んできました。ということで個々の学生に応じてきちんと学びのプログラムを作ってあげましょうということで、そういったものを構築するようなプログラム、企画をもう一つ出そうと。ここはいろんなことが書いてありますが、レベルに合わせて、学年に応じて、次このランクね、このランクねというようなことを、もしくは君だったらこういう研修に行ったほうが良いよとかいうのを作り上げてやるというものです。この2つを一応申請予定にしております。

それで、連携していろんな教育改革というか教育改善をやっているのですが、昨年度まで海事人材育成プロジェクトということで、5年間で、5校で取り組んできたものがあります。それを引き継いだのがこの次世代海事人材育成プログラムです。これも5校で取り組んでいます。上に長ったらしいものを書いてありますが、これの下の一つとしてこいつがあって、もう一つ商船高専をPRしましょうというのがもう1個別のところで走っています。今までやってきたことを継承して、もっと学校の中の仕組みに実装していくと、教育に。そういうのを目指すと。あと連携のところですが、鈴鹿高専との連携。先ほど校長のスライドにありました。明後日、また連携協議会があるのでそこでいろいろな協議をして今後に向けていく予定にしています。

それから先ほど和歌山高専との連携、校長の話にもありましたが、海をキーワードに災害時の支援を含めて、研究もこういった分野でやっていきたいと思いますということで、今協議をして協定を結ぶのかな。そういう方向で今科研費を出しながらやっているところです。それから地域との連携、貢献ということですが、三重県教育委員会。これは一昨年からやっているところで、三重県とは三重県工業研究所、それから三重県自体と。いろいろな話をしながら意見交換をしながら協力体制を作りあげていっているところです。鳥羽市とも3月28日に包括協定を組むことになっております。

あと三重大学が中心にやられているCOC+という事業に本校も参加していて、要するに地元でやっぱり貢献できる学生を地元に残しましょうということです。ということで、三重創生ファンタジスタという称号を与えましょう。一定の単位を取れば、これを与えますよということでやってまいりました。本校もこれに参加していて、こんな広告をうちながら、新年度はもっと違う広告なのですけど、こういう広告をうちながら、本校ではここに書いてありますが、ちょっと小さくて見えませんが、この中から何時間単位を取ればいいよと。無事に本校は一応11名ファンタジスタが誕生することになっております。ただ、このファンタジスタをどう使うのかっていう問題もあるのですけどね。これは山本先生に聞いたほうが早いのですけど。

あとは、高等教育コンソーシアムみえというのが立ち上がっていて、これにも本校が参加していて、ここで行われている企画ですとか勉強会に参加させてもらっているということです。あとは学生の活躍ですが、これは皆さんに配ってありますし、それから今日お配りした学校だよりの中にも出ていますので、そちらのほうで見て頂ければと思います。そちらのほうにも写真も全部入っておりますので、ここでは簡単に見せて省略させていただきます。以上です。有難うございました。

【井上議長】

石田先生どうも有難うございました。

前回と前々回とここの説明の時間が非常に長いので意見交換に全然時間が取れなかったこともあったので、ちょっと石田先生には迷惑であったかもしれませんが、資料を事前にお配り頂いて認めて頂きながら要点だけを説明頂くというふうをお願いした経緯があります。それなので、大分切り詰めてやって頂きました。よく分かりましたが、有難うございます。委員の方々、まだ要点的に誤解したりとか質問等、意見等あろうかと思うのですが、ちょっと休みまして、その後、質疑ということにさせて頂こうと思います。今 30 分ぐらいですかね。40 分から再開させていただきますので、ちょっと小休止させていただきます。よろしくお願いします。

(休憩)

【井上議長】

ちょっと 1~2 分早いですけれど、時間も押していますので進めさせていただきます。ただいま石田副校長の方からの説明について何か質問等ございましたら、まずそこからお受けしたいですけれどもいかがでしょうか。

【藤川委員】

よろしいでしょうか。

【井上議長】

どうぞ。

【藤川委員】

先程のご説明の中で、選抜、入試制度が 3 つあるというふうにご案内があったと思うのですが、推薦と体験と学力。その選抜のされ方によって生徒様の並びの度合いというのはどういう感じでしょうか。

【石田副校長】

やはり推薦、一応本校 3 つ試験があるのですが、基本的にやっぱり推薦が一番取りたいな。というのはやはり推薦で入ってきた子はやっぱり優秀です。なので、あまり躓くことなく進級して卒業してというのが推薦で入った学生ですね。

体験で入ってきた学生はまちまちですね。やっぱり学力もまちまちなので、本当にやる気のある子はそれなりに伸びていきますけれど、やっぱり学力がちょっと足りなくて、やる気はあるのだけれど、勉強の方がついていけなくてやっぱり途中で落ちていく子というのは何人かいます。

学力ですけれども、やっぱり学力の学生も体験と一緒にですけれども、やっぱり一番成績を見ると一番下の方に来るのは学力で入った子か体験で入った子ということで、実は今体験と推薦で定員の 85 パーセントでちょうど取れることにしています。そうすると 34 人がそれで来ますのであとの 6 名を学力で取るといっぱいになってしまいます。現実にも今年も形的には電子機械と制御情報は 6 人～7 人学力で確保すればいいという形になります。そうなってくると意外と優秀な子も入ってくるのですが、そうでないと商船学科は実は 85 パーセントまで満たなくて、結構学力で取らなきゃならない。そうなってくると結構レベルの低いところの学生まで取らなくてはならないというのが本校の実情です。そこを何とかしたいなということでいろいろ試行錯誤していて、新年度からあのような形で少しやって、今までの推薦のレベルには達しなかったのだけれど、来たい子を推薦で少し取りたいなと、そこで確保したいなというのであいうシステムに変えたというのが事情です。お答えになっているかどうか分かりませんが。

【議 長】

よろしいですか。他にいかがでしょうか。私の方から一つ。先ほど学科改組というのがあって、情報機械システム工学科と書いてあったのですが、あれは本校の既存の工学系 2 学科をあいうふうにしたいということでしょうか。

【石田副校長】

そういうことです。

【議 長】

そのときに、何年か前にその関連の議論のときに、校長先生から藤田先生だったかな。本校の学科改組は高専機構からの指示待ちだとおっしゃって、勝手にやるなといわれているとおっしゃって、それならがんじがらめですねというようなことを言ったような記憶があるのですが、今は大丈夫なのですか。

【石田副校長】

実はそこに触れなかったのですが、実は学科改組、今新学科と説明しましたけれど、実は高専機構の認可が必要です。機構本部というか文科省がゴーサインを出してくれないとできないのです。現在一応出しているのですが、実は正直なところ今ゴーサインはまだ出ていません。棚上げ状態というか。実は今日も「こういうところ直せ、こういうところ考え直せ」みたいなのがきていたので、ちょっと高専機構の方がこういう改組を希望しているので、文部科学省にお伺いを立ててというのがあったのですが、こういうことを言っているかどうか分からないのですが、これまでは今のような学科改正だと実は結構通っていたのですが、実は去年と今年、なかなか学科改正はどこの学校から上げても通らなくて非常に困っているというか、うちだけじゃなくていろんな学校で「今までこれで通っていたのになんでダメなのだよ」というのがあってですね、ちょっと戸惑っているところはあるのです。とは言え文句を言っても仕方がないので、なんとか通る形に整えてやりたいなと思っています。ただ、その改組がもし認められなくても既存の学科を2学科ありますから、それを例えば一緒の選抜をして入ってきてからいろいろなモデルに入れ込むという方法は別に改組しなくてもできるので、そういう方法を取らざるを得ないかなというのも内々では今議論しています。

【議 長】

はい、よく分かりました。他にご質問いかがでしょうか。先ほどのプレゼンテーションに対するご質問はだいたい他にないようですので、今から鳥羽商船高専の内容充実、さらなる将来発展に向けてご意見等を承りながら、できれば質疑応答という形で意見交換して頂きたいと思うのです。どちらからでも、どなたからでもかまいませんので、ご発言頂ければと思います。

【藤川委員】

口火を切らせて頂きます。先ほど少し報告を頂きました卒業生に向けてのアンケートというものをやってどういうターゲットにいかしていくというお話があったのですが、そのアンケートというのは卒業直後の学生さんに取られたのですか。

【石田副校長】

卒業するとき、もしくは修了するときにとります。それと就職してから3年目にもとります。

【藤川委員】

私が聞きたいのは、就職されて企業でのご経験をある程度積まれて、自分のやるべきこととかこういうことをやってみたいなというのが見つかった学生さんから、では高専生の

ときにどういうことを学んだほうが良かったですね。もっとこういうところを学びたかったですねという内容を汲み取ればまた違った答えが出てきたりするのかなですね。

【石田副校長】

実はアンケートの中にはそういう項目も入っているのですが、今日はちょっと時間の関係でお話できなかったのですが。

【藤川委員】

追跡調査は難しいですけどね。

【石田副校長】

そうですね。最近これを纏めたばかりで、中身を全部綺麗に見ていないのでなんとも言えなくて、今日はとりあえずせっかくあるデータなのでザクツとした所だけをお見せしたという。今言われたような内容をアンケートの中には入れ込んであります。それがどう出てくるか。

【藤川委員】

例えばある程度絞り込んだ専門的な教育に対するレスポンスがいいですか。それともベースになって育つとか社会人としての能力の学びが役に立ったというそういうレスポンスは返ってないですか。

【石田副校長】

人間力というか、社会人基礎力というかやっぱりその辺に関しては、結構良かったというのがありますね。ただ、やっぱりうちの学校で学んだ専門的な知識が実際に社会に出て役にたっているかというところは中々難しいところだと思います。まだちょっと綺麗には見ていないので分からないですけど、ただ社会人基礎力を身につけるのに、なんでうちの学校の何が良かったのかっていうのが中々見えてこない。例えば授業なのか。実際に授業でというのは難しいと思います。例えばクラブ活動なのか、寮生活なのか、友人関係なのか、もしくは出会った教員なのか。その辺のところが見たいのですが、中々アンケートとして出そうとすると難しいところがあって、今後はその辺も考えていかなければならない。

【議 長】

他にいかがでしょうか。

【山本委員】

今のお話をされたこと。昨日、一昨日辺り三重大辺りでもそのことが問題になっていて、やはりいろんな関わり、教育をするからには、学生が、こちらが期待するより変容してもらいたいと思うわけですね。到達度のようなものも設定するので。それをどういふふうに見ていけばいいのか。評価していけばいいのかということで、教育力^力のところがプロ語というリテラシーとかそういうものを評価する外部で作られた新テストみたいなものがある、それに基づいて変容を見ていこうということで調査されてその結果が示されたのです。変化ということだけ見ると上向きの変化をしているというような結果は得られるのです。今、先生がおっしゃったように本当に授業が影響しての変化なのか。われわれ教員と関係ないところで、高専の生徒さんがバイトの状況を知らないのですが、バイトでそこでいろんなことを学んだことなのか、どういう学生を取り巻く教育活動環境のどういふファクターがどれくらいの比率関係で見たらみたいなのを探らないと本当の変化が出てこないということになっていって、面倒くさくなって、どうすりゃいいんだみたいなことになるのです。やっぱりそのところがはっきりしないと、もう一つ、高等教育に言われているのは、PDCA サイクルを回しなさいと言われていて、自分もその立場にあるのですけれど、一番はPD、目標を立てて、実際の活動、授業を組み込んでチェックはするのです。ネクストアクションです。次の改善行動というのが一番重要だろうと思うのですけどなかなか明確に絞り出せない。やって満足して、高くなったらこれで良いかみたいところで終わってしまっているというところがあって、やっぱりPDCAのAのところを一番重要視したときにどうするかということだし、一つの学生の変容のようなことを見ようとするとやはり言われることですが、複数の手法で見る。それを丁寧にやっぱり分析というか、我々の分析力ということが最終的に問われてくるのかなということが一つ。それから三重大は2〜3年かけて入試もWebでの出願に変えようとしているのですけれど、それから卒業のアンケート、高校の後半から就職の前半までを三重大の教育の営業域みたいところで捉えて、エンロールメントで適時いろんな調査をやったり成績が出てくるので、それを高等保有で積み重ねていってそれをしっかりと個別に分析できるように、そういうシステムを作っていこうと。どこまで確保できるか分かりませんが、そういうようなことをやらないともうそろそろ外部からの達成度合いみたいなことを言われて、それに答えていくことができないのかなというふうに、なのでネクストアクションを作るために今何をわれわれがやっているのか、やりきれているのか。そこを自身の分析も必要かなと思っています。

【石田副校長】

有難うございます。科目の学びの定着をどう見るかっていうのは、例えば高専ですとモデルコアカリキュラムというのがあって、それにしたがって到達度を設定して見るようにしているので、例えばこの科目の勉強はどこまで到達したのかっていうのは比較的に見やすいですけれども、もう一つ、分野横断能力。先ほど社会人的基礎力みたいな言葉を使いま

したが、これもやっぱりモデルコアカリキュラムの中にあって、そういう力をつけさせなさいというのがあるのです。そうするとどういった方法で今山本先生の問題もありましたけれども、どこでその力を実際に学習してつけさせるのか。それも分析しなければならないし、もっとつけさせるために何をすればいいのかというのなかなか絞れないというか、見つけにくいというのもあって、今も若い連中に対してはそこが求められているので、それをいかに力をつけさせて、それをどういう指標で図るのかも含めて非常に教育現場としては今山本先生のお話にもあったようにいろんなものを取り入れながら見ていかなくてはいけないですし、実はそういったところもやりましょうというので、本校が以前加わっていたプロジェクトでもそういうのをやって業者のテストをやったりなんかしてきてはいるのですが、なかなか見るのは難しいというのが現状だなと思います。今後考えていかなければならないことではあります。

【山本委員】

三重大、700 人もいますので、一つの号令をかけても全然響かなくて、動かないのですけれども。学生の力を高めたいということなのですが、だからといって、学生ばかり見ていていいのかなと思うのです。ものすごく極端な言い方で防衛に近いのですが、生徒がここは足りている、ここは足りていない、いろんな状況があったとしてもそれはわれわれ教員が日常側にいない結果そうになっているわけじゃなくて、絶えずいろんなところで教員が関与しているわけです。教育という場面が色濃く学校生活の中であっての結果として、何か足りないとかまだまだだということだとしたら、やっぱり我々の教育の営みの一つの現れでしかないと。我々の姿勢がそのまま生徒に反映されているというようなシビアな見方もできるわけです。

まずは、ここにも色々ありますけど、FD とかなんとかで、生徒を変えたいからこそ、教員相互が自分の教育の営みを考えてみよう。俺たちがやる気とかやっている姿勢を見せれば、「すげえじゃん、先生達は」みたいなことになって、伝わっていくのじゃないか。

「お前達、お前達」って言うから逆に学習意欲を阻害しているかもしれないし。なので、教育力ということを前面にもうちょっと掲げて、来年度以降は総スカン食らうことは覚悟しているのですけど。教員の教育力と言ったらとんでもないことになると思いますけど、そこもちょっと大切かなと思っています。

【石田副校長】

山本先生のおっしゃることは、まさにその通りで高専の場合は学生数も少ないですけども、教員の数は結構いるのです。結構少人数を相手にするというか、先生方をよく見ているのですよね。見えるというか。そういう意味では教員のほうが今言った学生に対する、教育に対する姿勢が見られているので、そこをきっちりと心から見せてやらないと多分学生は本当に成長しないのだと思いますし、非常に耳の痛い話で、その辺のところも私

の立場としては教員に対してそういうことをもっともっと声がけをしなきゃいけないのだなと思ってはいるのですけれど。難しいですね。

【議 長】

そうですね。海事社会の未来は5商船高専という教育機関があります。あったというか、あります。特に商船高専の先生方というのは、研究も重要ですけど、教育のやり方、またはそれに対する向き合い方というのは、大学の先生よりも優れているべきだと思っているのです。オープンを見たときにやっぱり商船高専の先生方は大学を見過ぎではないか。

大学は大学。商船高専は商船高専だというふうに割り切って、商船高専の教育者としての資質を高める。そういう考え方を邁進されると区切りがついていいのかなと思ったりしたのですけどね。商船高専の先生も教育、研究というのが冠につきますから、どちらが重きをおいてというのが難しいかもしれませんが、私の見方としてはやっぱり商船高専は教育者の鏡である。大学は研究の鏡を磨いて頂ければいいわけで、どちらかと言うと、いつぞや申し上げたと思うのですけど、商船大学の先生と商船高専の先生の人事交流みたいなものがあつたらいいのになということを申し上げたかと思うのです。それで商船高専の先生が大学に出向しているときは思い切り研究をすると。商船大学の先生が商船高専に出向しているときは、思い切り教育を勉強する。そういうような交流があつたら両者がうまく相まっていい方向に行くのではないかと思ったときもありました。今はだいぶ環境の変化もありますので、それが即、実行可能かどうか分かりませんが、基本的に商船高専の先生方は教育に対する姿勢の重要性、または可能性というものを期待したいなと思っています。

他に同窓会とか後援会のほうから何かございませんか。

【鳥山委員】

私は後援会で学生さんを支援させてもらうという立場、父兄の立場でしかありませんので、普段からもう学校側にも感謝の気持ちしかありませんので、別に特に何もないというのは本音のところなのです。

【議 長】

感謝も重要なのですけど、この場に来られたら、辛口で校長先生になんでも言われた方が良くと思いますけど。

【鳥山委員】

校長からお話があつたようにいろいろ学生さん、活躍の中でプログラミングコンテストであつたり、カウアイ交流のウェブキャンプも来週から参加させてもらうことにもなりまして、長男も4年前に卒業させてもらって次男がお世話になっているのですけれども、

ここがあつての息子たちだというような感じにしていますので、もう全然今の現状で十分なのに、まださらに高めていかれるということだったので、今後希望される生徒さんは大変だなと言うけど、逆に感謝していますけど。

【議 長】

分かりました。同窓会のほうから何かご意見ございますか。

【菅沼委員】

今日初めて参加させて頂きまして、初めてうちの学校の内容がよく分かりまして、本当に校長先生、石田先生はじめみなさん、本当にこれは大変だなと。

こんなたくさんの方を 90 名そろそろの先生方でやるのかなと正直愕然として拝聴しておったのですが。私どもの時はご存知かと思いますが、全寮制、機関学科と航海学科しかなくてですね、何の苦労もなく就職できるような社会情勢で、商船学科と言っても就職とか全然心配してないのですよ。いろいろ情報ももらっていますので、恐らく見直しがきつとかかるだろうと言うことなのですが、問題は電子機械、制御情報の学生諸君がこれから社会に出たとき果たして通用するのかなと正直思うのですよ。それは奇譚のない意見で言いますと、私の会社は 100 人ちょっとの会社なのですが、トヨタ系、車系の会社を重点的にやっているのですが、だいたい聞きますと、別にうちの当然現場環境でもそうなのですが、現場止まり。はっきり言うのですね。私は興味があるものですが、とにかくこれからは日本人が抜こうと思ったら、先端技術しかもうないのだと。

私ライフワークが 3 つありまして、その一つが実は最低 50 人インターンシップを受けようと決めているのです。身内に小中学校、高校、大学生といるのですが、共通して言えるのは、全く作法とか箸の持ち方も知らん、大きな声出せん、神社参拝のやり方も知らん。それから私教えますと、就職選ぶときにはこういう観点で見なさいよということを自分なりの解釈で教えるわけですね。私は自動車関係の仕事が多いものですから、2 年前から学協組合のスポンサーになったのです。学生さんたちというのは、「なぜ」って言うんで担当教授が「お前ら定年退職する時にそんな会社行ったらなくなるぞ」っていうんですね。そういう目で見ますと電子機械とか制御情報というのは、これから間違いなくなるでしょうね。電子機械、制御情報の子たちがどういう方面へ就職するんだろうと非常に気にかかることなのです。ですから、先生方、教官方におかれましては、学問もそうなのですが、卒業するときただ卒業すりゃいいのだ。その卒業生が行く会社が果たしてどうなるかというこれを見極めるのはむしろ私たちの良き仕事です。現実、社会にでていますので。私は同窓会会長としてなるべく電子機械と制御情報の学生さんとの接点を持ってですね、私の体験、私の知識、こうしたらええよということを少しでもかわいい後輩に伝授したいし、先ほど校長先生もおっしゃられましたけれど、江崎さんをなんとかしてでも副会長に引っ張ってきまして、電子機械、制御情報の面倒を見てください。私たちは商

船学科のほうなんですけれど、どんどん数が減ってきます。これからは、もう電子機械、制御情報の出身の方たちがこの学校を形成すると思いますので、今日の同窓会長はこれから多分出るだろうなと私は考えております。そんなわけで本当に先生方の苦労が大変だと。尊敬と敬意とある意味同情ってそれは優秀な学生さんなんて取れっこないですよ。優秀な子なんて来ないもん。この状況だったら。私たちのときは社会的な情勢があったから、もう本当に0.1点点数が違ったら、クラス順位がぼんと下がるくらいだけど、今恐らくイシダ先生なんてものすごく幅があると思うんですよ。だからそれは大変だなというのはつくづく思いますけど、同窓会といたしましては、とにかく学校の先生方の意向を少しでも反映させて学生の進路のほうですね。ここほど世の中に差があるものはありませんので、残念ながら。それよりも学生たちが社会に出るに当たって先輩はこう考えてますよと。こういうことはやってはいかん。こういうことはやりなさい。あいさつの社会にいくとです。どんな会社に行ってもきます。トヨタ自動車に行ってもあいさつを看板に貼ってそれこそできないことだなと。大きな声出して返事をしなさいと言ってもほとんどできない。そういうことを会長としましては、かわいい後輩のために尽力したいなと。学問のことにつきましても先生たちはプロフェッショナルですので、私が作法を。社会の常識、非常識。社会で知られていないこと、言うてはいけないこと。例えば日本はウォシュレットはもう世界でトップクラスだけどそれをいうと日本の産業干されちゃいますので、それは知らん話にしますと話ですよ。もう一つ、3つ言いましたので、もう2つは私は見合いとか結婚の相談とかやっているんですね。損得勘定抜きでね。9組くらいまとめましたわ。うちの学校の先輩も1人まとめて。それともう1つはフィルターニングをやってましてね。うちの学校くるたびにあそこによあんな携帯電話みたいな立てたなと思うんですけど。ああいうことは絶対やってはいけないことだと思うんですね。ですから、同窓会長といたしましては、学問のことは分かりませんが社会的なニーズにあったことを少しでも先輩として教えることができたかなと考えていますので、どうぞ本当に同窓会長、頼むってやってくれと言われたらやりますので、私責任持って。遠慮なく言って頂きます。すみません。同窓会でなんとかこれを出して欲しいんですけど。そこもなんでも承るよういたしますので、親密に学校、同窓会、学校の先生方と二等辺三角形で私ら考えておりますので、どんどん同窓会にもご意見、ご要望、苦言、提言をたまわりたいと本当に改めて思います。よろしくお願いします。

【議長】

力強いコメント頂きました。有難うございました。出席の委員の方々から一通り発言頂いたので、学校側のほうから何かここをもっと議論して欲しいというところがございましたら。特にございせんか。

【林校長】

よろしいですか。今学校としてというか校長としてやらなければいけない仕事があるのですけれども、とりあえず優先順位をつけてこなそうとしています。

その一番トップは募金活動。例えばこういうことをやりたいとかやらしてくれって言われてもほとんど原資がない。校長裁量経費というのがいくばくかあるのですけれど、実は私、去年の4月1日に着任したときに事務部長から「校長裁量経費はもうゼロです。行き先決まっています」ということで、そういう先生方からこういうことをしたいと言われたときも無い袖はふれないということでありましたので、企業さん回りをして、ほんの少しでもいいから募金活動をしたいということで一応収支を作らせて頂きました。あとは私が足で稼ぐというか3月中にできるだけ多くの会社を回りたいなというふうには考えております。

それと一方で、教員の労働、負荷を下げたいということで、今実は本校で一番労働がかかっているのは学生指導です。生活指導。もちろん勉強のこともありますけれども、そこが一番大きい。その辺は51高専の中でもかなり労働が大きいほうにはなっているのかなという、正確には分かりませんが。といったところで、できれば寮の当直アウトソーシング、それからクラブ活動のアウトソーシング、顧問のアウトソーシング。そういったところを積極的にやって、できるだけ先ほど言われた教育に特化した、学生指導に特化した

そういった先生方の仕事を寮の指導から手を引くとなると結構そういった早めの指導ができなくなる恐れがあるんですけれども、先ほど言われた教育に力点をおいた仕事をやって頂きたいということです。それとこれは私の持論ですけど、よりよいなかなか最新の情報が提供できないというそういうことがあって、教育と研究というのは私は基本的には切り離していないという、結構それでこの11カ月教員の先生方にもかなりプレッシャーをかけてしまってるんですけれども、ぜひ教育でがんがん押せって言うわけではないんですけれども、最小限度の研究をして頂きたいということで、科研ぐらい出してねということで、科研の採択率はまだ分かりませんが、提出率はかなり上がりました。6割ぐらいから9割近くまで上がったということで、一部なかなか振り向いてくれない先生方もいらっしゃるんですけれども、今までもしていたんですけれど、そういったことを推進していこうということで、先生方にはかなり負担になるかなというのは常に私がそう言われたらどうなんやろなというところもあって苦慮しているところなんですけれども、先ほどちらっと言った学生の偏差値と教員の偏差値は強い相関があるというこういう研究も教育関係の学会でも言われていますので、その辺りもきちっと対応していきたいなというふうに考えています。まとめではないんですけれども、とりあえず私の意見です。

【井上議長】

募金のお話はまさに同窓会の方のご協力を得て連携されると解決つきそうですね。

【菅沼委員】

今、会費を集めることに必死になっていまして。1年間ずっと働いてきたのですが、だいたい分かってきましたので2年目からはちょっとそっち方向へ、財政強固をやろうと今考えているので。お金は絶対だと思いますので。

【井上議長】

ご支援よろしくお願いします。

【林校長】

私が一番同窓会に期待しているのは、商船学科の勧誘。菅沼会長にもお話したことがあるんですけども、三重県内は報告にあった通りかなり足を使って綿密な情報提供を中学校にしているんですけど、それは一歩離れてくるとだんだんその情報が伝わっていないということでせめて東海地区から関東にかけての太平洋側の府県ですね。それから近畿地方の西の方も含めてですけども、同窓会の会員の方がいらっしゃると思うので3人なり5人なりのグループを作って頂いて付近の中学校に情報を提供して頂きたいというふうにお願いをしているんですけど、いかんせんお渡しする足代もないということで、強くはお願いできていないんで、そういったことも含めて原資を確保しながらご協力をお願いしたいというふうに考えております。

【菅沼委員】

承りました。

【井上議長】

同窓会としての観点からご協力をよろしくお願ひしたいと思ひます。いくつか校長先生から本音の吐露がありましたけれども、これは学内問題でもあり、その他校長先生のご指導の問題でありますので、ここでは議論のテーマにはしないでおきたいと思うのですけれども、基本的に私、こういう諮問会議で常々申し上げてきたのは、商船高専という名前でありながら商船学科の影が薄い。ここはいったいどうなっているのと言ひたい点が前はあったんです。

内容的には1商船学科、2工業系という形にどの商船高専に収まっているので商船学科の存在感みたいなのが薄いのかなと思ひたりもするのですけれども、でも商船高専と商船という名前をつけている限りどうしても商船学科のプレゼンスというものをもう少し強く打ち出してもらひたいなという気持ちがあるんです。

そうでないと、今海事社会とかで極めて行き詰まっている問題に対して、これからぜひ今教育での面で下支えして頂けるのは、これからは商船高専だろうと。ましてそれが5つあるわけで、そして去年ですかね、1商船高専に1商船学科を存続させるという結果もでたようですから、5商船学科がそれぞれ5商船コース残るわけですからこれを機会にぜひとも商船学科における教育方針とか航路とか海事社会が商船高専に望むこととかそういうものをうまく融合させながら、鳥羽商船高専としてのプレゼンスを発揮して頂ければなと思ったりすることです。鳥羽商船高専は私いつも言うんですけど、今日改めて135年の歴史があって、商船高専では一番古いんです。そして今私自身が今まで商船高専の人当りに救って頂いた中で一番成果が上がっている中身の濃いのが鳥羽商船高専です。ですから、この場所に当時の山田校長から呼び込まれたときから、鳥羽商船高専の応援団になってやりたいと。応援団になってやるかやらないかはもう校長先生の手腕次第。何をやるべきかということは諮問会議で忌憚ない意見を言わせて頂くところです。そういう意味では今一番気にかかっているのは商船高専のプレゼンスというか影が薄いというところが、気がかりで仕方がありません。

先ほどの運転手の方で、鳥羽商船高専の商船学科の暴利と言いますかそれが船長、機関長と書いてあったんです。海事社会全体を見た時に確かに船長、機関長を踏まえなければ次の世界に踏み込めないんですけれども船長、機関長がゴールということは私は中間ゴールではないのかと。海事社会で商船高専が担うべき人材育成のゴールがもっと高みのところにあるのではないかと思います。その辺はぜひ学校の中でまた揉まれて目標設定をなされたらいいのになぁと思っているところです。加えて、最近の情報ですけれども海事人材育成プログラムというのが5商船高専がグループになってやられているそうですね。そのときの産学官が連携共同して目標設定されてどういう人材を育成すべきか、それを実現するにはどうすべきかということを考えられたように聞いているのですが、ぜひともその方向性も参考にしながら、鳥羽商船高専としての商船学科のプレゼンスを高める方向で具体化して行って頂きたい。

そんなふうに思っています。与えられた時間が4時10分で10分超過しております。その意味では最後の締めくくりの言葉として申し上げさせて頂きましたけれども、ぜひとも日本の商船高専のトップに立って頂きたい。これが諮問会議としての委員の偽るざる気持ちであります。その意味では校長先生をはじめ各学年の先生方、事務員の方々にもぜひともご協力よろしくお願ひしたいと思ひます。

他に、もうよろしいですね。

【菅沼委員】

一つだけ、先生よろしいですか。昔うちの学校は全員校長時代というのが3年ぐらい続いたと聞いているのですが、試験を受けたら全員受かっちゃって、それと一緒に今水先案内

人が全然足りませんでしょう。そういう道へ進む学生、方向性はないんですか。あれは別に海技免状の２級さえ持っていれば海技学校で訓練受けてくれば試験受ければ展開できますよね。今なんか一番チャンスじゃないかなと思うんですよ。今先生がおっしゃられましたように商船学科としては。びっくりするくらい。

【林校長】

伊勢三河湾の水先人の方が本校に来られて説明等して頂いてます。ただ、残念ながら新卒者がそのまま養成施設、水先人養成施設にはいってないというそういった実績もございません。どうしてかなと思うと来られた水先人の方は「船長になってから来い」ということを言われたということですね。ああ、そうかということでその辺りもやっぱり事前にお話される方といろいろと。私が

実際に船社に行かれて２級、１級で入ってこられてるこの卒業生もいらっしゃいます。ちなみに伊勢三河湾の水先人の数は１４０名ぐらいですけど、そのうち４０名近くは鳥羽の出身です。会長も鳥羽出身者が非常に多いということで、非常にいい職場だと私も思います。

【菅沼委員】

穴場だと思います。

【井上議長】

現場的話になったらまとめて相談してください。

議論を戦わせて頂いて、今の難しい問題もクリアしてもらいたいと思っています。許された時間の中で一応これで本日諮問会議を閉じたいと思います。どうも有難うございます。

どうも有難うございました。

【司 会】

それでは、閉会にあたりまして校長の林からご挨拶申し上げます。

【林校長】

本日はいろんな貴重なご意見頂いて有難うございます。そういった意見、それをわれわれ聞いている。主にメインで仕事をされている先生方がいらっしゃいますので、十分に今後の学内運営に参考にさせて頂きたいということでございます。

一朝一夕に急に入学者の偏差値が上がるわけでもなし、地道な努力を５年、１０年続けてやっと鳥羽が変わったと言われるそのためにはこの１年が大事で、次の１年が大事でということで、そういったものを基礎力にしてわれわれ教員も職員も学生もみんな少しずつ

でいいですから向上していきたいというふうに強く感じております。本日はどうも有難うございました。

【司 会】

以上を持ちまして、平成 29 年度運営諮問会議を終了いたします。本日は有難うございました。

独立行政法人 国立高等専門学校機構

鳥羽商船高等専門学校の概要

2018(H30)年3月7日

国立高等専門学校 全国で51校(55キャンパス)

商船学科のある高専は5校のみ





独立行政法人国立高等専門学校機構

鳥羽商船高等専門学校

National Institute of Technology, Toba College



○ 教育理念・教育目標

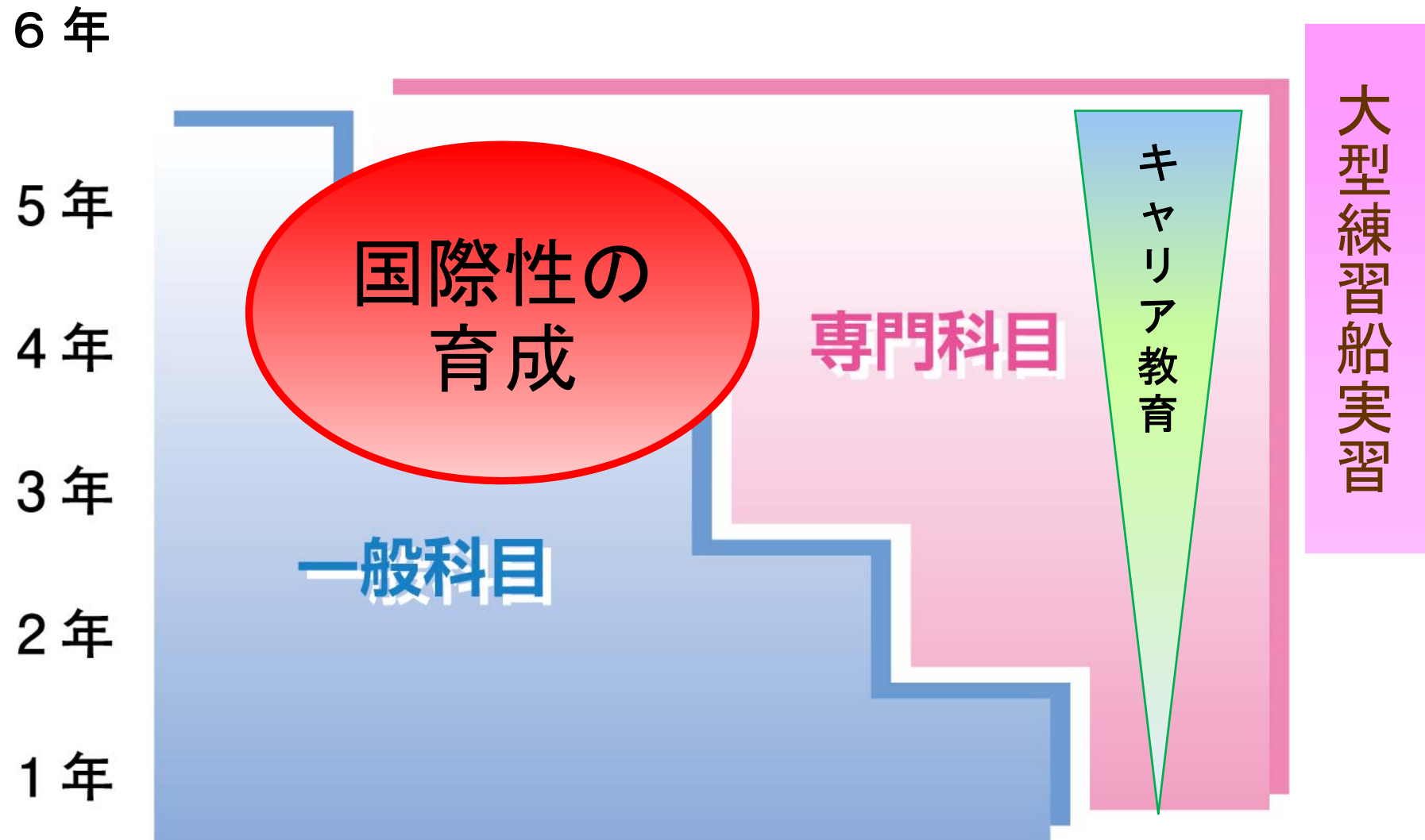
□教育理念

進取・礼讓・質実剛健

□教育目標

1. 人間性豊かな教養人となること
2. 創造豊かな技術者となること
3. 国際性豊かな社会人となること

○ 高専教育システム(本科)の特徴



くさび形教育 5年(商船は5年半)一体型の技術者育成

○ 本校のセールスポイント

伝 統

- 創基137年の伝統を持つ
- 同窓会活動が充実しており、卒業しても強い味方

立地条件

- 交通の便が良い(他の4商船系高専と比較して)

進 路

- 工業高専に比べて入学しやすいが、進学・就職先は同程度

○ 学校史1 明治14年～昭和20年

明治14年(1881) 東京攻玉社分校として**鳥羽商船黉開校**する。(8月20日)

明治28年(1895) **私立東海商船学校**に改称。

明治32年(1899) **鳥羽町立鳥羽商船学校**となる。(機関科が設置される。)

明治44年(1911) **三重県立鳥羽商船学校**設立。

昭和14年(1939) **文部省直轄の官立鳥羽商船学校**となる。

昭和17年(1942) **逓信省所管**となる。
航海練習所、文部省から逓信省に移管。

昭和18年(1943) 逓信省は**運輸通信省**となり、商船学校の所管名が変わる。

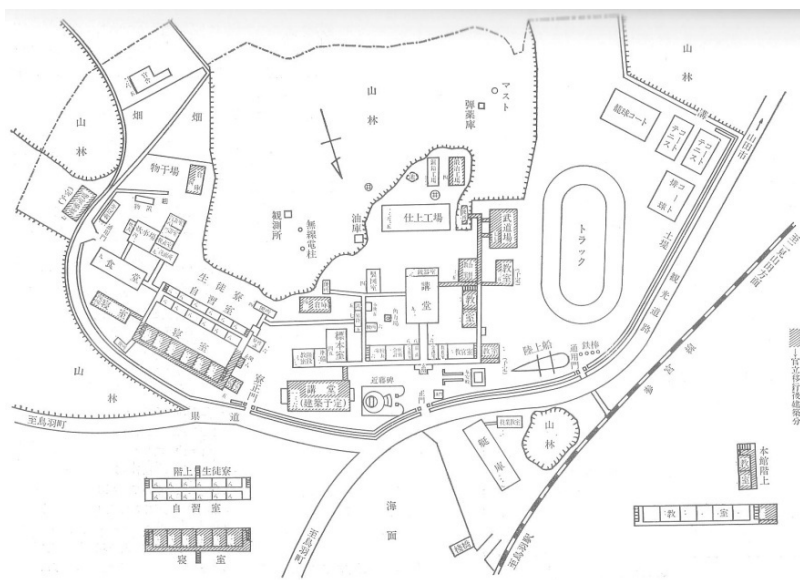
昭和20年(1945) 運輸通信省は**運輸省**となり、商船学校の所管名も運輸省となる。



県立時代の校舎正面



県立時代の校舎全景



昭和17年当時の平面図

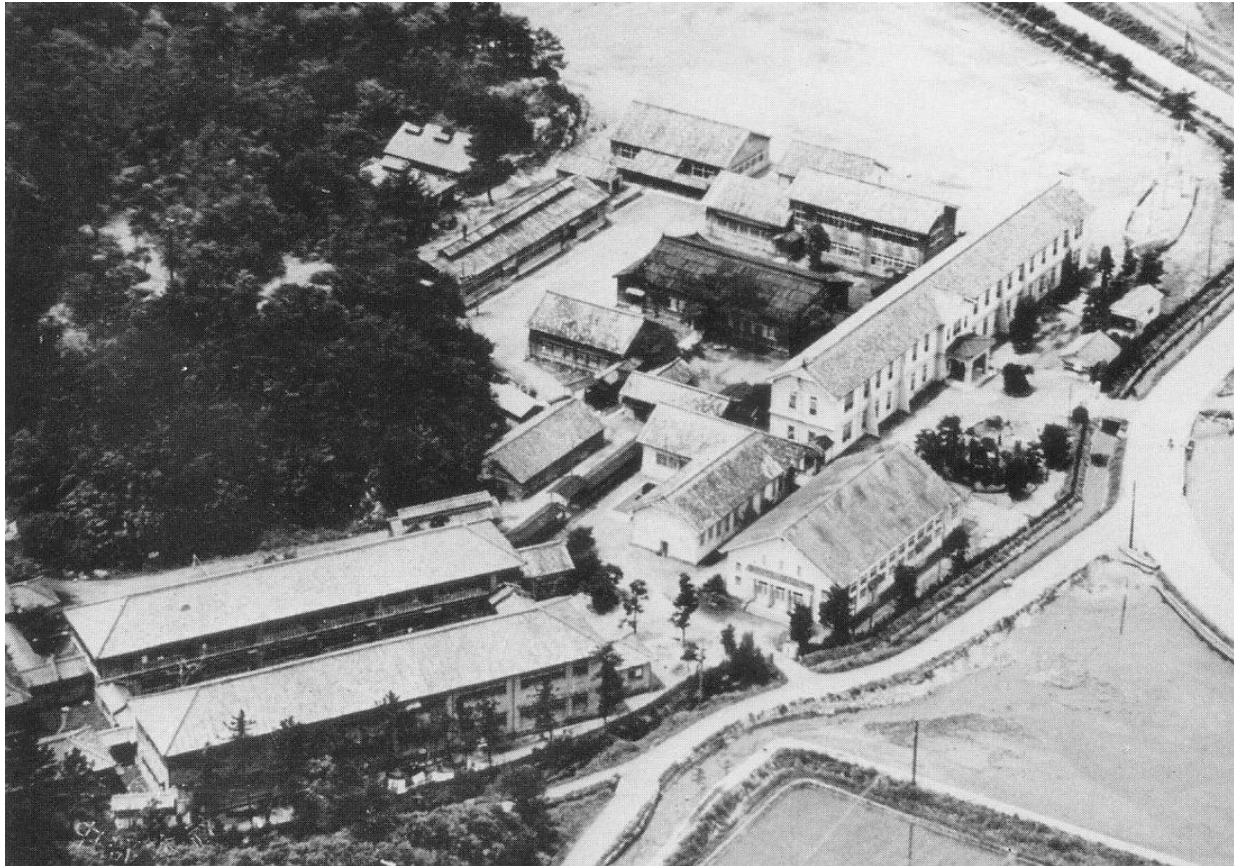


昭和18年度の陸上鍛錬大会の様子

○ 学校史2 第二次世界大戦戦後

昭和26年(1951) 鳥羽、富山、大島、広島、弓削の**5商船学校は国立商船高等学校として文部省**に移管。

昭和42年(1967) **鳥羽商船高等専門学校**開校式挙行。



高校移管直前の本校全景

○ 学校史3 昭和高度成長期～現在

昭和56年(1981) 創基100周年記念式典挙行

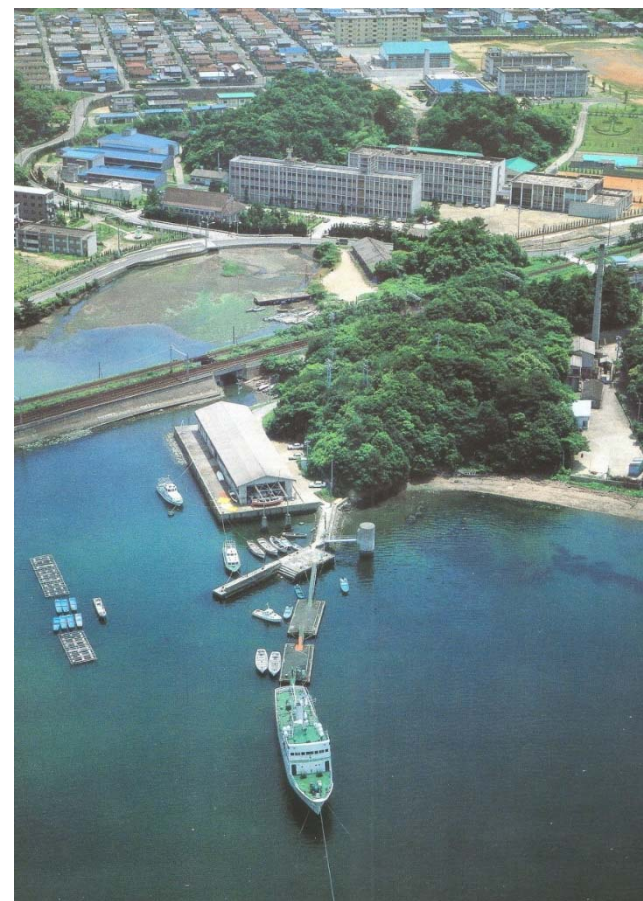
昭和60年(1985) 改組により**電子機械工学科**設置

昭和63年(1988) **制御情報工学科**設置。
これにより、3学科体制となる。

平成13年(2001) **創基120周年**記念式典挙行

平成16年(2004) **独立行政法人国立高等専門学校機構鳥羽商船高等専門学校**となる。

平成17年(2005) **専攻科**設置(海洋システム学専攻、生産システム工学専攻)



100周年当時の本校

○ 本校の教職員 (2018.4.1(予定))

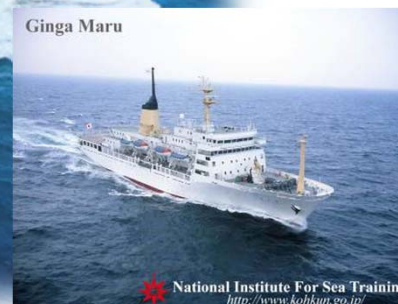
教育職員					事務職員等			合計
校長	教授	准教授	講師	助教	部課長	係長等	一般職員等	98
1	24	18	0	12	3	16	24	
55					43			

○ 商船学科

- 航海コース：船長、航海士をめざします
 - 機関コース：機関長、機関士をめざします
- 第3学年でコースが分かります



海上のプロフェッショナル



1年間の
大型練習
船実習

○ 電子機械工学科

好きなことを追求し、夢に向かって進む

機械工学と電気・電子
工学の両方の専門知識
で活躍

ロボットを動かす



○ 制御情報工学科 先端技術を学び、未知の領域に挑戦する



電気製品にAT、IoTを

○ 専攻科

海事システム学専攻

- ・ 商船学科などから進学

本科の上に専攻科が設置されています

高度な専門的学術を学んで、国際的感覚と広い視野を持った実践的専門技術者をめざします



生産システム工学専攻

- ・ 電子機械工学科・制御情報工学科などから進学

2年間の少人数教育

「学士」の学位が取得可能



○ 2017年度のプロジェクト採択と主な受賞

□ プロジェクト採択

KOSEN4.0イニシアティブ 36件採択（全51高専から96件提案）

（採択プロジェクト：第4次産業革命を促進するプログラマ育成と地域活性モデル）

□ 第28回全国高等専門学校プログラミングコンテスト

自由部門最優秀賞、文部科学大臣賞（2年連続）

□ 高専ロボコン2017

全国大会出場（2年連続）

□ 第6回気象文化大賞 高校・高専「気象観測機器コンテスト」

最優秀賞、優秀賞

○ 地方自治体および他高専との連携

① 三重県工業研究所との包括連携

② 鳥羽市との包括連携

③ 鈴鹿工業高専との連携

④ 和歌山工業高専との連携

第三ブロック校長会

・全国5ブロック

□参加校(11高専)

(東海)岐阜、豊田、鳥羽、鈴鹿

(北陸)富山、石川、福井

(近畿)舞鶴、明石、奈良、和歌山

□活動内容

① 教育・研究

② 国際交流

③ 人事・管理運営

平成29年度 運営諮問会議

平成29年度
鳥羽商船高専におけ
る
現状と課題

平成30年3月7日
鳥羽商船高等専門学校

報告内容

- 教育における「3つの方針」
- 入学者の確保（入り口）
 - ✓ 学生募集・PR活動
 - ✓ 入学志願者
 - ✓ 入学者の学力
 - ✓ 入試制度について
- 留年・退学
- 就職・進学（出口）
- 満足度アンケート
- 教育改善に着手
 - ✓ 学修推進支援室
 - ✓ キャリア教育推進室
 - ✓ グローバル教育推進室
- KOSEN4.0イニシアティブ
- 教育改善に関わる連携プロジェクト
- 他機関との連携・協力
- 地域との連携・貢献
- 学生の活躍

3つの方針（ポリシー）



教育における「3つの方針」

アドミッション・ポリシー（入学受入れの方針）

本校のアドミッション・ポリシー

1. 礼儀正しく、他人を思いやる心を持った人
2. 将来、技術者や科学者を目指す人
3. 自らの夢に向かって自主的に行動できる人

商船学科のアドミッション・ポリシー

1. 海や船に興味がある人
2. 学ぶことが好きで自ら考えて行動できる人
3. 将来、海事技術者として世界で活躍したい人 L
SEP

電子機械工学科・制御情報工学科のアドミッション・ポリシー

1. 他人を思いやる心を持ち、自主的に行動できる人
2. 基礎学力を有し、ものづくりに興味がある人
3. コミュニケーション能力を有し、国際社会で活躍したい人

専攻科のアドミッション・ポリシー

1. 専門分野に関する開発能力の向上を目指す人
2. 複合的視点で社会的問題を捉えることのできる人
3. 国際的な感覚を持ち自律した技術者を目指す人

教育における「3つの方針」

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

第4学年編入学のアドミッション・ポリシー

電子機械工学科・制御情報工学科

1. 技術者になるために必要な基礎学力を有し、ものづくりに取り組める人
2. 他人を思いやる心をもち、自主的に行動できる人
3. コミュニケーション能力を有し、国際社会で活躍したい人

留学生のアドミッション・ポリシー

商船学科

1. 将来、海事技術者として世界で活躍したい人
2. 海や船に興味があり、自ら考えて行動できる人
3. 日本語と日本文化に興味と関心をもつ人

電子機械工学科・制御情報工学科

1. 技術者になるために必要な基礎学力を有し、ものづくりに取り組める人
2. 他人を思いやる心をもち、自主的に行動できる人

教育における「3つの方針」

ディプロマ・ポリシー（卒業・修了認定の方針）

商船学科

物流の国際化と船舶の技術革新に適応した船舶の運航技術者として活躍できる専門知識と技術を習得した人材および海事関連産業で活躍できる人材を育成する。

電子機械工学科

機械技術と電子技術および情報技術を融合した電子機械（メカトロニクス）に関する専門知識と技術を身に付けた実践的技術者を育成する。

制御情報工学科

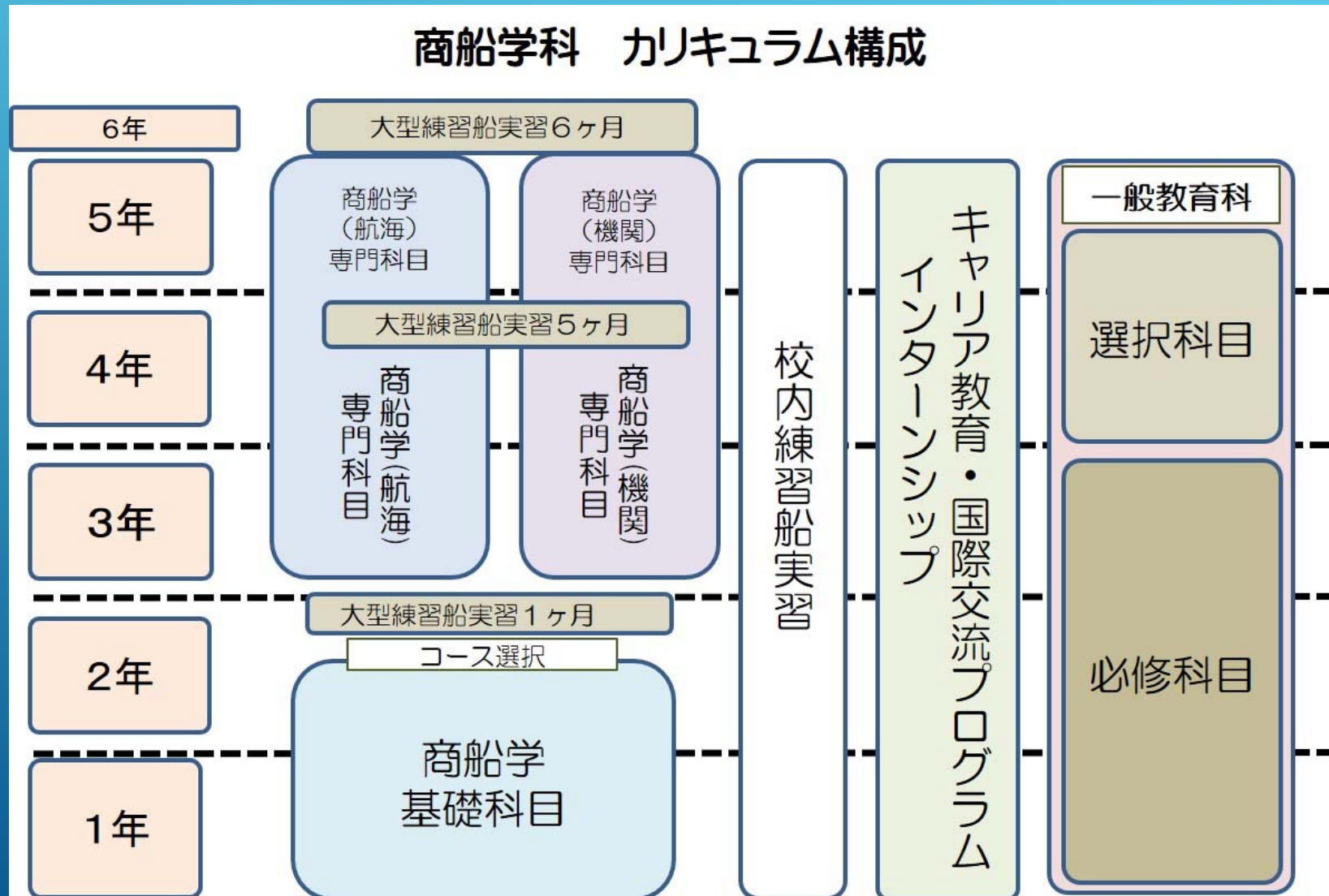
制御情報工学（情報応用システム・組み込みシステムに関する工学）における実践的技術者としての専門知識と技術を身に付ける。

専攻科

- ・ 専門分野におけるより高度な開発・創造能力
- ・ 複合的視点から物事を考え解決する能力
- ・ 国際的な感覚と技術者としての自律

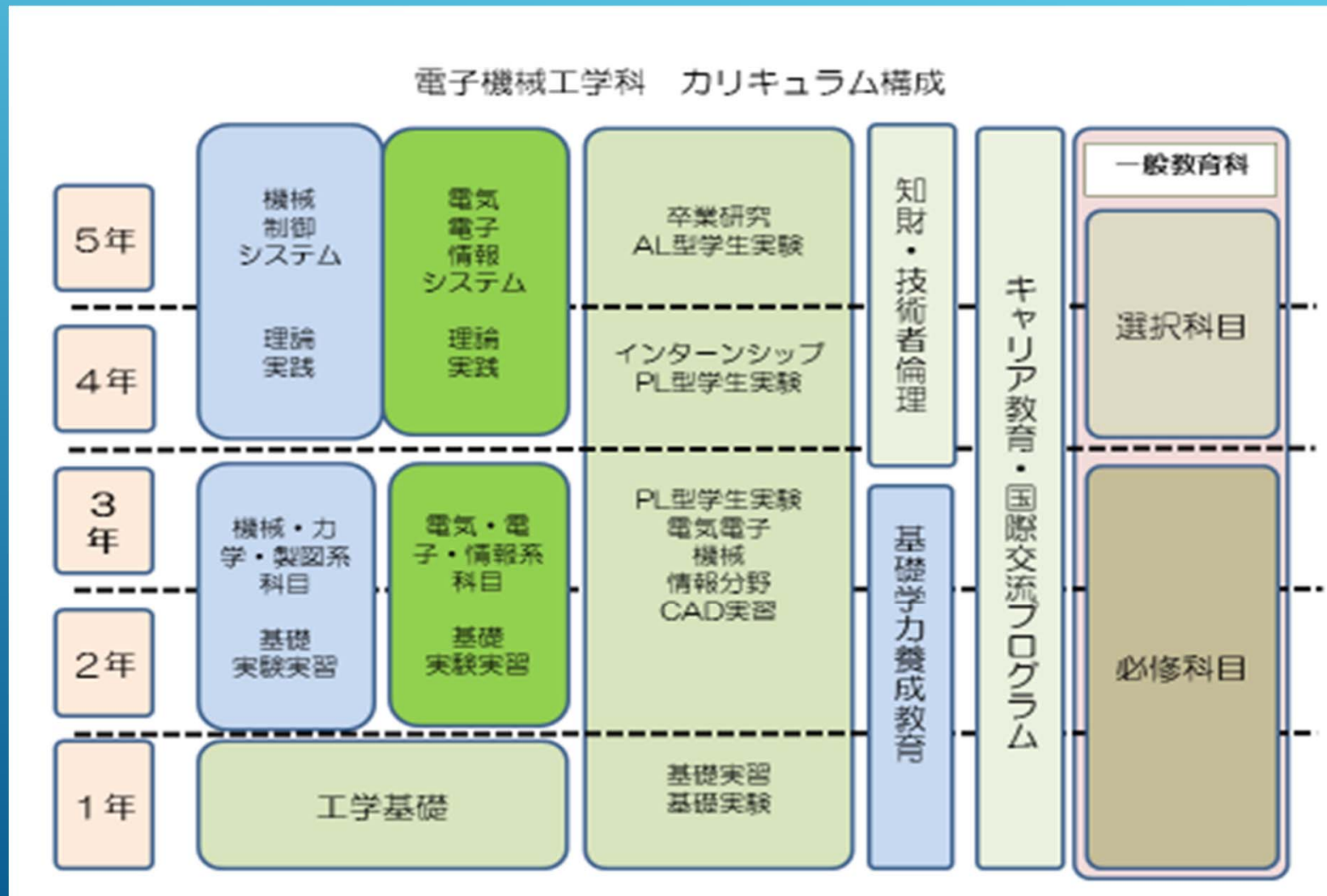
教育における「3つの方針」

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）



教育における「3つの方針」

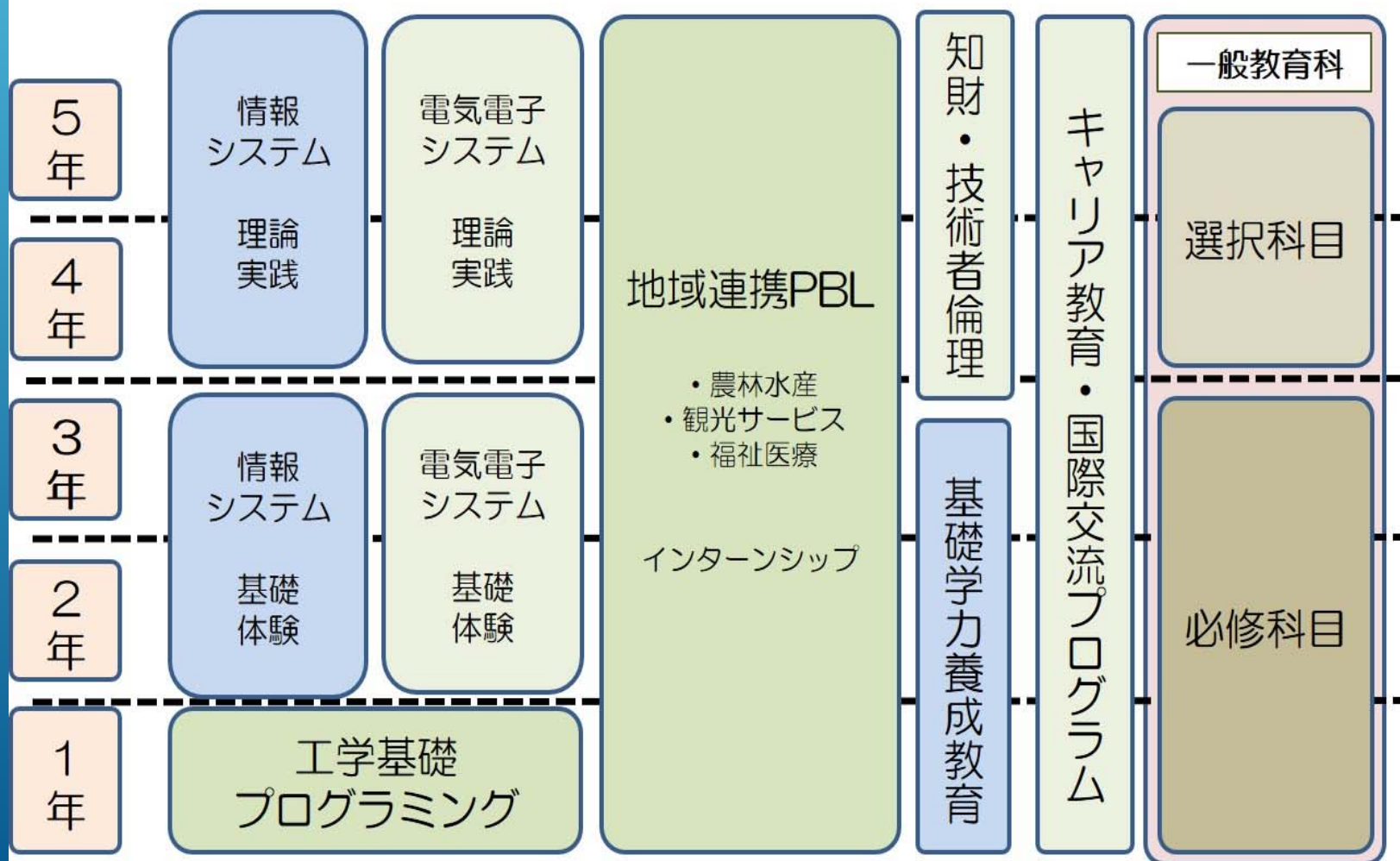
カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）



教育における「3つの方針」

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

制御情報工学科 カリキュラム構成



教育における「3つの方針」

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

専攻科 カリキュラム構成

自然科学科目

商船学

専門共通
科目

機械工学

電気・
電子工学

情報工学

人文・社会科学科目

環境・倫理に関する科目

特別研究・実験科目

英語に関する科目

海事システム学専攻

生産システム工学専攻

入学者の確保



学生募集・PR活動



- 春季学生募集巡回PR(6月) 県内中学校 **148校**^[139]

- 秋季学生募集巡回PR(9～10月) **225校**^[221]

和歌山・静岡・奈良・岐阜・滋賀 36校^[33]

愛知 43校^[42]

- 学校説明会(8月18・19日)

合計**496名**^[339]参加

(中学生269名^[231])



- 海学祭での入試説明会(10月22日 **36名**^[29組])

午後は台風の影響で中止

- 近大高専、鈴鹿高専との合同説明会(志摩は本校主催)

名古屋6名、桑名4名、伊勢36名、**志摩23名**、津8名、四日市12名

[]は昨年度

- 学習塾関係者対象説明会(10月10日) **9団体**^[11]
- 中学校主催「進路説明会」(6～11月)参加 **26校**^[24]
- 入試対策講座(11月23日) **59名**
- 受験相談会(11月26日) **26名**
- 学力検査選抜直前、入試説明会(2月3日) **34名**
- 国立高等専門学校(商船学科) **5校合同進学ガイダンス**(広島、横浜、神戸)(6～7月) **230名**^[213]
- 公開講座「**サイテクランドin鳥羽商船2017**」
(8月)6講座^[7] **94名**^[106](延べ人数)
- **理系女子フォーラムみえ2017**(8月30日)
学生が専門教育や研究、学校生活等を紹介
- 豊橋技術科学大学オープン・キャンパスに出展

●鳥羽丸PR航海

(練習船の一般公開、体験航海)

8月7日：四日市 (約540名)

11月12日：名古屋 (約120名)

●大阪港クルージング＆ セイルドリル見学会

10月28日 台風のため中止

●神戸港 5月8～11日

●NPO法人「故郷の海を愛する会」主催事業に協賛

7月27日 JMU造船所見学と鳥羽商船高専の練習船で体験航海

12月9日 もうすぐクリスマス。遊んで学ぼう。商船学校の歴史と船と海の話

●テレビ・新聞等における本校行事・学生活動の報道 13件[38]

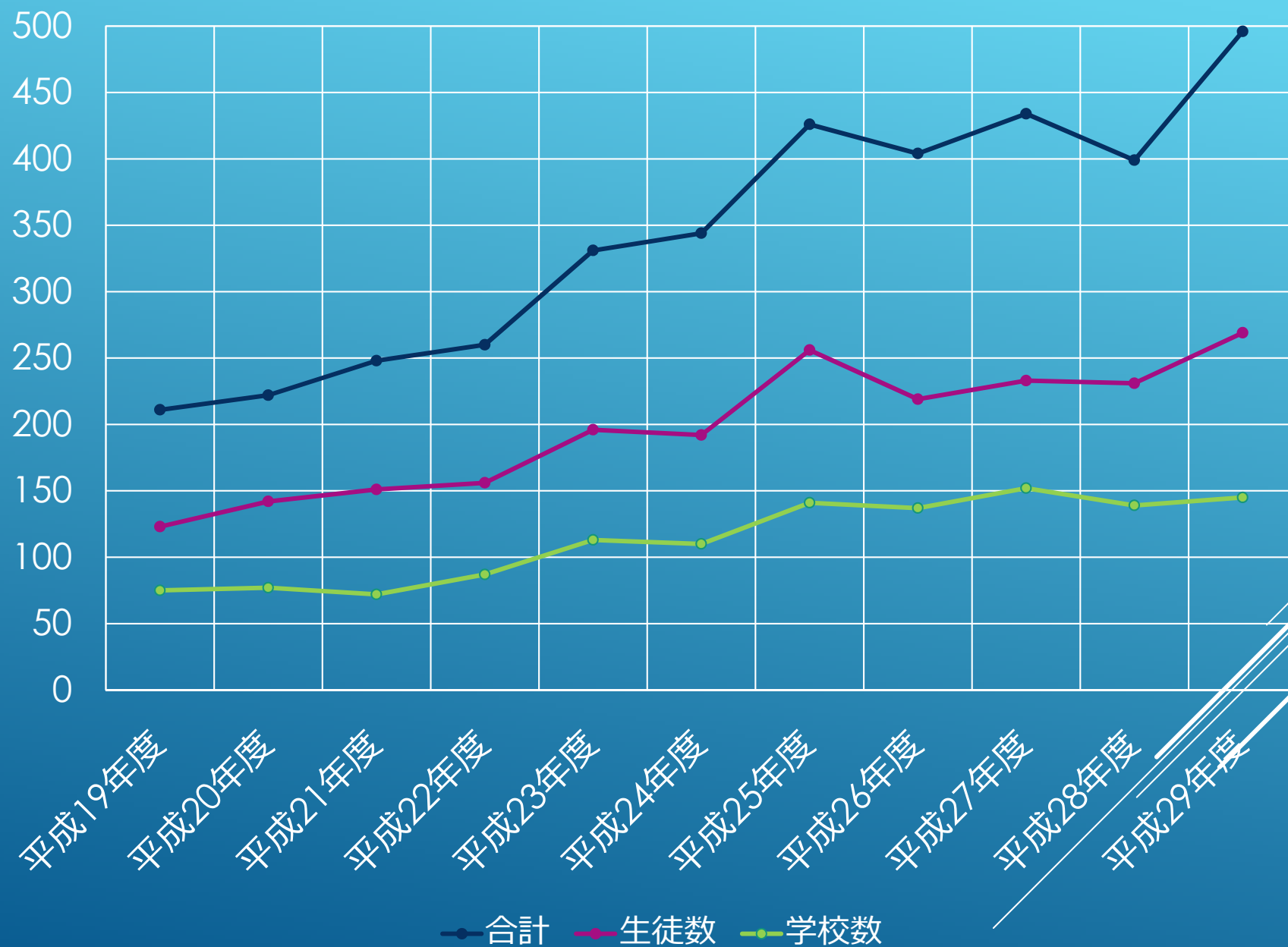
●鳥羽市HP、自治会誌、同窓会誌での学生活動記事掲載

●本校HPによる情報発信 トピックス12件[12]、学生の活躍13件[15]



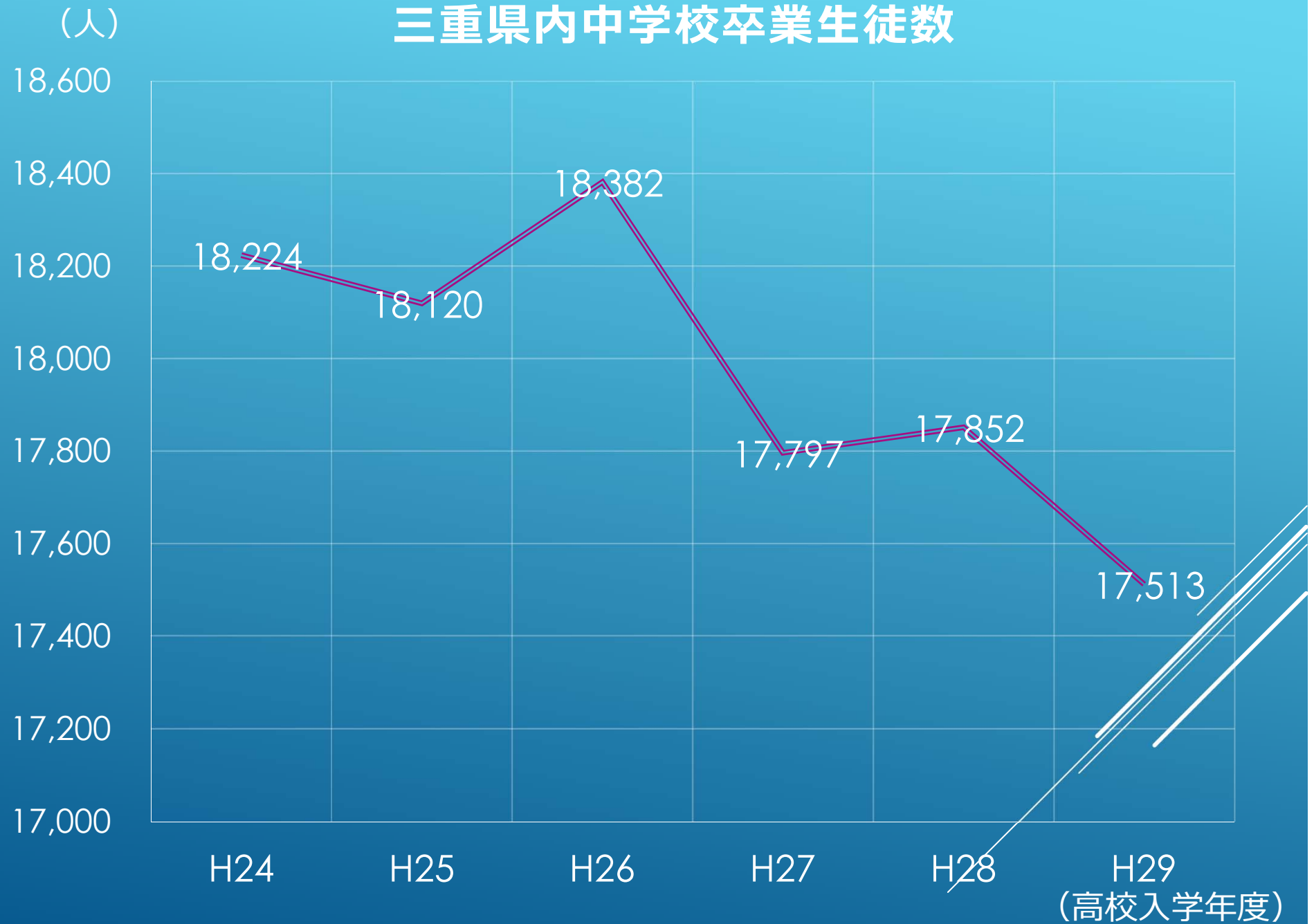
学校説明会参加者

(人)

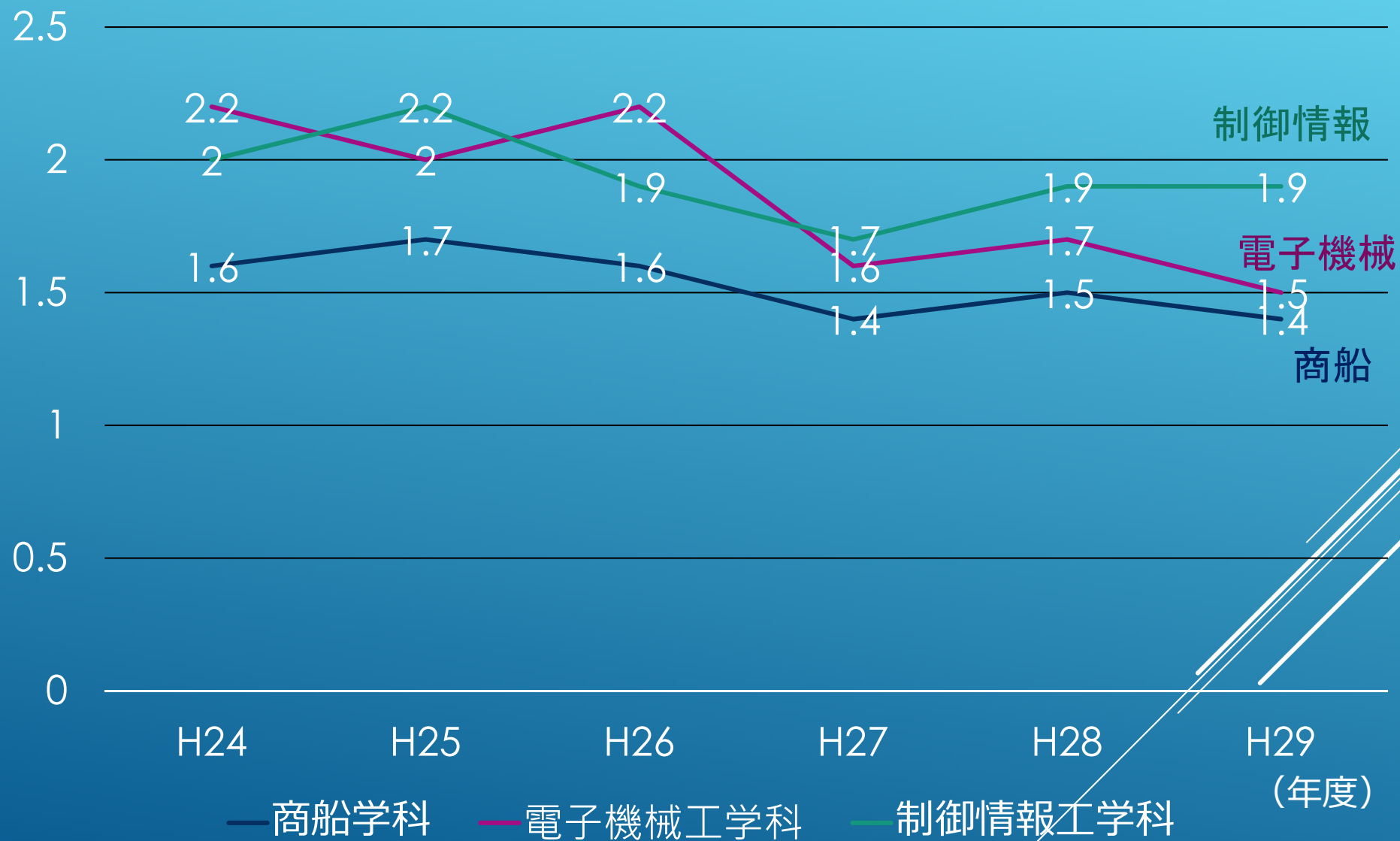


入学志願者

三重県内中学校卒業生徒数



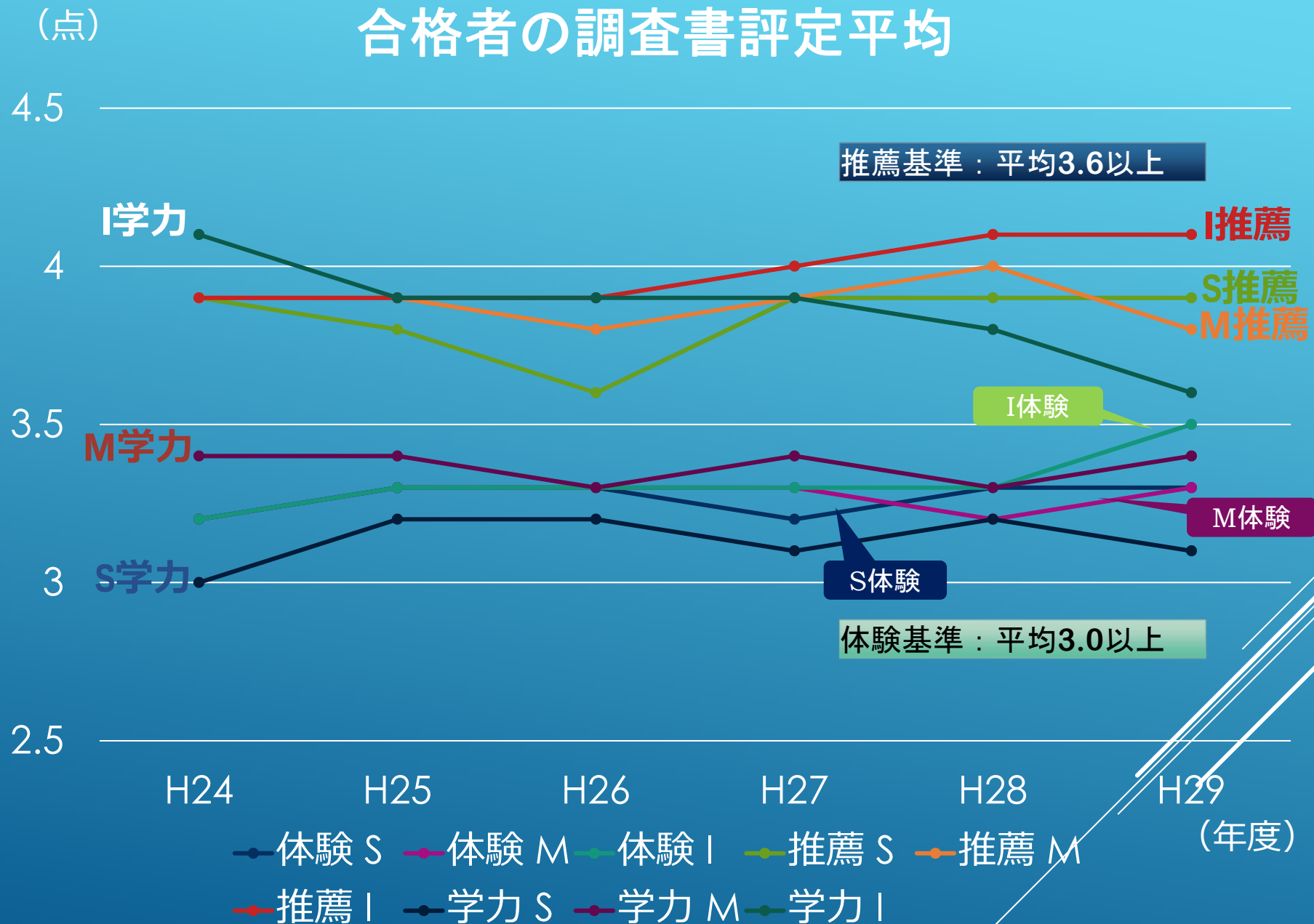
志願者倍率



入学者の学力

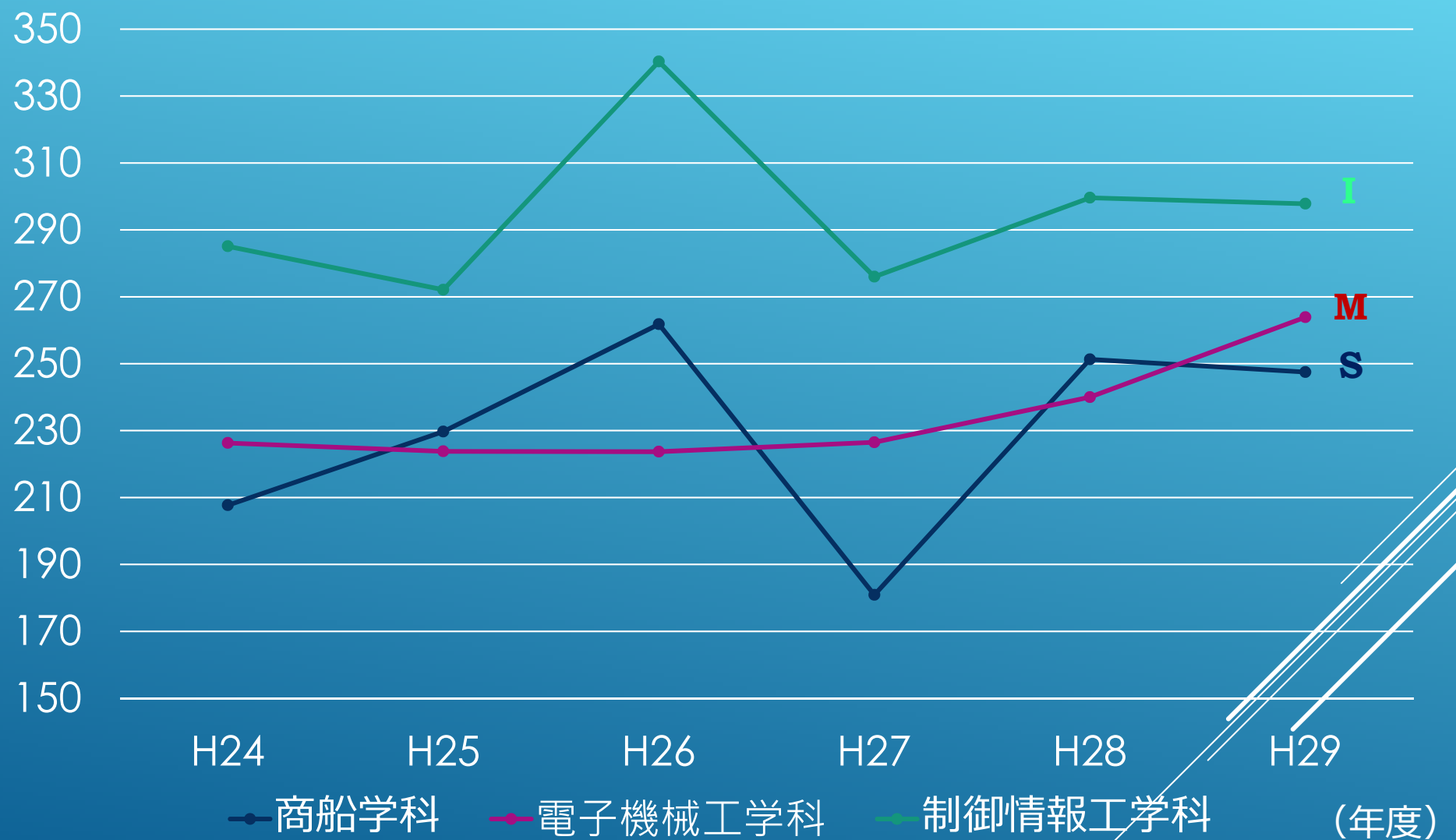


合格者の調査書評定平均



(点)

合格者の学力検査成績（平均）



入試制度



平成31年度から新入試制度導入

これまでの選抜方法を見直した。概要は以下の通り。

1.推薦選抜

出願資格を見直す。

2.体験学習選抜

実施する学科を検討する。

3.学力検査選抜

従来通り。

- 1.推薦：1～3年生の合計96以上
- 2.体験：全学科、1～3年生の合計81以上が望ましい（主要5科目は全て3以上）

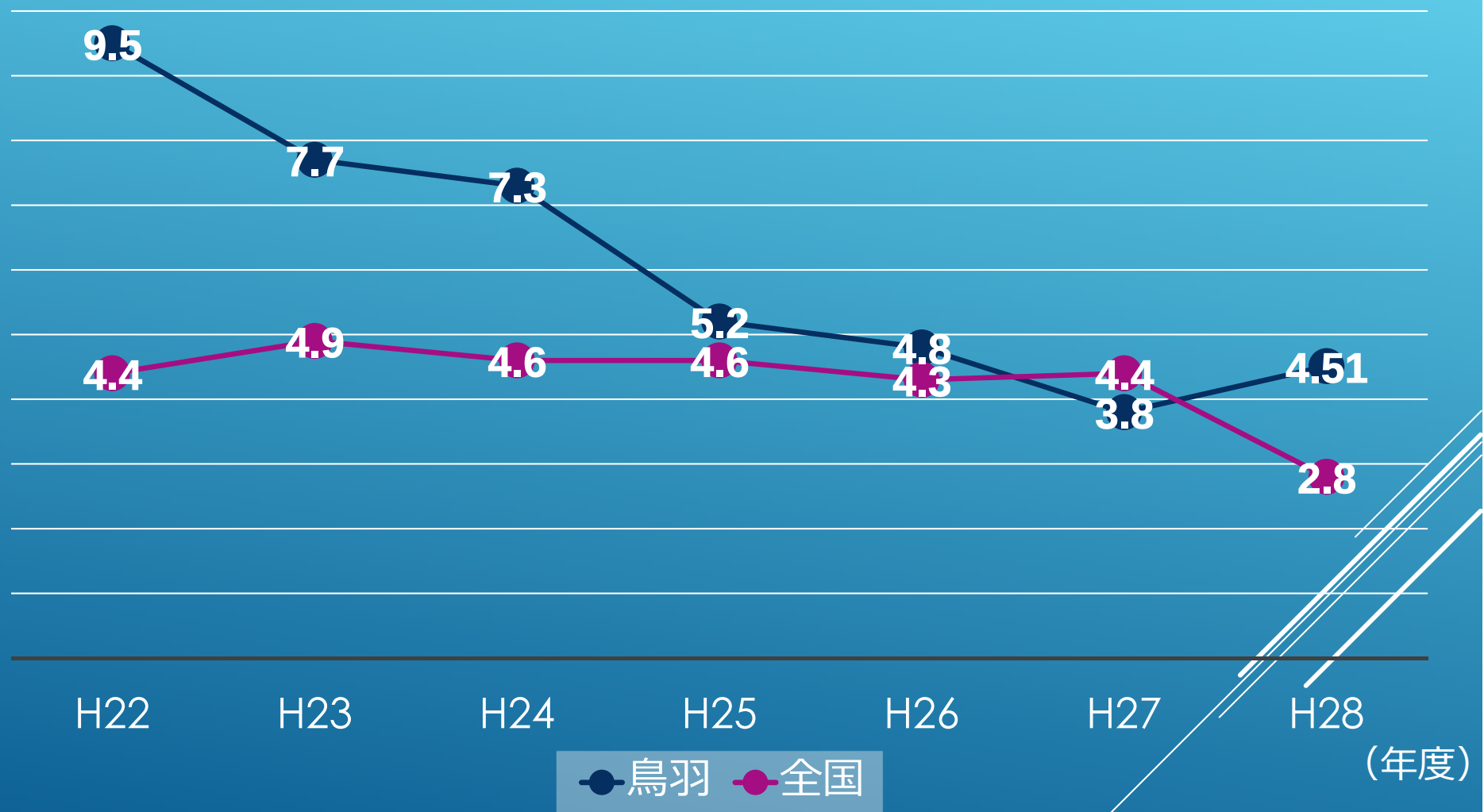
留 年



留年

(%)

原級留置率



退 学



退学率

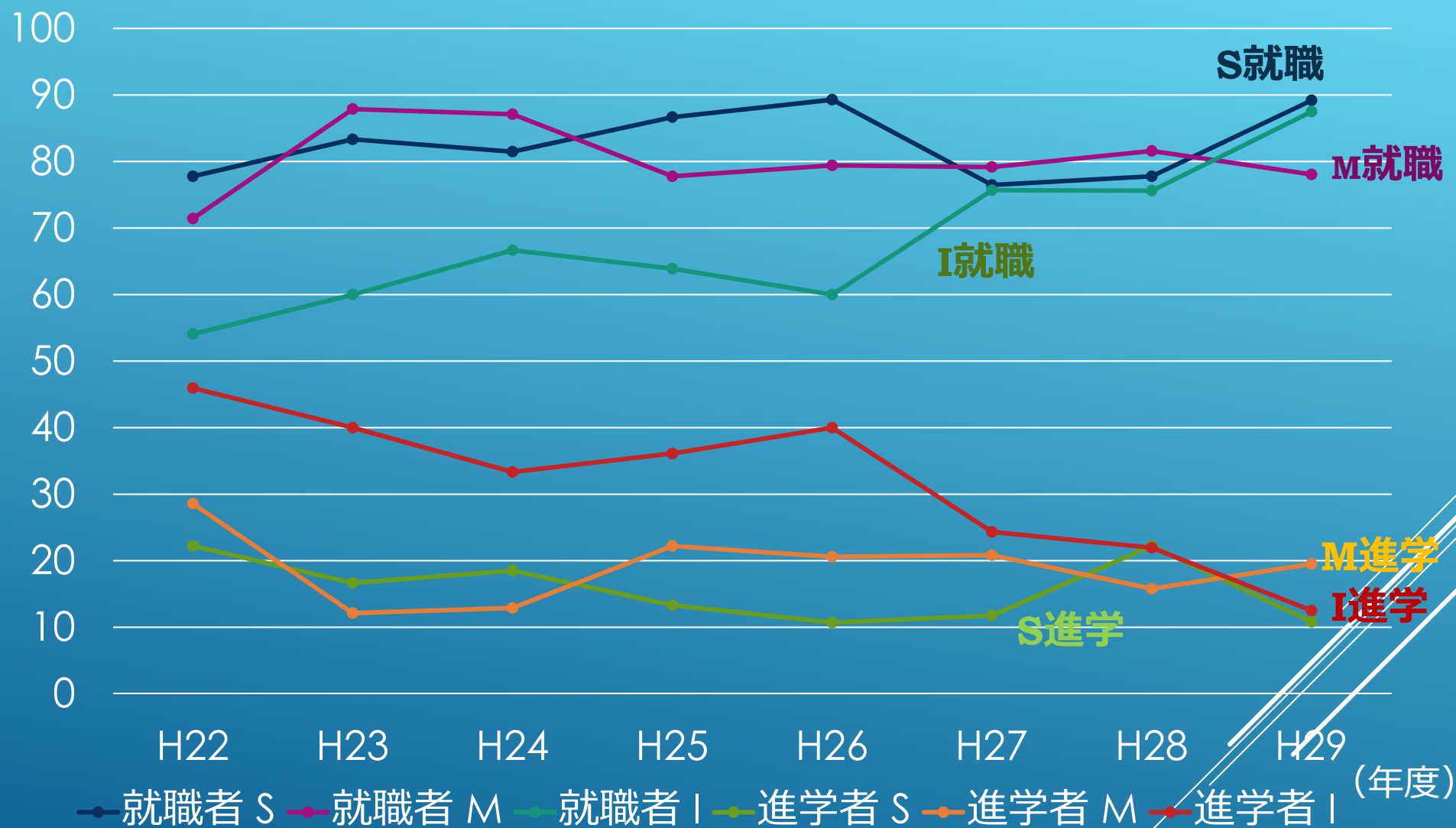
(%)



就職・進学



就職・進学率



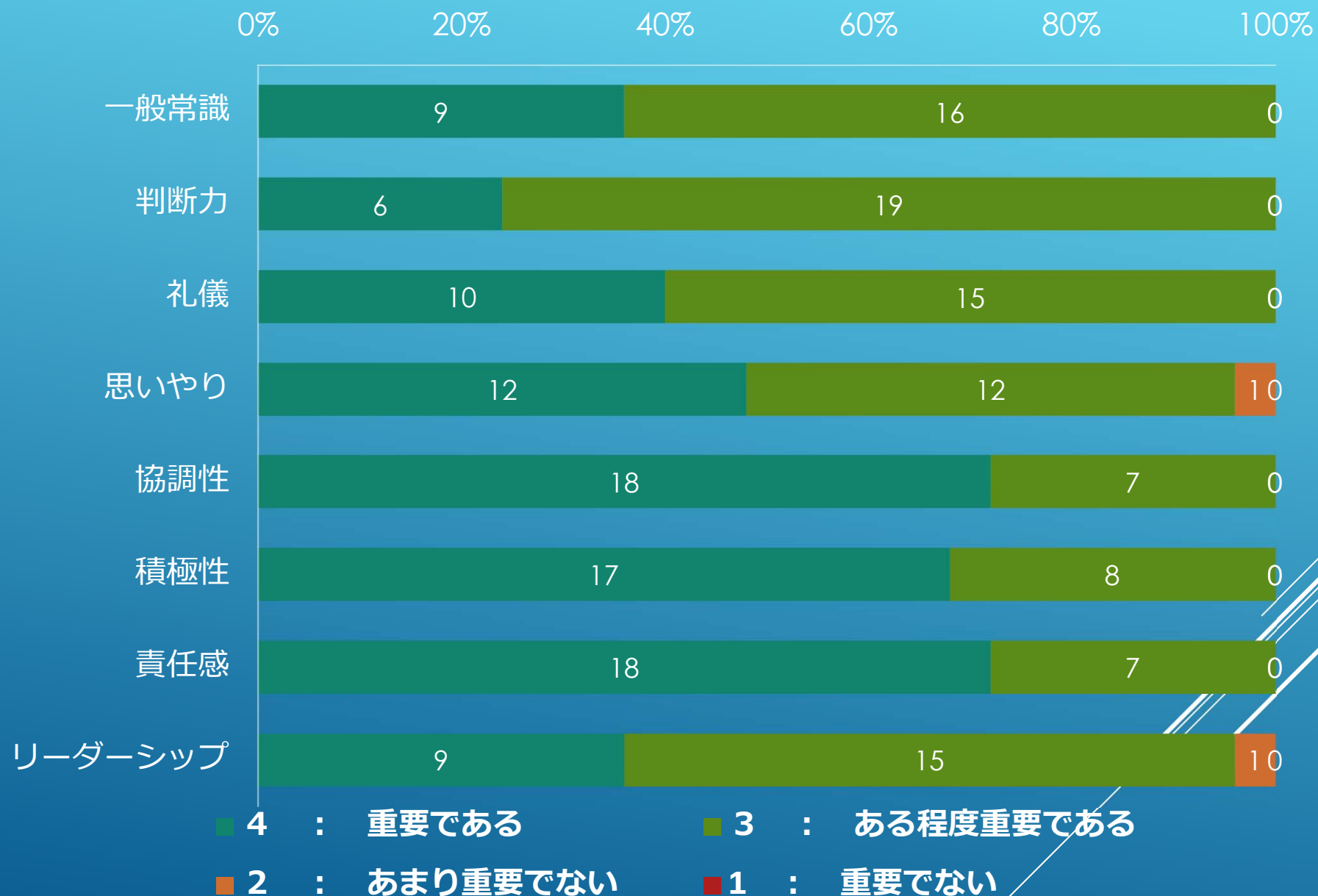
就職+進学率 ほぼ100%

満足度アンケート



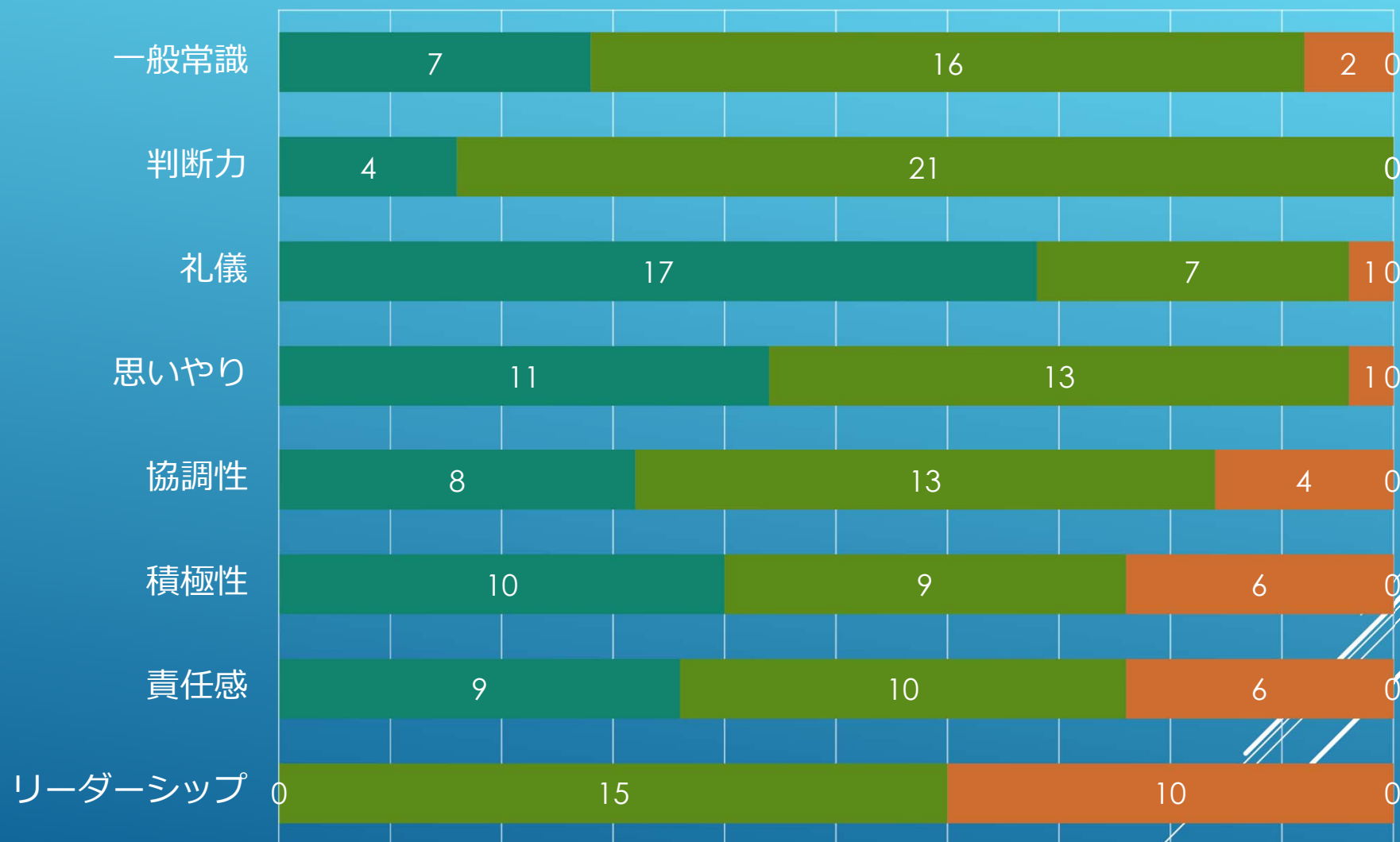
就職・進学先

本校の教育で【人間性と教養】はどの程度重要ですか



本校の教育で【人間性と教養】がどの程度身についているか

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

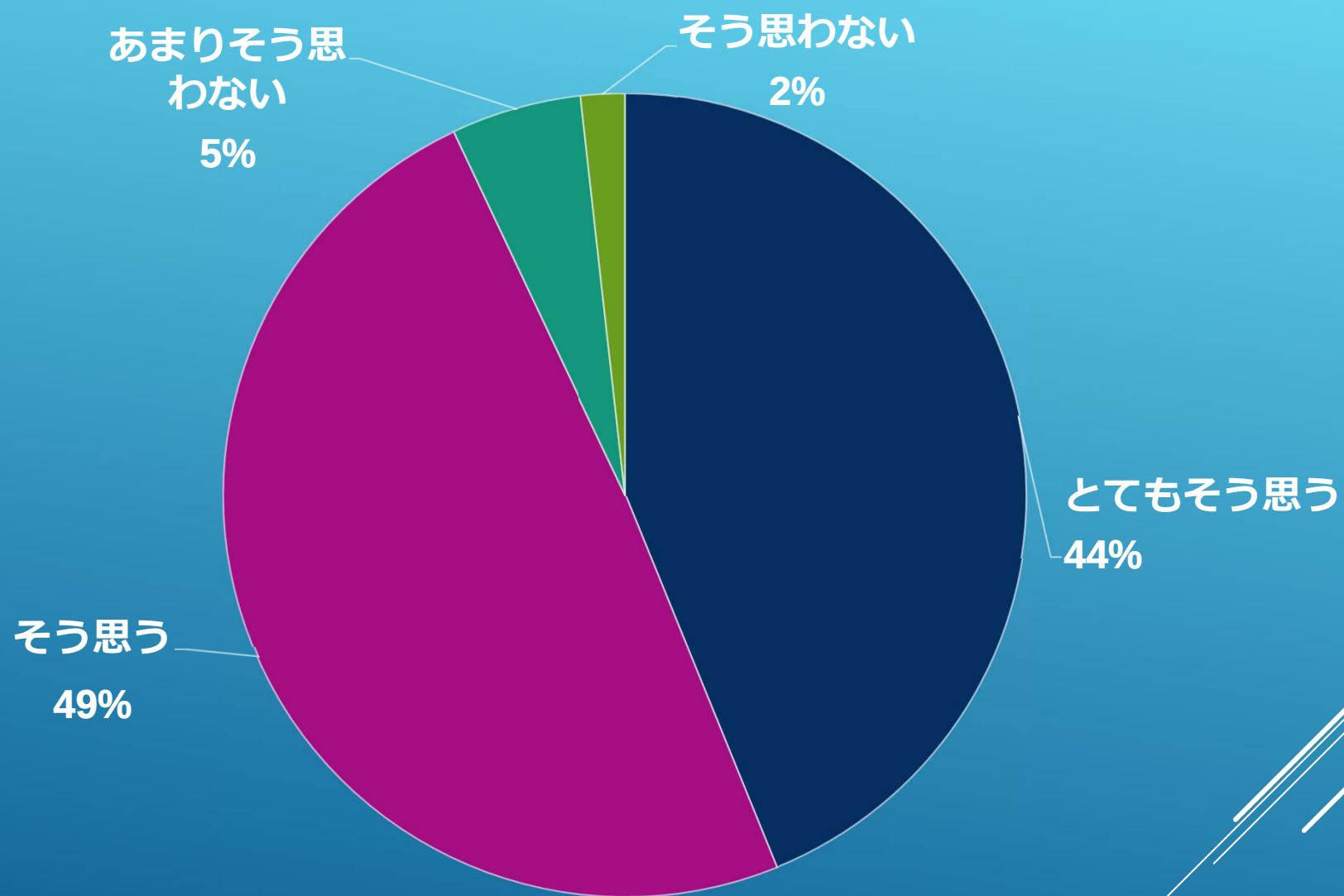


■ 4 : 身についている ■ 3 : ある程度身についている
 ■ 2 : あまり身についていない ■ 1 : まったく身についていない

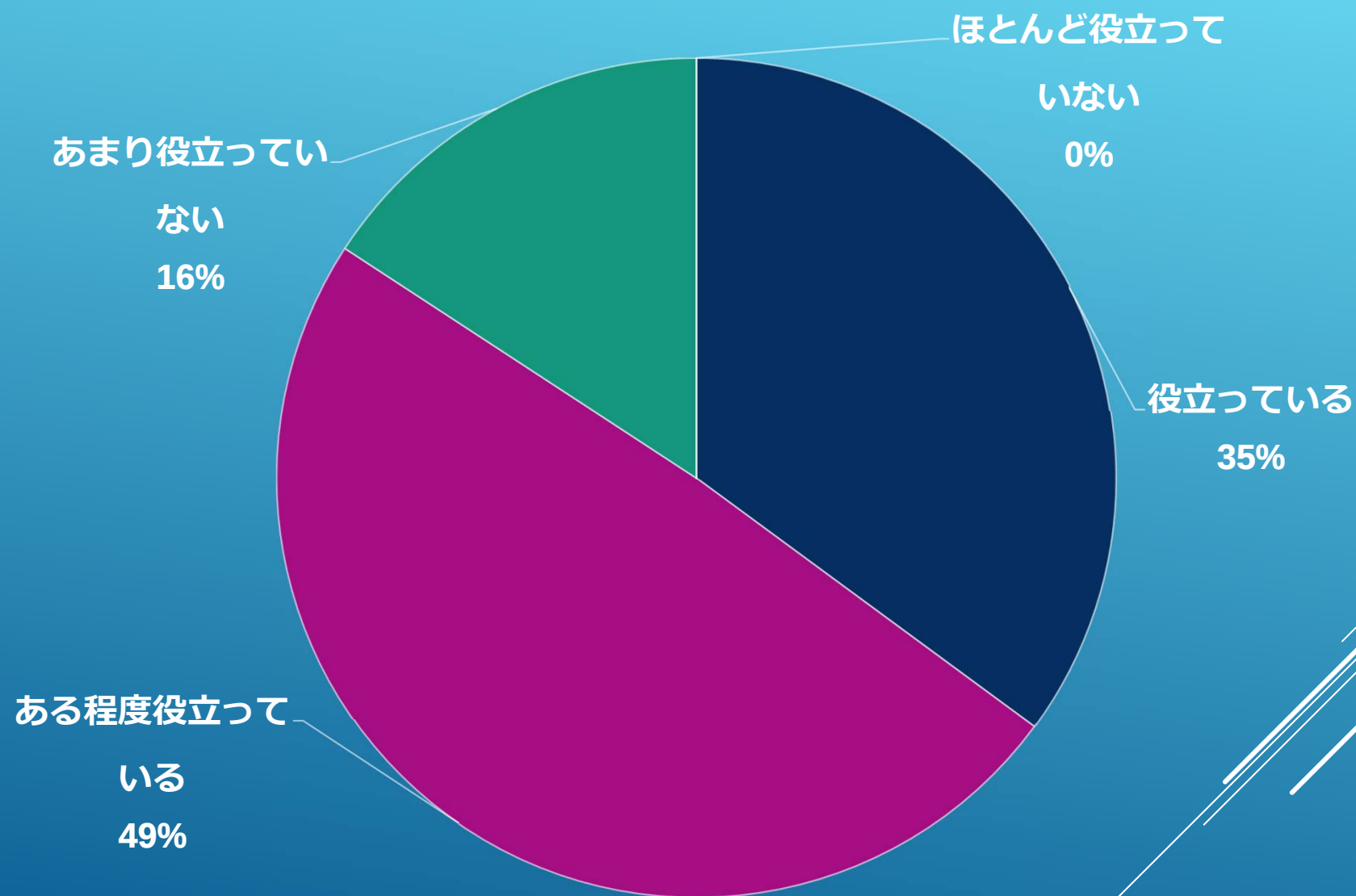
卒業生・修了生



本校の教育内容、身についた能力について 本校に在学してよかったか



本校で学んだことは、役に立っていますか（卒業後、役に立つと思うか）



教育改革に着手

主体的に活動する3室を今年度設置

学生のポテンシャルを引き出す

入学生の基礎学力が低い

学業不振→原級留置・進路変更

生活の乱れ→学業不振・懲戒

将来に対する不安→ミスマッチ・学業不振

どうするか？ 入学志願者のレベルを向上させる

どのようにして？

入試改革

平成31年度から新入試制度導入

定員の確保は？

学びの魅力

平成31年度から学科改組



入学させた後にどう育てるか

改題解決に積極的に取組み、企画を推進する組織

学修推進支援室

- (1) 学生の学力向上に関すること。
- (2) 学生の学修を支援するために必要な方策の検討及び実施に関すること。
- (3) 教育改善に関する調査・研究に関すること。
- (4) 授業改善計画の立案、実施、評価及び再構築に関すること。
- (5) 教員の資質向上に関すること。

キャリア教育推進室

- (1) 本校におけるキャリア教育の設計、改善、実装に関すること。
- (2) 学生のロードマップ（将来構想）に関すること。
- (3) 就職及び進学に関する情報の収集及び提供に関すること。
- (4) 就職のための指導と支援に関すること。

グローバル教育推進室

- (1) 学生及び教職員の英語力向上に関すること。
- (2) 国際交流プログラムに関すること。
- (3) 学内におけるグローバル化推進に関すること。
- (4) 留学生の受入れ及び指導に関すること。
- (5) 海外の機関との交流及び連携協力に関すること。

学修推進支援室

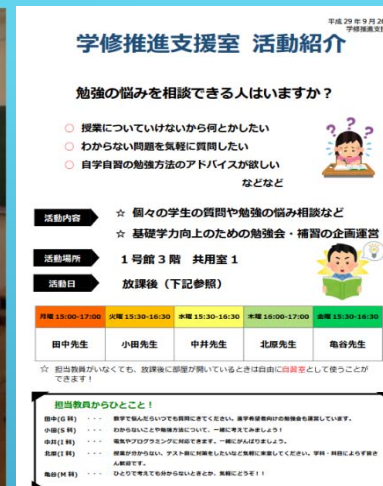
初年度の活動

「基礎学力定着」 「原級留置率の低減」

学生の学力向上・学修支援

(1) 「学修推進支援室」の設置

- 「学修推進支援室」（空き教室を利用）を設置し、学生の授業外の学修を支援するために自習の場を提供する。
- 支援室には**平日1時間程度支援室員(教員)が常駐**し、学科学年に関わらず学習のアドバイス、支援する。
- 一般科など実験室を持たない教員が補習や勉強会を開く場として利用できる。
- 支援室は、**グループ学習**にも対応できるようテーブルを配置し、ホワイトボードも設置した。また、前方は講義に対応できるよう教室と同じ配置とした。
- 学科学年が**異なる学生グループ複数が同時に学習**できる空間とした。
- 各教員に教科書・参考書の提供を呼びかけ、教士冊収集することができ



(2) 要支援者のリストアップと支援

- 前期中間試験の結果で、**単位不認定の恐れがある学生(要支援者)**をリストアップした。
- 要支援者のクラス担任と教科担当教員で情報共有と対策を実施した。
- 要支援者の一部は、各科の室員が自身の支援室常駐時間を用いてフォローを行った。

(3) 数学・物理の基礎学力向上支援(1,2年生)

- 低学年(1,2年)の数学・物理における要支援者の中で教科担当が特に必要と認めた者には、夏季休業に**課題**を出題し、休暇後の提出時に支援室でフォローを行った。

(4) 到達度試験の対策(3年生)

- 数学の担当教員の協力で、**対策用プリント**の作成・配布をした。
- そのプリントおよび到達度試験の結果は、授業評価の一部として取り入れた。

教員の資質向上

(1) 授業公開の実施

- 平成29年11月20～22日、24日、30日の5日間実施

他教員の授業見学すること、および自身の授業を見学してもらうことで学校全体の授業の質の向上を図る。

専門科担当教員は一般基礎科目の授業内容の把握。

一般基礎科目担当教員は専門科目での応用。

見学後は、「**見学記録・コメントシート**」を記入し、授業担当教員へフィードバックとした。39シートのフィードバックが得られた。

- 授業アンケートで好評であった授業、AL(アクティブラーニング)を試みる授業を見学推奨した。
- 釧路高専の教員1名(物理担当)が見学を行った。

(2) 教員FD

- 平成30年3月5日に実施
- ICT活用教育を含むALの強化を目的として開催
- 「授業中の演習時間確保のための改善案(I科 中井室員)」
- 「試験結果の分析(M科 亀谷室員)」

(3) その他

- 教員アンケートの内容、実施方法、授業改善計画の実施、評価について改善に向けて検討を実施中。
- 第3ブロックAL推進研究会に参加し、他高専とも情報共有を行ってきた。

次年度の活動計画

学生の学力向上・学修支援

- (1) 学修推進支援室の運営（利用者の拡大）
- (2) 要支援者のリストアップと支援（チューターの利用）
- (3) 数学・物理の基礎学力向上、および到達度試験の支援(1-3年生)
- (4) 1年生の数物の要支援者のリメディアル教育の試行(新規)

教員の資質向上

- (1) 授業公開の実施
- (2) 教員FDの実施
- (3) 授業アンケートの改善、授業改善計画の立案、実施

キャリア教育推進室



学年	キャリア教育	キャリア教育推進室（室長：学生主事）						(連携部門)	(連携部門)		
		授業		学科・専攻科	学生主事室			学生課	テクノセンター	入試広報室	
卒業後				OB連携					OB連携		
専攻科2	大学院・大学生と競える就職力養成			就職先訪問							
専攻科1		キャリアデザイン（未開講、カリキュラム検討）インターンシップ	OB講演会	就職活動支援・エントリーシート 添削・模擬面接	インターンシップ先訪問	就職支援講座（人材広告企業連携との連携） 校外就職支援セミナー（マイナビ、メディア総研、学研アソシエ） 就職講演会（人材広告企業との連携）	就職支援講座（人材広告企業連携との連携）	就活・インターシップ支援（進路支援システム対応、企業対応）	地域連携（地元就職先の開拓、校内就職支援セミナー）		
卒業後				OB連携					OB連携		
実習生											
5	就職力養成	キャリアデザイン3（専門）	OB講演会	就職活動支援・エントリーシート 添削・模擬面接	就職先訪問			就活・インターシップ支援（進路支援システム対応、企業対応）			
4		キャリアデザイン2（専門） インターンシップ（専門）			インターンシップ先訪問	校内就職支援セミナー（就活支援） 校外就職支援セミナー（マイナビ、メディア総研、学研アソシエ） 就職講演会（人材広告企業との連携）					
3		キャリアデザイン1（専門）				校内就職支援セミナー（インターンシップ支援）					
2		一般基礎教育2（一般教育）				就職支援講座（人材広告企業連携との連携） 社会基礎力講演会	課外活動支援・リーダーズトレーニング・セミナー				地域連携（地元就職先の開拓、校内就職支援セミナー）
1		社会人基礎力育成 一般基礎教育1（一般教育）			社会人基礎力育成						
0						1 学務委員会における就職状況・キャリア支援の説明			就職状況・キャリア支援状況の説明		

初年度の活動

(1) 授業科目

- **社会人基礎力養成**

一般基礎教育1（1年生），一般基礎教育2（2年生）

- **就職力養成**

キャリアデザイン1（3年生），校外実習（4年生）

(2) 講演会

- **社会人基礎力養成**

交通安全（6/7，全学年），インターネット・薬物（12/6，全学年）

- **就職力養成**

就職指導講演会（12/11，MI4年生，専攻科1年生）

(3) セミナー

- **就職力養成**

校内就職支援セミナー(2/8，3・4年生，専攻科1年生)（企業55社，学生125名）

- **就職力養成**

人材広告企業セミナー参加支援（マイナビ，メディア総研，学研アソシエ）

(4) その他

平成30年度授業科目を対象とした学科横断型就活力養成授業プログラム開発（採用実績のある企業および人材広告企業との連携による授業プログラム開発）



次年度の活動

(1) 授業科目

- 社会人基礎力養成
一般基礎教育1（1年生），一般基礎教育2（2年生），
- 就職力養成
キャリアデザイン1（3年生），キャリアデザイン2・校外実習（4年生）

(2) 講演会

- 社会人基礎力養成
生活安全・倫理に関わる講演会（全学年）
- 就職力養成
就職指導講演会（MI4年生，専攻科1年生）

(3) セミナー

- 就職力養成
校内就職支援セミナー(3・4年生，専攻科1年生)
- 就職力養成
人材広告企業セミナー参加支援（マイナビ，メディア総研，学研アソシエ）

(4) その他

- 平成31年度授業科目を対象とした学科横断型就活力養成授業プログラム開発

グローバル教育推進室



平成29年国際交流

No ¥	事業名	担当	派遣先	対象	実施日	募集人数（予定）	参加費用（予定）	備考
1	M E L キャンプ	鳥羽商船	シンガポール	全学科 1年生以上	① 9月 ② 3月	6名程度	約15～20万 JASSO奨学金3年生以上	
2	ITU練習船実習	鳥羽商船	トルコ共和国	商船学科 3年生以上	3月	3名	約20万	
3	SMA 鳥羽丸トレーニング	鳥羽商船	鳥羽商船	SMA学生 本校学生	9月	SMA13名程度 本校学生13名程度	—	全室員で対応
4	Toba ICT Project	鳥羽商船	鳥羽商船	S P 学生 本校学生	① 9月 ② 3月	SP学生3名	—	M科教員で対応
5	トビタテ！留学 JAPAN 三重県版	三重県			H29年8月18日 ～ H30年1月31日		— (JASSO奨学金あり)	
6	KCC 国際インターン シップ	富山高専	アメリカ合衆国 ハワイ州カウアイ島	商船学科 3年生以上	3月	7名程度	約40万	引率教員 2～3名
7	英語キャンプ	熊本高専	シンガポール	全学科 1年生以上	8月	4名程度	約20万	引率教員 0～2名
8	KCC語学研修	大島商船	アメリカ合衆国 ハワイ州カウアイ島	全学科 3年生以上	9月	1名程度	約35～約40万	
9	アメリカ・オハイオ 州立大学派遣	鈴鹿高専	アメリカ合衆国 オハイオ州	全学科 4、5年生 専攻科生	9月		約30万	
10	NTMA研修	広島商船	フィリピン	商船学科 3・4年生	9月	航海コース2名 機関コース2名	約12万	引率教員1名 ※推進室員以外
11	海外現地法人 インターンシップ	機構本部	フィリピン、他	専攻科 1年生1年 生進学予定者		1名～2名程度	— (高専機構から補助あり)	引率教員 0～1名

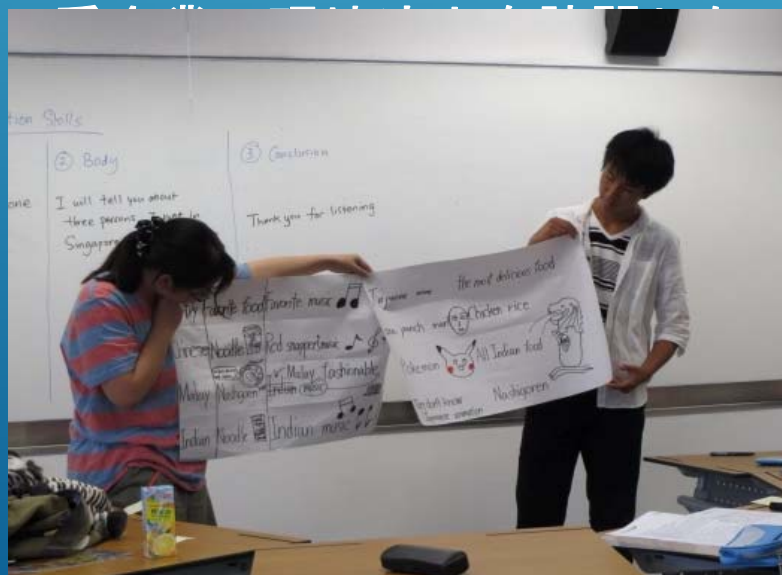
初年度の活動

国際交流事業

(1) MEL CAMP

シンガポール・マリタイム・アカデミーの主催するMELキャンプという乗船プログラム

- 9月に6名の学生を派遣し、3月には8名の学生を派遣することになっている。
- 引率は常に2名体制を取っている。
- 乗船研修前のシンガポール人講師による3日間の英語集中講座を実施。
-



語学研修



船内ワークショップ

(2) SMA鳥羽丸トレーニング

シンガポール・マリタイム・アカデミーから学生と引率教員を招待し、鳥羽丸で研修を行うプログラム

- 学生15名と引率教員1名を招待。
- 15名の本校学生にパートナー形式で交流を行った。
- 鳥羽市長を訪問し、本校の国際交流事業についてアピールする機会も設けた。



実習風景



プレゼンテーションの様子

(3) KCC国際インターンシップ

ハワイのカウアイ・コミュニティー・カレッジの協力のもと、伝統的航海術の講義を受講し、ライフセービングの実習などを受ける、商船系高専5校が共同で行うプログラム

- ホームステイで現地の生活様式を体験し、カウアイの人々との親睦を深める。
- 長年かけて建造された伝統カヌーのメンテナンス作業を行う。
- 屋外で生活をしながら、ハワイの文化を学ぶ。
- 昨年3月は本校から7名の学生が参加し、今年度は2名の学生が参加する



オリエンテーション風景



カヌーのメンテナンス作業

(4) オタゴ・ポリテクニク就業体験プログラム

本年度、機構本部で開発されたもので、ニュージーランドのダニーデンという街でホームステイをしながら、オタゴ・ポリテクニクで研修を行うというプログラム

- その第1回の派遣に全国から18名の高専生が参加し、本校から2名の学生を派遣した。
- 午前中は語学研修、午後は、工学系の様々な分野で活用できる実験実習を行う。
- 特徴的なものとしては、全て同じキャンパス内で行うため、午前中の研修において午後に行う実験実習で用いる化学用語も導入し、安全で円滑な実験実習を行うことができる。
- 現地の企業訪問も行い、グローバルな視野を育むことが期待されています。



実習風景



現地企業訪問の様子

(5) 高専生のための英語キャンプ

熊本高専が九州地区の高専を中心に行っていたプログラムで、開始当初から本校も参加している

- 今年度は、本校から1名の学生が参加した。
- シンガポール・ポリテクニックで語学研修を受講する。
- 現地の日系企業を訪問し、海外に視野を向けさせる。
- 他高専の学生との集団行動を主として、コミュニケーション能力の育成を図る。

(6) SP Project

シンガポール・ポリテクニックの学生が来校し、ゼミ形式でプログラムに取り組む

- 3月3日より、6週間3名の学生が来校する。
- 今年度は、電子機械工学科が担当する。
- プログラムの一環として、本校学生がサポートをしながら、鳥羽の近辺のフィールドワークを行う。
- 本校学生にとっては、国内にしながら、同じ専門分野を学ぶ留学生と交流を深める絶好の機会となる。

(7) プログラミングチャレンジin シンガポール

シンガポールのニース・ポリテクニクで同校の学生、香港のVTC/IIVEの学生と日本の高専生が互いに協力して走行型ロボットの制御プログラムを制作する国際交流プログラム

- 熊本高専の紹介により、3月に実施されるこのプログラムに本校の専攻科生1名が参加する。
- シンガポールでの生活や学生交流を通じて異文化理解を深めることも目的として挙げられている。

(8) トビタテ！留学JAPAN

「トビタテ！留学JAPAN」は、2013年に文部科学省を中心として始まった官民協働の海外留学支援制度

- 今年度は本校から4名の学生が同制度に採用された。
 - ニュージーランド 2名
 - アメリカ・ロサンゼルス 1名
 - ハワイに・カウアイ島 1名
- 次年度、大学生用の理系、複合・融合人材コースの未来テクノロジー人材枠に合格
 - アメリカ合衆国オハイオ州 1名
- 次年度に向け申請
 - 16名の学生が高校生コースに申請中

(9) 国際交流報告会

国際交流事業に参加した学生を中心に、本校に編入する留学生や本校で短期受入を行った学生による発表の場をして報告会を開催している。

第1回国際交流報告会 4月12日（水） 16時～17時

1. MEL Camp (Singapore)
2. KCC国際インターンシップ (Kauai, Hawaii)
3. Toba ICT Project 2017 (Singapore Polytechnic学生)
4. M3留学生、ジュンユ君による自国紹介 (Malaysia)

第2回国際交流報告会 10月31日（火） 16時～17時

1. MEL Camp (Singapore)
2. SMA鳥羽丸トレーニング (本校)
3. オタゴポリテク就業体験プログラム (New Zealand)
4. 短期ロサンゼルス海洋研修 (The United States of America)



英語力強化事業

(1) TOEIC特別対策講座

今年度から、外部講師を依頼して、TOEIC集中講座を開催することになった。夏期休暇中の9月18日から20日の3日間の9時から4時まで、約50名の学生及び教職員が受講した。



講座をやり終えた学生たちの様子

(2) 実用英検、工業英検

- 実用英検については、一次試験の準会場として本校で受験できる。
- 工業英検については、本校が三重県の本会場となっている。
- 昨年度、本校の学生が成績優秀者に贈られる文部科学大臣賞を受賞したが、今年度も、同じ賞を贈られることが決定した。2年も続けて、本校の学生が受賞することは初めてである。

次年度の活動

(1) 国際交流事業

- a) MEL Camp
- b) SMA鳥羽丸トレーニング
- c) KCC国際インターンシップ
- d) オタゴ・ポリテクニク就業体験プログラム
- e) 高専生のための英語キャンプ
- f) Toba ICT Project
- g) トビタテ！留学JAPAN

(2) 英語力強化事業

- a) TOEIC特別対策講座
- b) 実用英検、工業英検

平成30年国際交 渉

No	事業名	担当	派遣先	対象	実施日	募集人数（予定）	参加費用（予定）	備考
1	M E L キャンプ	鳥羽商船	シンガポール	全学科 1年生以上	9月	8名程度	約30万	引率教員2名
2	SMA 鳥羽丸トレーニング	鳥羽商船	鳥羽商船	SMA学生 本校学生	9月	SMA15名程度 本校学生15名程度	—	全室員で対応
3	Toba ICT Project	鳥羽商船	鳥羽商船	S P 学生 本校学生	3月	SP学生3名	—	I 科教員で対応
4	K C C 国際インターンシップ	富山高専	アメリカ合衆国 ハワイ州カウアイ島	商船学科 3年生以上	3月	5高専で15名程度	約40万	引率教員 2～3名
5	英語キャンプ	熊本高専	シンガポール	全学科 1年生以上	8月	全国で20名	約20万	引率教員 0～2名
6	オタゴ・ポリテク ニク就業体験プログラム	八戸高専	ニュージーランド	3年生	9月	全国で30名	約35万	引率教員1名
7	K C C 語学研修	大島商船	アメリカ合衆国 ハワイ州カウアイ島	全学科 3年生以上	9月	本校1名程度	約35～約40万	
8	アメリカ・オハイオ 州立大学派遣	鈴鹿高専	アメリカ合衆国 オハイオ州	全学科 4、5年生 専攻科生	9月		約30万	

KOSEN4.0イニシアティブ



“KOSEN（高専） 4. 0”イニシアティブ

各学校において、「日本再興戦略2016」や「高等専門学校の充実に関する調査研究協力者会議」における提言等を踏まえつつ、「新産業を牽引する人材育成」「地域への貢献」「国際化の加速・推進」を軸に、それぞれの特徴の伸長を目指すとともに、カリキュラムの改訂や組織改編などに取り組む。

新産業を牽引する人材育成

- ・ 情報セキュリティ・IoTなど超スマート社会の社会実装を担うエンジニアの養成
- ・ 小中学生など将来の技術者の裾野拡大（海事への理解促進等）など

- ・ 農林水産・医療介護・航空・海洋等地域の特色ある産業を踏まえ、地域を支える人材育成の充実・定着の取組など

地域への貢献

- ・ 海外の大学・ポリテク等教育機関や日本企業の現地法人など企業との連携の強化
- ・ 長期インターン等の海外における教育研究活動充実など

国際化の加速・推進

平成28年度採択事業

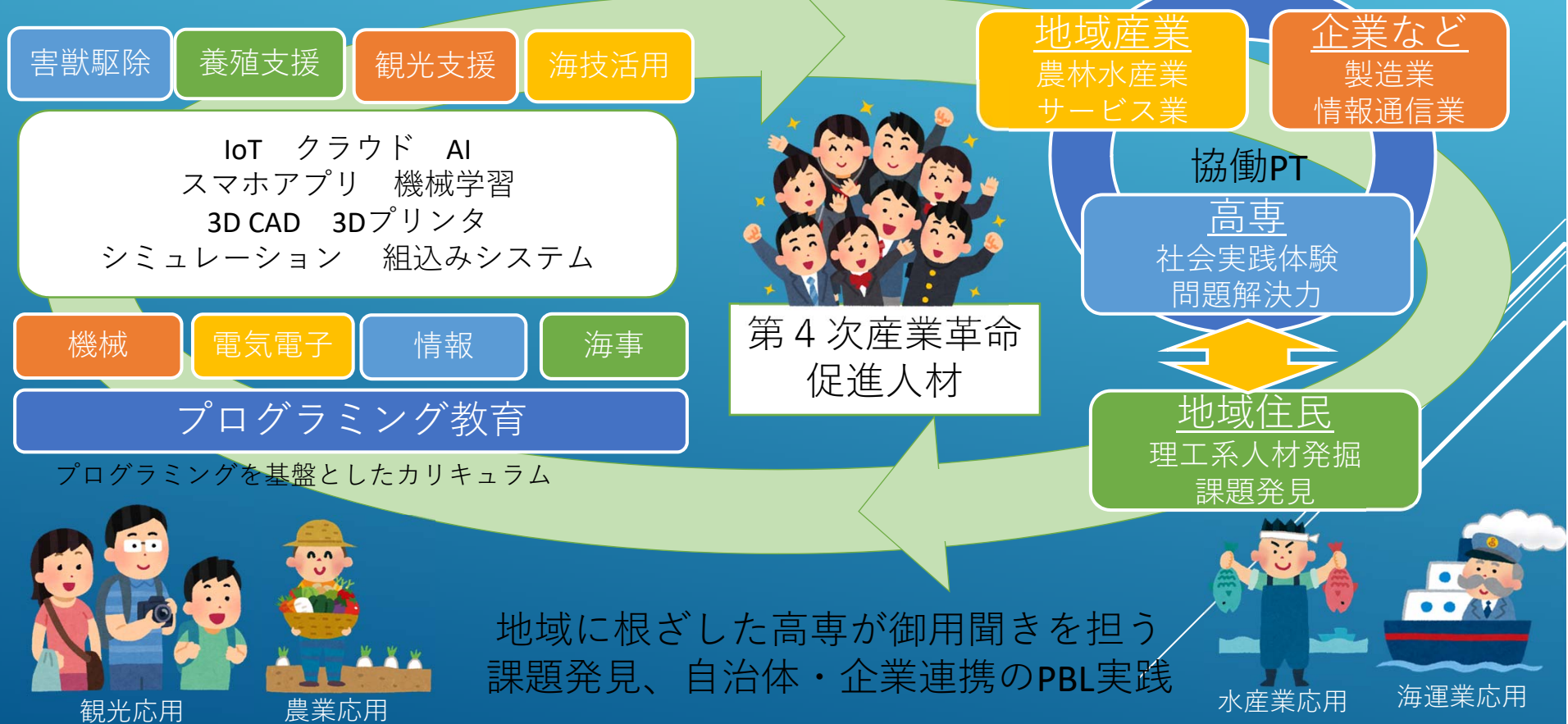


第4次産業革命を促進するプログラマ育成と地域活性モデル

農林水産・観光業が盛んな三重県の抱える課題をPBLで解決し、地域貢献はもちろん、学生の技術向上を図り、知の拠点となる。



- ・ 入学半年間の集中したプログラミング教育で論理的思考能力育成
- ・ 機械・電気電子・情報・海事分野、将来活躍する分野での適用
- ・ 学生の特性に合わせた多様な「Specialist・Generalist」教育システム





第4次産業革命を促進する プログラマ育成と地域活性モデル

Fostering Programmers and Regional Activity Model to
Promote the 4th Industrial Revolution

鳥羽商船高等専門学校

National Institute of Technology, Toba College



フォーラム開催（2018/02/23）



基調講演（三重大学・坂本教授）



パネルディスカッション



学生・教員による事例紹介（8件）



ポスターセッション（23件）

学科改組を目指して

「情報機械システム工学科」への改組

別図1

Department of Intelligent Mechanical Engineering

3つの特色を持つ新学科

- 学生の個性に合わせて6つのモデルを提供
- 学年縦断型のチーム編成で地域課題解決PBL
- 少子高齢化による人手不足の解決手法提案

問題の解消

- 高齢化、若者の地元定着不足による地域産業の衰退
- ICT・IoTを利用して新産業をリードする人材不足

伊勢志摩地域の特色ある産業の支援を通じた地域への貢献

- 地元の特色である水産業や農業、観光業での問題・課題を、教員、学生の混成チームによって解決し、地域への貢献を図る

地域連携による超スマート社会に対応する新産業の創出

- 地方創生促進事業で提携している県内の大学との連携強化
- 地元商業・農業系高校と連携し、学科で構築した仕組みの実証
- 本学科が持つ強み(IoT、AI、ものづくり)を増幅させ、新産業を創出

産業界と連携しアントレプレナーシップを持った人材の育成

- 地元企業・大手企業との連携・ネットワークをさらに強化
- 地元を題材としたソリューションの提案を通じ、ビジネス視点を持ち地域で起業可能な人材の育成

小中学生などを対象とする将来の技術者裾野拡大の取り組み

- 情報格差が大きい伊勢志摩地域で唯一の工業系高等教育機関
- 公開講座・出前授業、さらにはコンテスト開催などを通じて地域の若年からの工学教育・プログラミング教育を主導的に推進

地域連携PBL

農林水産・観光サービスなど

6つの履修モデル

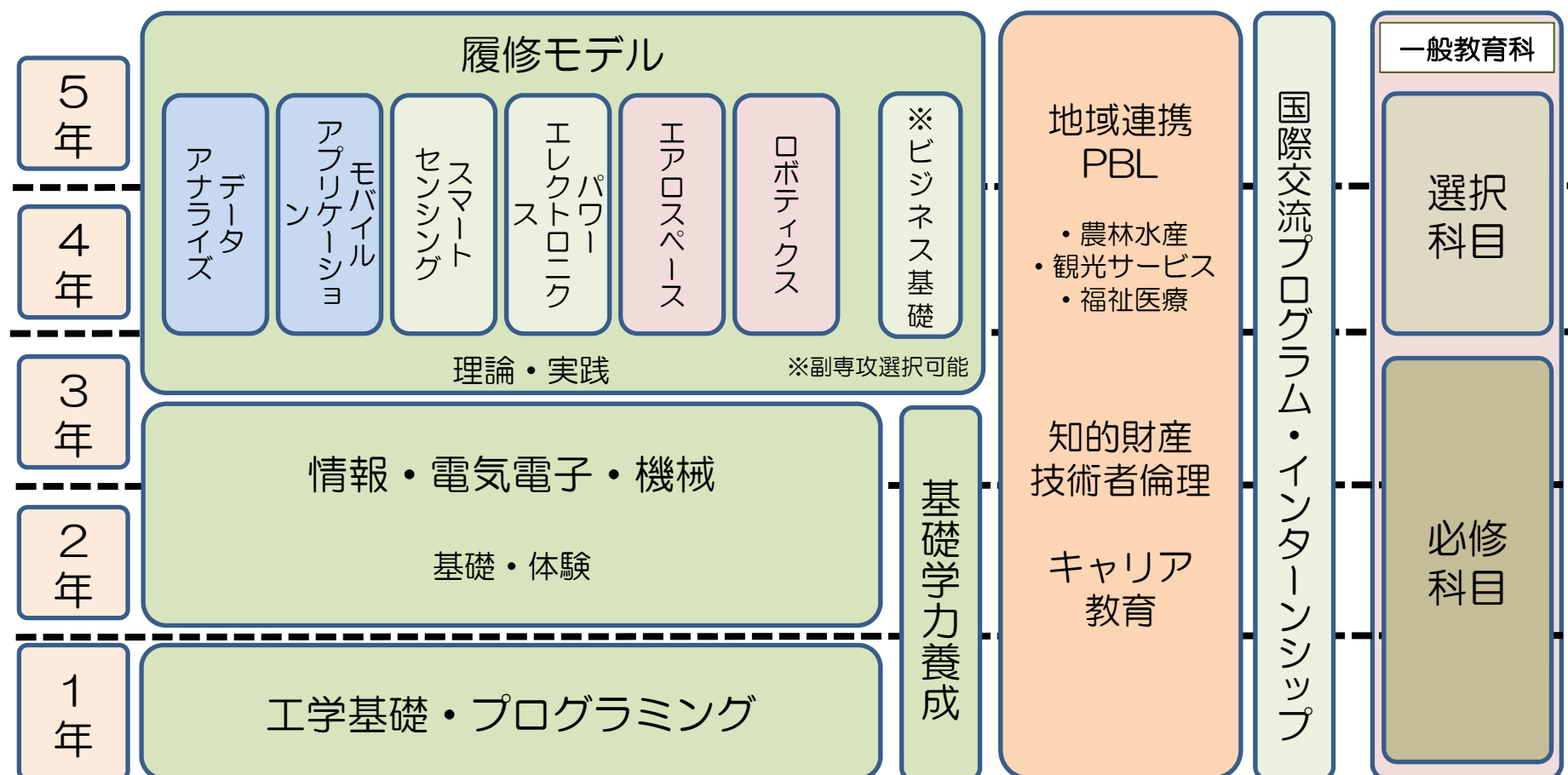
ロボティクス
エアロスペース
スマートセンシング
パワーエレクトロニクス
モバイルアプリ
データアナライズ

基礎となる分野

機械・電気電子・情報
プログラミング

情報機械システム工学科「カリキュラム」構成

- ・ 情報分野を主専攻、機械分野を副専攻とする融合複合学科
(両分野をつなぐ電気電子分野についても、必要最低限を必修科目として配置)
- ・ 1年次には、プログラマ(論理的)思考を定着させるためのプログラミング教育を実施
- ・ 2・3年次には、3分野の基礎科目の履修を通じ、体験により対象分野への興味を持たせる
- ・ 4・5年次には、6つのモデルから自らが主軸とする分野を決定し、理論的に実践可能な人材とする
(入学後のミスマッチを防ぎ、特定の分野を深く学ぶか、全体的に広く学ぶかを選択できる)
- ・ ビジネス的な視点を持たせるために、工業・商業簿記等を取得できるような副専攻モデルを配置

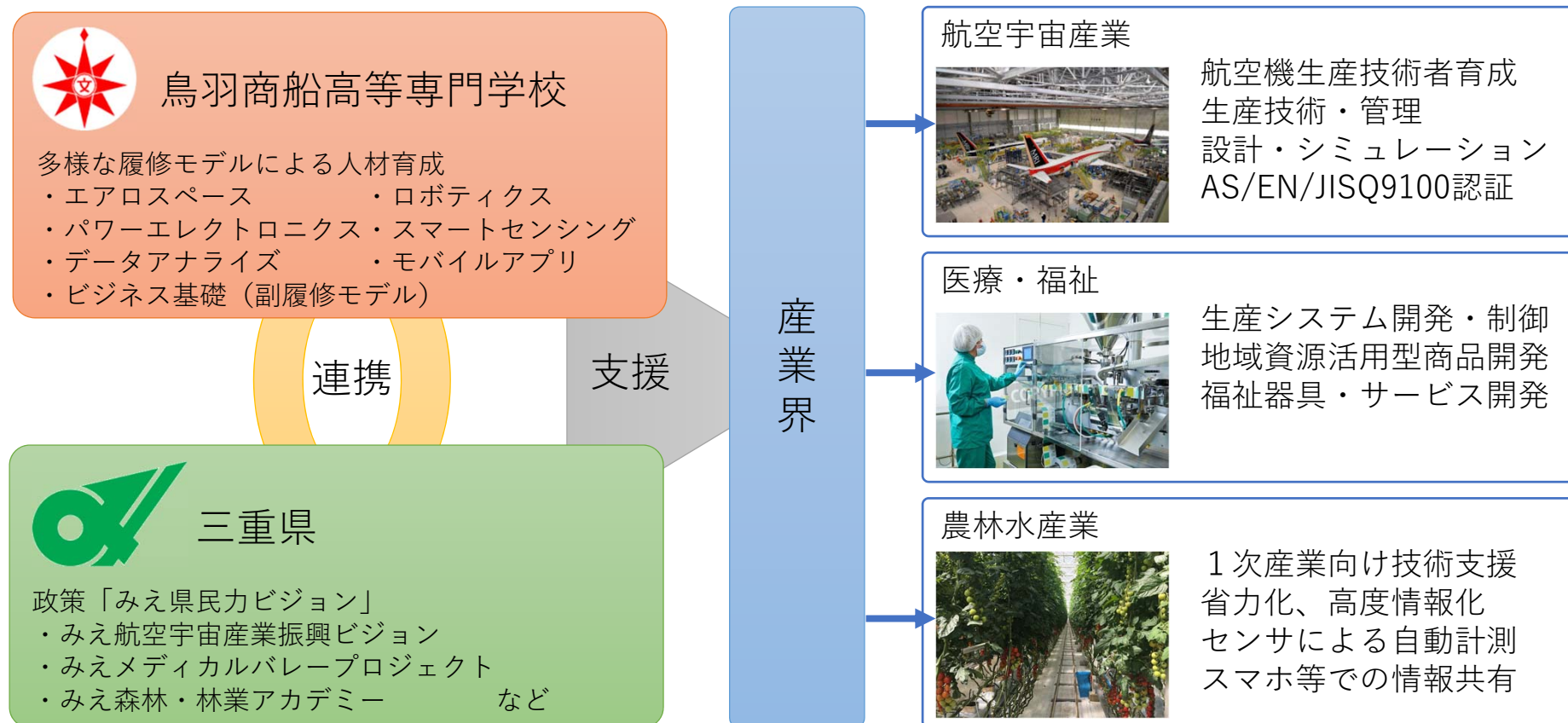


次年度申請予定事業



三重県と連携し地域の特色を活かした新産業創出人材育成

低学年次に習得した論理的思考能力および地域連携PBLで得た課題解決能力を土台に、三重県の注力する産業界と連携し新産業の創出を進め、技術的に支援可能な人材育成を目指す将来的に、異分野の産業創出がなされたとしても広く適用可能なカリキュラム策定を進める

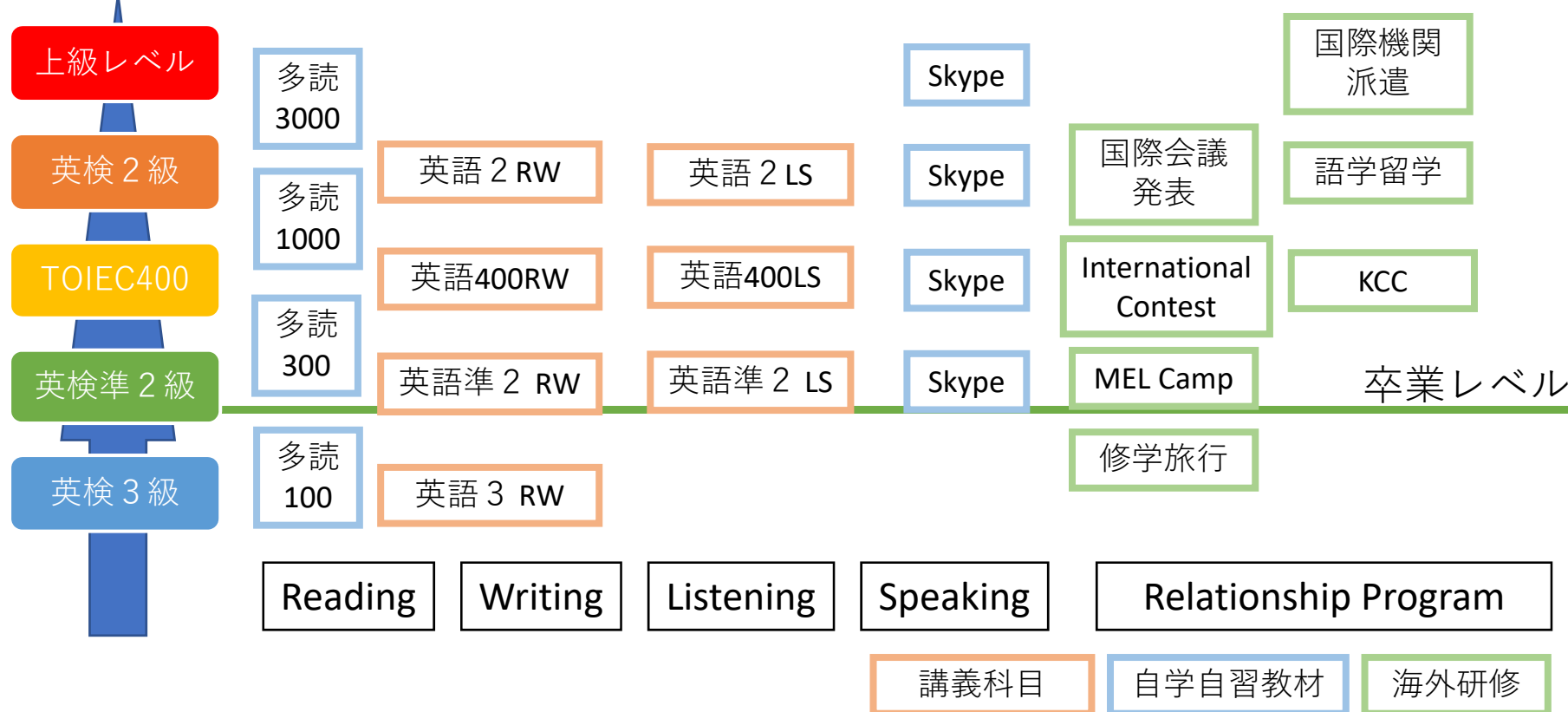


- ・ 6つのモデルにより専門性を深化させ、産業界との直接的な連携により即戦力となる人材を育成
- ・ これまで工業技術が活用されなかった分野を開拓し、新規技術を開発、適用・定着を目指す
- ・ ビジネス基礎を学び、経営者と関わる中で、アントレプレナーシップを育成

学生個々の英語力に応じた学修環境・機会の整備と単位化

英語は学生がそれまでに取り組んだ内容、機会、向き不向きによって大きく依存するものの、個人学習に対応した教材が多数存在する学修分野である。

本取り組みでは、英語の学修環境・教材・国際交流プログラムを複数用意し、学生の英語力に応じて授業を展開し、自主学習についても単位認定可能な履修システムを構築する。



- 3年次で英検準2級、5年次で英検2級/TOIEC400をクリアすれば、授業等で単位修得しなくとも英語の卒業・進級要件を満たす。
- 5年修了時の最低到達レベルは英検準2級とする。

教育改善に関わる 連携プロジェクト



国立高専における次世代の海洋人材の育成に関する取組み －海事への理解促進と高専が担う次世代の海洋人材の育成－

次世代海事人材育成システムの構築

主幹校：富山

連携校：鳥羽、広島、大島、弓削

連携機関：日本船主協会、全日本船舶職員協会、全日本海員組合、

国際線員労務協会

1. グローバル教育の高等教育への実施

1.1 英語力(コミュニケーション力)向上プログラムの開発

2. 高度な専門教育と確実なキャリア教育の高等教育への実施・検討

2.1 海事・海洋教育カリキュラム

2.2 海事キャリア教育セミナー

2.3 教科教材の充実

3. 産学連携強化に基づく海事・海洋教育システムの調査・検討

3.1 海運界ニーズ適合性と海事養育システムの検証

3.2 適合性確保のための教員FD研修

他機関との連携



鈴鹿高専との連携

1.教務主事関係

- PR活動
 - ・学祭で、各校の展示ブースを設置。
 - ・鳥羽丸PR航海で鈴鹿の宣伝ブースを設置。
 - ・中学校巡回PRで双方のパンフレットを配布。
- 入学説明会
 - ・近大高専、鈴鹿高専との合同説明会（志摩は本校主催）
- 入試関係
 - ・互いの学校を試験会場に設定。
 - ・両校での複数校受験の可能性を検討。継続中。
- 特別講義等の鳥羽から鈴鹿への配信

2学生主事関係

- 各種規則に関する情報交換
- 学生会の交流
 - ・鳥羽のリーダーストレーニングに鈴鹿から参加。

3.寮務主事室関係

- 各種規則に関する情報交換
- 寮生役員の交流会

和歌山高専の連携

紀伊半島×海洋×KOSEN プロジェクト ー 海洋CUBIC(K³)プロジェクト ー



海を未来に引き継ぐ
紀伊半島の海 連携事業

紀伊半島

三重県

鳥羽商船高専



鳥羽商船高専の練習船
「鳥羽丸」



日高港

和歌山高専



和歌山高専ー鳥羽商船高専

連携予定:

和歌山県, 海洋研究開発機構, 東京海洋大学

和歌山県

海との関係性「体験」スコア

47 都道府県中 第3位

(海と日本意識調査結果:2017日本財団)

太平洋

海の課題

海の大課題
海の異常気象、大規模災害
災害時連携

海の資源

再生可能エネルギー

海の資源

海底資源エネルギー

海の資源・海の異常

環境整備・保全・修復

海の資源

海洋生物資源

地域との連携・貢献



県内機関との連携

三重県教育委員会との連携

- 鈴鹿高専と共に、三重県教育委員会との連携・協力を図る

三重県との連携

- 三重県工業研究所の機器見学と意見交換を行った（10月24日）
- 三重県工業研究所との連携協力に関する協定書調印（1月16日）
- 三重県庁との意見交換を行い、本校の持つ技術の紹介を三重県の推奨する事業と連携した人材育成を進めることで協議した（1月12日）

鳥羽市との連携

- 鳥羽市役所との意見交換を行い、本校の持つ技術の紹介を行った（10月25日）
- 鳥羽市との包括協定締結（3月28日）

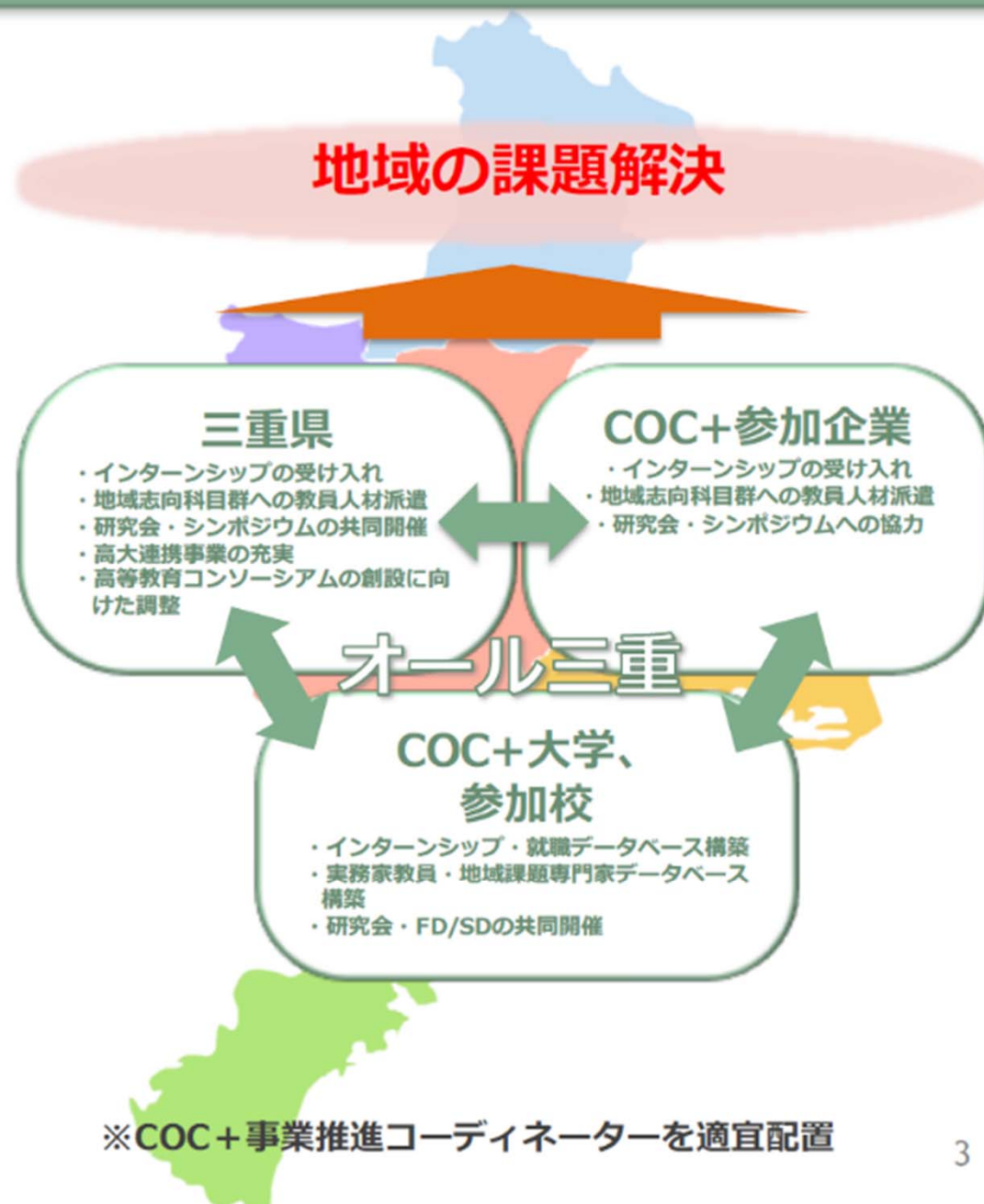
「地域イノベーションを推進する三重創生ファンタジスタの養成」事業の概要

【事業目的】

- 地域の課題に対してさまざまな主体との多面的な視点から対話をしながら、地域のイノベーションを推進できる三重創生ファンタジスタを創出する。

【数値目標】

- 事業協働地域の県内就職率を5年間で10%向上させる。
- 三重大学の県内就職率を5年間で10%向上させる。
- 事業協働機関において5年間で30人の新規雇用を創出する。
- 事業協働機関へのインターンシップ参加者を5年間で2倍にする。
- COC+参加校以外の事業協働機関による満足度を100%とする。



COC+事業 地域イノベーションを推進する三重創生ファンタジスタの養成

文部科学省 地(知)の拠点

三重創生ファンタジスタ (ベーシック)資格 始動!!!

県内のことを熟知! 使い方次第で県内就職に有利!!

君も主役だ!! 三重創生ファンタジスタ

三重創生ファンタジスタって どんな人?

- 三重県内の歴史、文化、産業等の特徴を理解している
- 地域が抱える課題に対して深く関心を持っている
- 能動的な活躍を期待できる
- 三重県が大好きで、地方創生に興味がある人!!

三重創生ファンタジスタって どんな資格?

- 県内全高等教育機関(大学・短大・高专)が連携して教育する資格プログラム
- 県内企業や自治体も連携しているから、県内における資格の認知度◎
- 三重県で就職して、三重県で活躍したいと思える人にピッタリな資格!

三重創生ファンタジスタは 誰でもなれる?

- 平成29年度以降に対象科目の必要単位数を修得すること
※詳細は裏面参照
- 誰でも目指すことができます!!

三重創生ファンタジスタになるための詳細は裏面に記載 >>>>>



三重を通して世界を見てみよう
地域の新たな魅力を見つけ出そう

三重創生ファンタジスタ (ベーシック)資格対象科目

学科等	科目名	種別	学年	単位数	認定条件	開講 (県中)
電子機械工学科	特別講義	学修	4	1	県内企業からの講師派遣があること。	後期
	校外実習	学修	4	1	県内企業のインターンシップであること。	前期
	プレゼンテーション演習	履修	4	1	地域に関わる調査結果のプレゼンテーションであること。	後期
	工学実験Ⅲ	履修	5	3	地域に関わる実験テーマであること。	通年
	卒業研究	履修	5	8	県内企業との共同研究または地域に関わる研究であること。	通年
制御情報工学特別講義I	特別講義I	学修	4	1	県内医療系高等教育機関ないし県内医療機関からの講師派遣があること。	後期 (県中)
	校外実習	学修	4	1	県内企業のインターンシップであること。	前期
	工学実験3	履修	4	3	三重県の抱えている課題等について取り上げ、それを実験テーマとすること。	通年
	組み込みシステム工学	学修	5	2	県内企業との共同研究または地域に関わるテーマが含まれていること。	前期
	情報通信	学修	5	2	最新のクラウド活用事例などをテーマに、県内企業からの講師派遣があること。	後期
生産システム工学専攻	卒業研究	履修	5	8	県内企業との共同研究または地域に関わる研究であること。	通年
	環境化学	学修	2	2	県内の環境問題を取り上げていること。	前期
	生産システム工学実験	学修	1,2	各2	三重県に関する題材を取り上げていること。	通年
	生産システム工学特別実習	学修	1	2	県内企業のインターンシップであること。	前期 (県中)
	生産システム工学特別演習	学修	1,2	各1	地域をテーマにしたものであること。	1年:後期 2年:前期
生産システム工学特別研究I	特別研究I	学修	1	5	県内企業との共同研究または地域に関わる研究であること。	通年
	生産システム工学特別研究II	学修	2	5	県内企業との共同研究または地域に関わる研究であること。	通年

上記から90時間以上を平成29年度以降に修得。なお、学修単位は1単位15時間、履修単位は1単位30時間です。

手続き方法

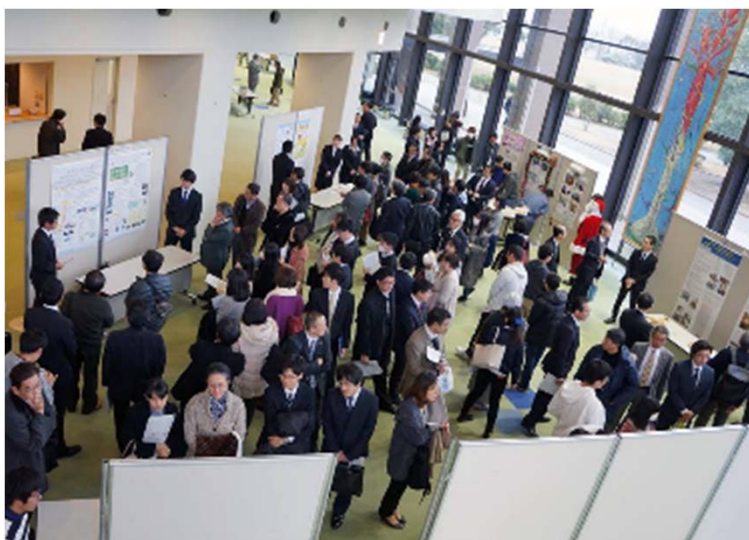
三重創生ファンタジスタ(ベーシック)資格認定については、自己申請とします。
上記の科目より修得必要単位数を満たした場合は、単位認定申請書を教務係に提出して下さい。

君も主役だ!! 三重創生ファンタジスタ

担当部署 鳥羽商船高等専門学校 学生課 教務係
TEL 0599-25-8032
MAIL gakusei-kyomu@toba-cmt.ac.jp
HP(COC+) <http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/>

鳥羽商船高専の成果

- 11月26日 COC+シンポジウムにて学生ポスター発表
優秀発表賞を受賞
- 2月12日 みえまちキャンパスで地域交流事業2件発表
- 三重創生ファンタジスタ（ベーシック）資格 **11名認定**



高等教育コンソーシアムみえ

高等教育コンソーシアムみえ

COC+事業

交通アクセス

お問い合わせ



高等教育コンソーシアムみえについて

事業内容

イベント・行事

その他参考情報



高等教育コンソーシアムみえ



学生の方へ



教職員の方へ



一般の方へ

NEWS・イベント情報

2017.2.13

セミナー『地域経済活性化支援機構 (REVIC) の観光活性化の取り組み』を開催します。

地域貢献

みえアカデミックセミナー2017で講演

一般教育科 佐波 学：マテマティクスは数学か？～攻玉社と幕末維新期の「数学」～

みんなでたのしく遊ぼう！ロボット教室(池上地区)

「みえリーディング産業展2017」に出展

公開講座

「サイテクランド in 鳥羽商船高専2017」

「海の仕事を知ろう！ 夏休み小学生乗船体験」

「小学生のためのバレーボール教室」

学生の活躍



学生の活躍

プロコン

課題部門 最優秀賞（文部科学大臣賞）
STEP ースコアブックと連動する
動画閲覧システムー
特別賞
テレスコア
自由部門 優秀賞、企業賞
うみどり ードローンを用いた水
産業支援システムー



高専ロボコン デザイン賞 & 特別賞(安川電機賞)のダブル受賞、全国大会出場

Aチーム（ロボコン部チーム：鳥羽G3） ベスト4、デザイン賞、全国出場
E鳥)



学生の活躍

Hack U 2017

大阪会場

「Water Melon Sound」 (優秀賞)



学生スマートフォン
アプリコンテス
ト

「ひよっこ」チーム
プレゼンテーション賞
「Pぼでい」チーム
ヤング賞



PLC制御コンテスト優
勝

オムロン株式会社・国立高等専門学校機構 共同教育プロジェクト

平成29年度 PLC 制御コンテスト



学生の活躍

女子バレー

東海地区高専大会優勝



気象観測機器コンテスト

「おんぷら」 最優秀賞

「かきいれどき」 代表理事特別賞



少林寺拳法三重県大会で
学生3名が最優秀賞受賞



全日本ソーラー&
人力ボートレース大会2017
一周スラローム準優勝



空手

東海地区高専大会
団体組手優勝



ご清聴ありがとうございました



平成29年度 学生の活躍記事(新聞)

No.	日 付	記事タイトル	対象学生	備 考
1	29. 12. 2	鳥羽商船高専の5人システム開発「全国コン最優秀賞部活での普及狙う」	制御情報工学科	中日新聞
2	29. 11. 27	鳥羽商船全国2連覇「気象観測機器コンテスト」	制御情報工学科	中日新聞
3	29. 10. 14	鳥羽商船生に啓発活動協力	電子機械工学科	中日新聞
4	29. 10. 14	全国高専プログラミング課題部門「鳥羽商船が最優秀」	制御情報工学科	中日新聞
5	29. 10. 12	全国高専プログラミングコンテスト「鳥羽商船が最優秀」	制御情報工学科	読売新聞
6	29. 9. 14	鳥羽商船で操船技術学ぶ「シンガポールの学生、市長訪問」	商船学科	伊勢新聞
7	29. 9. 14	鳥羽商船で15人研修始める「シンガポールの船員養成学校生」	商船学科	中日新聞
8	29. 8. 23	実験通じ科学に興味「鳥羽商船 小中学生が体験教室」	電子機械工学科	中日新聞
9	29. 7. 19	少林寺拳法で全国へ	少林寺拳法部	中日新聞

平成29年度 学生の活躍記事(本校HP)

No.	日 付	記事タイトル	対象学生	備 考
1	29. 12. 26	平成29年度PLC制御コンテストで優勝	制御情報工学科	
2	29. 12. 26	MashupAwards2017 優秀賞受賞！	電子機械工学科	
3	29. 12. 03	ロボットコンテスト全国大会結果	ロボコン部	
4	29. 11. 18	第6回気象文化大賞「高校・高専 気象観測機器コンテスト」最優秀賞・代表理事特別賞受賞	制御情報工学科	
5	29. 10. 31	少林寺拳法三重県大会で学生3名が最優秀賞受賞	少林寺拳法部	
6	29. 10. 15	高専ロボコン デザイン賞&特別賞（安川電機賞）のダブル受賞、全国大会出場	ロボコン部	
7	29. 10. 9	高専プロコン 最優秀賞・優秀賞・特別賞を受賞	制御情報工学科	
8	29. 9. 16	三重県高校新人陸上競技大会男子走高跳で6位入賞 →東海高校新人出場資格獲得	電子機械工学科	
9	29. 9. 6	学生スマートフォンアプリコンテスト 受賞	制御情報工学科	
10	29. 9. 6	全日本ソーラー&人力ボートレース大会2017にて 一周スラローム準優勝	商船学科	
11	29. 8. 29	HackU2017大阪 優秀賞受賞	電子機械工学科	
12	29. 7. 10	空手部 東海地区高専大会で団体組手優勝	空手部	
13	29. 7. 5	バレー部女子・東海地区高専体育大会で優勝	バレーボール部	

別添様式				平成２９年度 年度計画達成状況
年度計画		委員会等	事務	判断理由 (計画の実施状況等)
１ 教育に関する事項				
(１) 入学者の確保				
①	県内外中学校（春季：約150校、秋季：約170校）を訪問し、中学校教員に本校の特色、教育内容、入試制度等の説明を行うとともに、中学校からの要望等を収集し、以後のPRに反映する。 また、同窓会を活用して、入学者確保を推進する。	教務	入試・支援	① 今年度は、巡回PRの訪問校を春季：151校、秋季：232校に増やし、学校PR、情報収集を行った。 また同窓会構成員に御尽力を願い、地元中学校へポスター、パンフレット等を届けていただいた。
②	学校行事、各種イベント開催、コンテスト参加等について、事前にマスメディアに通知し、PR活動を行う。 同様に、コンテスト等で受賞した場合には、積極的にマスメディア等へ連絡し報道されるよう努める。	広報・公開	総務	② 学校行事、各種イベント開催、コンテスト参加等について、事前にマスメディアに通知し、PR活動を行うとともに、以下の受賞をHP等で公表した。 ・全国高専プロコンでの文部科学大臣賞、最優秀賞等の受賞（読売新聞、中日新聞で報道）。 ・高専ロボコンでの全国大会出場。 ・高校・高専 気象観測機器コンテストでの2年連続最優秀賞受賞（中日新聞で報道）。
③	入試広報室を中心に、中学校主催の「進学説明会」に出向き、本校の特色、教育内容、入試制度等の説明を行うとともに、中学校からの要望等を収集し、以後のPRに反映する。	教務	入試・支援	③ 今年度は、県内26校の中学校主催による進学説明会に参加し、本校の特色、教育内容、入試制度等の説明を行うとともに、中学校からの要望等を収集した。
④	工業系学科志願者については、入試広報室を中心に、県内他高専と協力して積極的なPR活動を展開する。	教務	入試・支援	④ 入試広報室が、鈴鹿高専、近大高専との合同説明会を企画し、県内外において6回開催した。(名古屋（7月31日）・蟹江（7月28日）・桑名（8月8日）・伊勢（8月4日）・志摩（10月7日）・尾鷲（8月3日）)
⑤	商船学科を有する5高専の合同進学ガイダンス(今年度は4回開催予定)のすべてに参加し、PR活動を実施するとともに、海事関連機関との連携のもとで、志願者増加を目指した広報活動を行う。	教務	入試・支援	⑤ 全4回すべての合同ガイダンスすべてに参加し、全合同ガイダンスで230名の参加者を集め(昨年度:213名)、本校のPRを行った。
⑥	練習船鳥羽丸を活用したPR活動について、例年どおりの四日市港、名古屋港に加え、今年度は阪神港大阪区でのイベントにも参加し、関西地区での志願者獲得のための端緒とする。	広報・公開	入試・支援	⑥ 四日市港のイベントは、8月5日と6日に行われ、鳥羽丸見学に500人以上が訪れた。 大阪港のイベントは悪天候のため中止となったが、11月11日開催の名古屋港イベントでは、鳥羽丸乗船企画に33組75人の申込みがあり、昨年の実績(26組50人)を上回った。
⑦	ホームページに「トピックス」、「イベント情報」、「学生の活躍」、「卒業生の進路」などを随時掲載し、本校のPR活動を積極的に進める。	広報・公開	総務	⑦ HPをリニューアルし、卒業生の進路、学生活動の紹介、国際交流事業の報告、新設備の紹介等を閲覧できるようにすることで本校のPR活動を積極的に進められるようにした。また、スマホ版HPも新設した。なお、新HPは平成30年度から本格稼働させる。
⑧	中学生とその保護者及び教諭を対象とした「学校説明会」について、参加者の増加を目指し、中学校側の意見を重視して開催日程等を調整するとともに、体験航海、ロボット製作など魅力ある体験プログラムを企画して、志願者増加へとつなげる。	教務	入試・支援	⑧ 「学校説明会」は、8月18日と19日、予定通り開催され、昨年(399名)を大きく上回る496名の申込みがあり、当日の各企画も概ね好評であった。
⑨	海学祭を、本校の入試広報活動により効果的に利用するとともに、中学生の参加者増加を目指し、巡回PRや学校説明会等の機会に同学祭のPRを行う。	教務	入試・支援	⑨ 秋季巡回PRを海学祭開催日までに実施することで、海学祭及び同時開催の入試説明会のPRに努めた。なお当日は、台風の影響により、海学祭の催事がすべて中止となる中、入試説明会は午前の部のみ実施され、36名の参加者が訪れた。
⑩	合同進学ガイダンス、学校説明会等において、女子中学生向けPR活動を行う。	教務	入試・支援	⑩ 合同進学ガイダンス、学校説明会等の各イベントにおいて、「きらきら高専ガール」を配布するなど、PR活動を行った。また、「理系女子フォーラムみえ2017」に参加し、県内の女子中学生や保護者に、本校の取り組みをPRした。
⑪	2017年版でリニューアルした学校案内について、2019年度版に向けて掲載内容を再考し、さらにPR効果の高いパンフレットに仕上げる。	教務	入試・支援	⑪ PR効果を考慮して掲載写真の差換やレイアウト変更などの工夫を加えて、2018年度版を15,000部を作成した。また、2019年度版に向けて改訂作業を進めている。
⑫	全ての入学者選抜方法において、アドミッションポリシーを配慮したものとしたが、その適用が適切であるか、検証を行う。	教務	入試・支援	⑫ 入学者の、入学志願者調査書における評点(学習の記録)以外の評価項目を対象に検証、追跡調査を行い、新たな入学者選抜方法を決定し、平成31年度から適用することとした。また、志願者のいなかった岐阜を除いて、県外受験地（東京、名古屋、大阪）と県内最寄校受験地（鈴鹿高専）にて学力検査を実施した。
⑬	マークシート方式への変更から3回目の入試を迎えるに当たり、昨年に続き今年度も各実施マニュアルを見直し、入試ミスの防止に努める。	教務	入試・支援	⑬ 前年度入試を踏まえ、監督要領、職務要領を見直し、改訂を行うとともに、答案用紙確認担当者を増やすなど体制を強化し、入試ミス、トラブル防止に努めた。
⑭	昨年に引き続き、県外受験地（東京、名古屋、大阪、岐阜）及び県内最寄校受験地として鈴鹿工業高専において学力検査を実施する。	教務	入試・支援	⑭ 計画通り決定し、募集要項にその旨記載した。なお、県外受験地の設置が適切かどうか検討するため、県外受験地の受験生にアンケート調査を実施し、今後の検討資料とすることとした。

年度計画	委員会等	事務	判断理由 (計画の実施状況等)
⑮ 県内中学校の志願状況を分析し、志願者数の少ない中学校に対しての重点的なPR活動に活かすとともに、愛知、静岡、和歌山等、県外中学校への巡回PRも行う。 また、機構作成のパンフレット「きらきら高専ガール」を配布する等、女子中学生向けPR活動を行う。	教務	入試・支援	⑮ 巡回PRにおける県外の新規訪問校に新たな10校を加えた。 また、「理系女子フォーラムみえ2017」に参加し、県内の女子中学生や保護者に、本校の取り組みをPRした。 なお、「きらきら高専ガール」の配布を各種イベントで行った。
⑯ 過去の入学志願者の分析、入学者学力等の追跡調査に基づき、平成31年度入学試験に向けて、入試制度改革を行う。	教務	入試・支援	⑯ 過去の入学志願者の分析、入学者学力等の追跡調査に基づき、新たな入学選抜方法を平成31年度から適用することとした。
⑰ 学校説明会参加者及び各入学試験受験者に対してアンケートを実施し、次年度の入学志願者獲得の活動に活かす。	教務	入試・支援	⑰ 学校説明会においてアンケートを実施し、入試広報室で分析した結果を教務委員会で検証した。 また、入学試験受験者に対しても、体験学習、推薦、学力選抜においてそれぞれアンケートを実施し、各種PR等の効果について検証することになっている。
⑱ 4年生を対象にアンケートを実施し、本校の教育目標及び学科の教育目的の達成度を検証する。	教務	教務	⑱ 6月に4年生108名にアンケートを実施し、集計結果を主事、学科長で情報共有を行った。集計結果より、各項目の評価平均は4段階中（最上）2.7であった。
⑲ 教育施設・設備や学寮等の学生就学環境の向上を目指した整備に努める。	教務 寮務 施設 環境整備	教務 学生生活	⑲ 今年度に、学修推進支援室・キャリア教育推進室・グローバル教育推進室を設け、共用室1を学修推進支援室の活動拠点とし、自主学習、補習の場として活用している。 また、学寮定員の見直し、寮室の空室の有効利用等について検討を行った。
(2) 教育課程の編成等			
① 商船学科の高度化を踏まえた将来構想についての検討を継続して行う。 練習船鳥羽丸の代替新造を目指し、5商船高専が連携して、基本構想の検討を開始する。	将来計画	企画・地域連携	① 商船学科の高度化を踏まえた将来構想についての検討を継続中で昨年に引き続き、今年度もKOSEN4.0イニシアティブに申請予定である。また、5商船が連携して練習船の代替新造を目指し、商船系校長・事務部長会議の下で、商船系高専練習船更新WGを立上げ、1校1練習船を軸とした基本構想（要求書）の検討を開始した。
② 工業系2学科の再編について、平成31年度改組を目標に進める。	将来計画	企画・地域連携	② 工業系2学科の平成31年度改組案を作成し、機構本部との事前打ち合わせを実施（9月13日）、メール等で審議しながら再修正案を作成し、本部に提出済み。次回打ち合わせ日時を調整中である。なお、工業系学科の改組についてはKOSEN4.0イニシアティブで、それに向けた準備内容で採択され、平成30年度まで事業を継続する予定である。
③ 高度連携関係にある鈴鹿工業高専との教育・研究・学生指導等について、引き続き連携協力する。	校長	課長補佐 (総務担当)	③ 第14回鳥羽商船高専と鈴鹿工業高専との連携強化推進委員会を開催し、両校の教務、学生、寮務、研究の各主事間及び事務部長間での連携事項について協議し、協力体制の強化を協議した（7月13日）。また、3月9日に、鈴鹿との協力事業について総括し、次年度計画につなげる予定である。
④ 各学科・専攻科の教育目標やカリキュラムに反映させるため、卒業生に対し、在学中に身に付けた資格・能力の有用度に関するアンケート調査を実施する。	教務	教務	④ 10月に卒業生に対し、在学中に身に付けた資格・能力の有用度に関するアンケートの回答を依頼しており、そのアンケート結果は3月に結果を集計する予定である。
⑤ 「地域への貢献」を主として、地域ニーズの把握を進め、具体的なプロジェクトを開始する。学生を関連プロジェクトに参加させる中で、「新産業を牽引する人材育成」を実施する。	テクノセンター	企画・地域連携	⑤ 三重県工業研究所の機器見学と意見交換を行った（10月24日）。同研究所との連携協定を締結した（1月16日）。 鳥羽市役所との意見交換を行い、本校の持つ技術の紹介を行い（10月25日）、文化、教育、学術分野における包括提携を締結する予定である。 三重県庁との意見交換を行い、本校の持つ技術の紹介を行い（1月12日）、三重県の推奨する事業と連携した人材育成を進めることで協議した。
⑥ 学修推進支援室を設置し、学生の学習支援や学力向上対策を実施する。	教務	教務	⑥ 4月に学修推進支援室が設置され、成績要支援者・成績不振者に対し学力向上の対策を行っている。

年度計画		委員会等	事務	判断理由 (計画の実施状況等)
⑦	英語、数学、国語の3教科については、入学直後に学力試験を実施し、各学生の学力・学習習慣を把握し、学修推進支援室が中心となり学生の学習支援対策を実施する。	教務	教務	⑦ 4月5日にbenesseのスタディサポートを実施した。学修推進支援室でその試験結果・成績等を把握し、学習支援対策に活用している。
⑧	学修推進支援室が中心となり、1年生から3年生までの数学、物理等の基礎学力向上に努める。	教務	教務	⑧ 数学、物理の成績要支援者・成績不振者に対し、科目担当教員から宿題等を課し学力の向上に努めている。
⑨	TOEIC講習会を開催する。また、TOEIC IPテストを学校行事として実施する。	教務	教務	⑨ 夏季休業中にTOEIC講習会を実施した（9月18日～20日）。また、9月と12月にTOIEC IP試験を学校行事として実施した。
⑩	授業評価アンケートを実施し、結果を各教員へフィードバックすることで、各教員が改善計画を立て、教授法の改善に努力をする。	教務	教務	⑩ 5月に各教員へ昨年度の授業評価アンケートをフィードバックし、各教員は改善計画を報告し、学科長の査定を受け、授業改善につなげている。
⑪	教員同士のピアレビューや教員の資質向上を目指したFD活動を実施する。	教務	教務	⑪ 11月に授業公開を実施し、教員同士のピアレビューを行い、出されたコメント等は授業改善に資するために科目担当教員にフィードバックされた。3月5日にALに関するFD研修を実施、資質向上に努めた。
⑫	学生の意欲向上や高専のイメージの向上に資する「全国高等専門学校体育大会」、「全国高等専門学校ロボットコンテスト」、「全国高等専門学校プログラミングコンテスト」、「全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト」、「インターハイ」等の全国的な競技会やコンテストに積極的に参加するとともに、本年度は、上記ロボコンの東海・北陸地区主管校として、同イベントを運営する。	教務 学生	入試・支援 学生生活	⑫ 全国高校総合体育大会（インターハイ）に少林寺拳法部が出場した。全国高専大会に、柔道部が出場した。全国高専プログラミングコンテストに出場し課題部門で最優秀賞、特別賞を受賞し、自由部門で優秀賞を受賞した。全国ロボットコンテストに出場し、奨励賞を受賞した。
⑬	地域と連携を図り、ボランティア活動を継続して行う。	教務 学生 寮務	教務 学生生活	⑬ 地元鳥羽警察が行った交通安全、防犯啓発ボランティアに参加し、協力を行った。（9月29日、10月12日、12月1日） 寮生代表が地域の粗大ゴミ回収に参加し、協力を行った。（11月25日）
(3) 優れた教員の確保				
①	教員組織が多様な背景を持つ教員で構成されるよう、教員採用に際し、本校、高専機構、国立研究開発法人科学技術振興機構（JREC）、関連学会のホームページによる公募及び関係大学、民間企業に公募要領の送付を行うなど広く公募を行い、公募制の徹底を図る。	教員選考	人事 労務	① 本校・高専機構・国立研究開発法人科学技術振興機構（JREC-IN Portal）・関連学会のホームページによる公募及び関係大学・民間企業に公募要領の送付して公募の徹底を図り、4名の教員の採用を決定した。（平成30年4月1日付採用）
②	高専間での任期を付した人事交流を行い、教員の教育活動の活性化を推進する。	教員選考	人事 労務	② 高専・両技科大学教員交流制度により、他高専へ教員1名を相互に派遣している（平成28～29年度）。
③	専門科目については、博士の学位を持つ者や職業上の高度の資格を持つ者、一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育能力を有する者の採用を促進する。	教員選考	人事 労務	③ 専門科目（海事職以外）については、博士の学位を有している（採用日前月末までに取得見込みの者を含む）優れた教育能力を有する者を採用した。
④	退職教員の後任採用にあたっては、女性教員の優先的採用を推進するとともに、女性教員の積極的な登用を図る。	教員選考	人事 労務	④ 「男女共同参画社会基本法」の趣旨に基づき、教員公募において評価が同等であれば女性を優先して採用するなど積極的な登用の推進を図った。（4件の公募に実施） 平成29年4月1日採用として女性教員を1名採用した。
⑤	女性教職員の就業環境整備のための要望を聞き、改善に努める。		施設	⑤ 女性教職員の就業環境整備のための要望を聞き、教育研究経費等を支援し改善に努めた。

年度計画		委員会等	事務	判断理由 (計画の実施状況等)
⑥	高専機構の主催するFD研修会や教育研究集会等の各種研修に積極的に参加させることにより、教員の能力向上を図る。	教務	人事 労務	⑥ 平成29年度高専機構主催の管理職研修に1名、中堅教員研修に1名、新任教員研修会に3名が参加し、教員の能力向上を図った。
⑦	三重県教育委員会と連携協力し、各種研修等への参加を通して、学生指導力や教員の資質向上に努める	教務	人事 労務	⑦ 平成29年度FD・SD研修として、練習船鳥羽丸による研修を実施し、教職員15名が参加した（9月28日）。また、技術職員研修を行った（3月1日、2日）。 ⑧ その他学会等が主催する研修に29名が参加した。
⑧	国立高専機構教員顕彰に候補者を推薦する。	校長	人事 労務	⑨ 平成29年度国立高等専門学校教員顕彰の若手部門に1名、一般部門に1名を推薦するためのアンケートを実施し、若手部門の1名を推薦した。
⑨	国立高専機構の制度を活用して、内地研究員及び在外研究員の派遣に努め、教員の教育研究能力の向上を図る。	校長	企画・ 地域連携	⑩ 平成29年度国立高等専門学校在外研究員として、イスタンブール工科大学（トルコ共和国）に1名派遣した（4月10日～3月20日）。また、平成29年度早稲田大学の訪問学者（内地研究員）として、1名派遣した（5月1日～2月28日）。 平成30年度の在外研究員及び内地研究員に関しては、学内で周知を図ったが、応募はなかった。
（4）教育の質の向上及び改善のためのシステム				
①	MCCに準拠したWebシラバスを作成しているが、各科において各科目の到達目標、ルーブリック評価及び授業計画等が学習到達目標を達成させる上で妥当であるか、今年度も各学科において検討する。	教務	教務	① MCCの完成版に対応するため、カリキュラム及び到達レベル等を各学科で検討し、Webシラバスを作成・公開した。
②	学修推進支援室を設置し、アクティブラーニング等の教授法の調査・研究を行う。	教務	教務	② 平成29年4月に学修推進支援室を設置し、学修推進支援室員が8月11月に第3ブロックAL研究会、9月に三重大学全学FD研修に参加した。また、「英語授業を目指した講義力強化プログラム」に学修推進支援室員1名とその他教員1名が参加した。 3月にアクティブラーニングに関するFD講習会を開催し、教授法を教員へ還元した。
③	学生の積極的な資格等の取得を促す。	教務	教務	③ 前期では実用英検2名、TOEIC1名、ボイラー技士1名、工業英検3名、危険物取扱者乙種5名、基本情報技術者1名の学生が資格を取得した。資格を取得した学生に対して単位認定を行った。
④	学生会組織の拡充を図り、学生全体による学生会諸活動の企画・運営の支援、及び学生会諸団体の他高専との交流の支援を行う。	学生 寮務	学生 生活	④ 本校主催のリーダーストレーニングに、鈴鹿工業高専の学生会役員、学園祭役員が参加し、一緒にグループワークを行うとともに、交流行事の打合せを行った（9月2日）。
⑤	学生の交流活動の一環として他高専との学生会や寮生会の交流をもち、学生の意識向上や学生活動の活性化を図る。	学生 寮務	学生 生活	⑤ 鈴鹿工業高専及び豊田工業高専との連携して、寮生交流会を実施して、学生の意識向上や学生活動の活性化を図った。（12月9日）
⑥	創造性を育む教育方法（PBL）の実践を推進する。	教務	教務	⑥ KOSEN4.0イニシアティブ採択事業により、制御情報工学科では創造性を育む教育方法（PBL）を先行して実施している。
⑦	学科を越えた授業の共有や他高専との授業の共有等、新たな授業形態の在り方について、引き続き検討を進める。	教務	教務	⑦ 3学科合同で「一般基礎教育」の授業を行った。平成30年度の開講科目について、工業系2学科（電子機械工学科及び制御情報工学科）の専門科目で同時開講を行うこととした。

年度計画		委員会等	事務	判断理由 (計画の実施状況等)
⑧	平成25年度に受審した機関別認証評価結果に基づく改善を継続する。	点検評価	企画・地域連携	⑧ 各学科の求める人材像（アドミッション・ポリシー）について、学生募集要項、学生募集パンフレット及びホームページ等に掲載し、受検生、保護者及び中学生等に周知を行った。
⑨	STCW条約に基づく資質基準を維持する。 また、同条約に基づいた、教育設備の更新に努める。	S T C W 条約対策	入試・支援	⑨ 商船学科における教育内容も含め、STCW条約に基づいた資質基準の維持に努めている。 また、同条約に基づいた救命講習用救命筏・救命索発射器・電子海図情報等表示装置（ECDIS）などの教育設備を更新した。
⑩	インターンシップ参加を奨励するとともに、受け入れ企業等の開拓を積極的に行う。	教務	教務	⑩就職先依頼数を増やし、三重県経営者協会と連携をとり、受入れ企業増加に努めた。 2月8日に開催した就職支援セミナーでインターンシップ参加企業の開拓を行った。 平成29年度インターンシップに商船学科16名、電子機械工学科24名、制御情報工学科32名、専攻科5名が参加した。電子機械工学科63％、制御情報工学科89％で工学系学科の参加率が75％になり、前年比で20％向上した。
⑪	産学官共同教育の一環として、現職並びに退職技術者による企業技術者等活用プログラムを企画・実施する。	教務	教務	⑪ 専攻科の学生を対象に、2月・3月に実践的なFA制御システム開発能力を養成するため、FA制御システムの開発・教育に携わっている企業技術者に依頼し、専攻科生を対象とした「PBL型即戦力FA制御システムものづくり」の講座を実施した。
⑫	学生及び教職員のICTスキルを向上させるための講習会を開催し、活用促進に努める。	総合情報 センター	教務	⑫ 学生及び教職員のICTスキルを向上させるための講習会として、商船学科1年生を対象として一般教育基礎1にてOffice365講習を行った（6月14日 5・6限）。また、教員には3月にFD研修会として教育用ICT設備の活用講習を実施した。演習室環境整備の一環として教育支援アプリ「ネットサポートスクール」を導入した。本教育支援アプリの教職員向け使用説明会を3月に実施し活用促進に努めた。
（５）学生支援・生活支援等				
①	学生相談室の担当教職員、臨床心理士等の連携強化を図り、学生の学習・生活相談への支援及び心のケアの充実を図る。	学生	学生生活	① 学生相談室会議を3回開催し、学生相談室内での情報共有に努め、学生の学習・生活相談への支援及び心のケアの充実を図った。
②	修学支援要項に従って、学生及び保護者からの支援要請に適切に対応する。	学生	学生生活	② 修学支援会議を1回開催し、支援要請のある学生について、関係教職員間で情報共有し、個別に学習支援等を進めた。
③	健康管理（メンタルヘルス、薬物乱用等）、交通安全等に関する講習会を開催する。	学生	学生生活	③ 健康管理、交通安全等に関する講習会として以下のことを行った。 ・1年生の一般基礎教育の授業において、臨床心理士による講演会「充実した学生生活のために」を実施した。 ・自転車使用許可を受けた学生（通学生、寮生）に対して、「自転車安全講習会」を実施した（6月7日）。 ・自動車通学許可を受けた学生に対して、「自動車安全講習会」を実施した（6月7日）。 ・リーダーストレーニングにおいて、臨床心理士による研修会「集団でのコミュニケーションスキル」及び「グループ活動とコンセンサスによる集団決定」を実施した（9月2日）。
④	学校医による定期的な健康相談を実施する。	学生	学生生活	④ 学校医による内科健康相談（10月26日）、耳鼻科健康相談（10月12日、12月21日）、眼科健康相談（11月16日、1月11日）を実施した。
⑤	保護者懇談会を含め、保護者からの学生に関わる相談に応じ、学生支援を充実する。	教務	教務 学生生活	⑤保護者懇談会を年2回（6・10月）開催し、保護者からの意見等を担任会議で情報共有を行った。 寮生保護者懇談会を年2回（6・10月）開催し、前期99世帯、後期36世帯の保護者が出席し、学寮運営についての意見交換を行った。
⑥	学生寮の入寮希望者数の増加を見込み、学生寮寄宿舍整備計画を策定し、整備を進める。	寮務	学生生活	⑥ 入寮希望者数の増加を見込み、施設環境整備委員会等において今後の改修計画を検討し、高専機構本部に営繕要求を行った。
⑦	学生の学習支援施設としての図書館の学生用図書の実を推進する。	図書紀要	図書	⑦ 学生用図書については、順次購入を進め、今年度はおよそ1,600冊増加した。
⑧	授業料免除や奨学金制度について、学生への周知を図るほか、ホームページ等によって詳細な情報の提供を行う。	学生	学生生活	⑧ 授業料免除や奨学金制度については、ホームページに掲載を行うとともに、保護者へ案内状を郵送し、情報提供を行った。
⑨	日本学生支援機構による奨学金制度のほか、近藤記念海事財団奨学金、海技教育財団奨学金等の各種奨学金制度についても、学生への情報提供を積極的に行う。	学生	学生生活	⑨ 日本学生支援機構による奨学金制度等、学生課前等にポスター掲示を行い、学生への情報提供を行った。

年度計画		委員会等	事務	判断理由 (計画の実施状況等)
⑩	卒業予定者に対し適切な進路指導を行うとともに、就職活動に備え、外部講師を招いて就職ガイダンス等を開催する。校内就職支援セミナーを実施する。	教務 学生	教務 学生生活	⑩ 本科4年生、専攻科1年生を対象に、外部講師を招き、模擬面接を含む就職指導講演会を実施した（12月11日）。 ⑪ 一般基礎教育1（本科全1年生）において、就職・進学に関する講演会を実施した（9月27日）。 ⑫ 本科3年生、4年生、専攻科1年生を対象に、校内就職支援セミナーを実施した（2月8日）。
⑪	教員の企業訪問および企業の学校訪問の受け入れを積極的に行い、学校と企業の情報交換を深め、求人の継続的確保を図る。	就職対策 学生	学生生活	⑬ 教員が学生のインターンシップ企業に訪問したり、企業からの訪問を積極的に受け入れて、求人の確保を図った。
⑫	海運企業及び海事関連機関との情報交換を深め、海上就職率を上げるための取組を積極的に行う。	就職対策 学生	学生生活	⑭ 海運企業等の訪問を積極的に受け入れた。また、中部運輸局主催の若年内航船員確保対策懇談会に商船学科長が出席し、意見交換を行った（12月1日）。
⑬	学生の海上就職への志向性を高めるとともに、特に外航海運会社就職のために必要な知識・能力向上のための教育改善に取り組む。	就職対策 学生	学生生活	⑮ 商船学科を設置する5つの高等専門学校と海事関連4団体が連携して、平成29年度までの5年間取り組んだ大学間連携共同教育推進事業である「海事分野における高専・産業界連携による人材育成システムの開発」の成果を踏まえ、今年度は、それらの成果を教育カリキュラム等に変装すべく、「次世代海事人材プロジェクト」に取り組み、商船学科の教育改善に努めた。
⑭	キャリア教育推進室を設置し、学校として一貫した入学から就職までのキャリア教育を策定し、可能な学年から実践していく。	就職対策 学生	学生生活	⑯ 商船学科の16名の学生が、日本郵船、川崎汽船などの外航海運企業のインターンシップに参加した。 ⑰ 電子機械工学科24名、制御情報工学科32名、専攻科5名の学生がインターンシップに参加した。 ⑱ キャリア教育推進室が、一般基礎教育1（本科全1年生）において、就職・進学に関する講演会を実施した（9月27日）。
(6) 教育環境の整備・活用				
①	教育研究設備の整備について、設備マスタープランの更新を行う。	校長	調達	① 平成30年度設備整備計画に向けて設備マスタープランの更新を検討し、予算要求を行った。
②	SINET5の導入や無線LANをはじめとする、校内ネットワーク環境の整備を行いアクティブラーニング等の学習環境の充実を図る。	総合情報センター	総務	② SINET5の導入を完了し、無線LANAP40台整備した。また、さらに14台のAPを追加し計54台のAP整備を行った。本整備によりアクティブラーニング等の学習環境の充実を図った。
③	キャンパスマスタープランの原案を基に、施設環境整備委員会にてさらなる検討を行う。	施設環境整備	施設	③ 施設環境整備委員会を開催して、キャンパスマスタープランをもとに平成31年度概算要求及び平成30年度営繕要求の項目を決定した（11月14日）。
④	3号館バリアフリー改修の際に共有部分の照明をLED化し、省エネ化を図る	施設環境整備	施設	④ 3号館バリアフリー改修に併せて、3号館共有部分をLED化し、省エネ化を図った。
⑤	外灯を随時LED化し、省エネ化を図る。	施設環境整備	施設	⑤ 省エネ化を図るため、外灯LED化の検討を行った。
⑥	艇庫の耐震診断を行い、必要に応じて補強計画を検討する。	施設環境整備	施設	⑥ 艇庫の耐震診断を行い、補強計画の検討を行った（2月1日）
⑦	学生及び教職員を対象に、「実験実習安全必携」を配付するとともに、労働安全衛生管理に関する講習会等に教職員を積極的に参加させる。	安全衛生	人事 労務 教務	⑦ 平成29年度AED研修（普通救命講習会）に教員4名、事務系職員1名の計5名が参加した。新規採用等教職員に、常時携帯用の「実験実習安全必携」を配布し、1年生には「実験実習安全必携」を印刷して配布した。
⑧	男女共同参画室を中心に、男女共同参画に関する意識啓発のため、男女共同参画に関する情報を教職員へ提供する。 また、外部が主催する男女共同参画に関する研修等にも教職員を積極的に参加させる。	校長	総務	⑧ 男女共同参画室を中心に、男女共同参画に関する意識啓発のため、男女共同参画に関する情報を教職員へ提供した。 また、第3ブロック男女共同参画推進担当者会議に参加し、情報交換及び情報共有を行った。 外部が主催する男女共同参画に関する研修等にも教職員を積極的に参加を呼びかけ、参加するよう努めた。
2 研究や社会連携に関する事項				
①	研究の推進、各種プロジェクトへの応募及び外部資金獲得に積極的に取り組み、外部資金等の増加に努める。	研究主事	企画・ 地域連携	① 研究・産学連携活動等を円滑に行うため、テクノセンターの運営組織を見直し、テクノセンター関係規則を改正し、平成30年4月1日より施行する。
②	外部資金獲得状況を学内で全教員に周知し共有することにより、外部資金データベースの効率的活用を維持する。	研究主事	企画・ 地域連携	② 外部資金獲得状況を教員会議で周知し共有するとともに、更なる外部資金等獲得に向けて、科学研究費補助金への申請を促した。

	年度計画	委員会等	事務	判断理由 (計画の実施状況等)
③	高専間共同研究を推進する。	研究主事	企画・地域連携	③ 「海」をキーワードとした研究テーマで、和歌山高専と科学研究費補助金の共同申請を行った（基盤S・A）。また、GI-netにて、協定締結を視野に今後の連携についての打合せを行った（1月17日）
④	各教職員の持つ研究シーズをwebページ上に掲載する。	研究主事	企画・地域連携	④ 平成30年度に外部機関との連携を意識した研究シーズ集を作成することから、平成29年度は研究シーズの内容について検討を行った。
⑤	高専機構が主催するの新技术説明会への参加を促す。	研究主事	企画・地域連携	⑤ 高専機構主催の説明会等について、全教員に開催案内をメール、インフォメーション等で周知し、積極的な参加を促した。
⑥	外部研究経費の新規獲得事例を増やすため、各教職員の分野に応じて個別に紹介を行う。	研究主事	企画・地域連携	⑥ 高専機構、外部団体等からの競争的資金等の公募情報については、他高専の教員との共同研究も含めて積極的に応募するよう教員に周知するとともに、事案により個別に案内を行った。
⑦	科学研究費補助金等への申請率60%を当面の目標にして取り組みを強化し、採択率の向上に努める。 （平成28年度、教員・技術職員による申請率は53.1%）	研究主事	企画・地域連携	⑦ 外部資金等獲得のため、科学研究費補助金の申請率を向上させる取り組みとして、教員会議において全教員の申請を方針とした結果46名の申請があった。教員のための申請率は86.8%（昨年度68%）、技術職員含む申請率は89.6%（昨年度52%）であった。
⑧	各教職員へ学会、展示会等への参加を呼びかけ実質的な研究・教育成果の公表につなげる。	研究主事	企画・地域連携	⑧ 「みえリーディング産業展2017」において、産学官連携ブースに出展し、各学科紹介のパネル展示や、ドローンを利用した防災減災地図作成システム「みつばちず」や水産支援システム「うみどり」、害獣檻遠隔監視・操作システム「まるみえホカクン」の展示を行った（10月27日、28日）。また、KOSEN4.0イニシアティブフォーラムを開催した（2月23日）。
⑨	地域や業界等からの各教職員および学校へ向けられた要望を集め、関係する教職員、団体へ返答する試みを実施し、新たな共同研究等へ結びつけるようにする。	研究主事	企画・地域連携	⑨ 平成30年度に向けて全教員が外部機関との連携を行うため、調査アンケートを実施した。
⑩	機構からのコーディネート活動に関するスキル等の紹介を受け、それを本校へ適用可能な部分を精査し、活用	研究主事	企画・地域連携	⑩ 西日本KRAとの面談を行った（12月20日）。外部資金公募等の情報を共有し、学内への周知を行った。
⑪	地方自治体、法人、民間企業等からの技術相談に応じるとともに、交流会等に積極的に参加し、受託研究・共同研究等への発展を目指す。	テクノセンター	企画・地域連携	⑪ 三重県産業支援センターの募集する厚労省の事業に、地元企業が応募し、その事業の一部について受託研究契約を行った。
⑫	地域社会における産学官連携を推進するため、地域の関係機関等と情報交換等を行う。	テクノセンター	企画・地域連携	⑫ 三重県工業研究所の機器見学と意見交換を行った（10月24日）。同研究所との連携協定を締結した（1月16日）。また、鳥羽市役所との意見交換を行い、本校の持つ技術の紹介を行った（10月25日）。三重県産業支援センターと同センターの募集する補助金等についての意見交換を行った（8月29日）。三重県庁との意見交換を行い、本校の持つ技術の紹介を行った（1月12日）。
⑬	知的財産に関する講演会またはweb講演会等の実施情報を集め、教職員に周知、参加を呼びかける。	研究主事	企画・地域連携	⑬ 高専機構主催の平成29年度知財研修会に教職員が参加した。（7月3日）
⑭	知的財産コーディネーターの利用が有効であるか、検討する。	研究主事	企画・地域連携	⑭ 西日本KRAとの面談を行い、本校の抱える課題について情報共有した（12月20日）
⑮	機構による知的財産の状況調査結果を吟味し、本校で利用可能な事例がないか確認し、必要に応じて校内に紹介する。	研究主事	企画・地域連携	⑮ 機構による知的財産の状況調査結果について、本校で利用可能な事例がないか検討した。
⑯	本校の産学連携事例を調査し、web上で事例紹介を行う。	研究主事	企画・地域連携	⑯ 平成29年度の産学連携事例について、ホームページへアップする実績をまとめた。
⑰	過去の産学連携事例をピックアップし、教職員に普及に努めるよう周知する。	研究主事	企画・地域連携	⑰ 平成29年度の産学連携事例について、ホームページへアップする実績をまとめた。
⑱	本校教職員の専門分野、研究開発実績等を紹介する「研究シーズ集」を更新して、受託研究、共同研究、技術相談等の推進に活用する。	研究主事	企画・地域連携	⑱ 平成30年度に外部機関との連携を意識した研究シーズ集を作成することから、平成29年度は研究シーズの内容について検討を行った。

年度計画		委員会等	事務	判断理由 (計画の実施状況等)
⑭	公開講座の参加者に満足度や次回のテーマ等についてアンケート調査を実施し、満足度が7割以上になるようコンテンツの改善に努める。	広報・公開	企画・地域連携	⑭ 平成29年度公開講座として、「サイテクランドin鳥羽商船」（6講座）及び「小学生のためのバレーボール教室」を実施し、117名の参加者があった。参加者全員を対象に満足度のアンケート調査を実施した結果、「満足」及び「概ね満足」は90%であった。 また、受験をまじかに控えた中学3年生を対象に、数学・理科・英語の講座を開設し、学力受験者のレベルアップを目的とした「入試対策講座」を実施し59名の参加があった。参加者全員を対象に満足度のアンケート調査を実施した結果、「満足」及び「概ね満足」は90%であった。（11月23日）。
⑯	教育委員会や小・中学校と連携した出前授業を実施し、「ものづくり教育」、「理科教育」等の支援を行う。	広報・公開	企画・地域連携	⑯ 伊勢市教育委員会との共催で、近隣市町の小中学校教職員を対象としたプログラミング研修講座を開催した。（8月24日）
⑰	小中学生を対象とした理科・科学イベントに出展し、地域における理科・科学技術に対する関心を高めるよう努める。	テクノセンター	企画・地域連携	⑰ 地元池上町の小中学生及び保護者を対象とした「ロボット教室」を実施した。（11月23日）。
⑱	一般市民の利用促進のため、学校説明会等で中学生と保護者へ本校図書館についての紹介を実施するとともに、地元の広報紙へは図書館の利用案内の掲載を依頼する。	図書紀要	図書	⑱ 学校説明会で、中学生と保護者を対象に本校図書館の紹介を実施した。（8月18日、19日） また、地元の広報紙（広報いせ・広報とば・広報しま）に、図書館の利用案内の掲載を依頼した。（4月20日）
3 国際交流等に関する事項				
①	グローバル教育推進室を設置し、シンガポール・ポリテクニク及びイスタンブール工科大学など他機関等との連携を図り、国際交流の推進に努める。	国際交流推進室	教務	① グローバル教育推進室が今年度から設置され、シンガポール・ポリテクニク等の連携を図り、国際交流に努めた。 ・平成29年度9月シンガポールMELキャンプ（9月4日～9月14日） ・平成29年度3月シンガポールMELキャンプ（3月12日～3月24日） ・平成29年度KCC国際インターンシップ（3月10日～3月27日） ・平成29年度SMA鳥羽丸トレーニング（9月13日～9月20日） ・平成29年度SPプロジェクト（3月3日～4月12日）
②	グローバル教育推進室が主導して、トビタテ！留学JAPAN等を積極的活用など留学希望者への教育・支援を促進する。 また、工業系学科向けの海外インターンシップの新規導入に向け検討する。	国際交流推進室	教務	② トビタテ！留学JAPAN（高校第3期）に学生が4名採択され、ニュージーランド、ハワイへ留学した。なお、トビタテ！留学JAPAN（高校第4期）に現在16名が申請中である。トビタテ！留学JAPAN（大学）については、2名申請し、現在1名が2次選考へ進んでいる。工業系学科向けの海外インターンシップについては、検討中である。
③	国際化への対応を進めるため、留学生施設の生活環境整備を検討する。	寮務 施設環境整備	学生生活	③ 留学生を含めた寮設備については、施設環境整備委員会等において検討し、高専機構本部に営繕要求を行った。デュラボーン王女サイエンスハイスクール留学生受入に応募することとした。
④	留学生については、異文化理解等を目的に日本文化施設の見学会や留学生交流会などを企画し実施する。日本文化を学ぶ体験学習を実施する。	教務	教務	④ 12月・1月に茶道、華道の文化体験を実施した。また、11月に実施された鈴鹿高専との留学生交流会に2名の留学生が参加した。
⑤	東海地区高専の留学生交流会を企画し、実施する。	教務	教務	⑤ 主管校として、12月に国立乗鞍青少年交流の家で東海地区高専の留学生交流会を実施した。
⑥	日本人学生のグローバル人材育成の一環として、各種学内イベントにおける留学生の積極的活躍を企画し、実施する。	教務	教務	⑥ Singapore Polytechnicプロジェクトに留学生が参加し、シンガポールの短期留学生と日本人学生の橋渡しとして活躍した。
4 管理運営に関する事項				
①	運営諮問会議を開催し、中期目標・中期計画、年度計画及び本校の将来計画についての提言を得る。	校長	企画・地域連携	① 運営諮問会議を開催し、平成29年度年度計画の達成状況及び本校の現状と課題について説明を行うとともに、委員の方から提言を得た（3月7日）。

年度計画		委員会等	事務	判断理由 (計画の実施状況等)
②	業務の集約化及びアウトソーシングを検討する。	事務部	調達	② 現在、随意契約で行っている電気の契約を来年度から、本校においても一般競争（平成29年12月1日開札）を行ったことにより、2年間で920万円の経費削減が見込まれた。 ③ 鈴鹿高専と契約手続きに関して情報交換を行うことにより、業務の効率化が図れた。
③	高専機構作成「コンプライアンス・マニュアル」及び「セルフチェックリスト」により、教職員のコンプライアンスの向上を図る。	校長	総務	④ 高専機構作成「コンプライアンス・マニュアル」及び「セルフチェックリスト」を利用し、教職員のコンプライアンスの向上に努めた（2月）。
④	業務分担等を整理するとともに、各種業務マニュアル、事務引継マニュアルの整備を行う。	事務部	総務課 学生課	⑤ 業務分担等の見直しを行い作成された各業務マニュアルを引き続き見直した。
⑤	公的研究費等に関する不正使用の防止策を確実に実施するとともに、教職員に対し、コンプライアンス教育研修を実施し、不適正経理の防止についての周知を定期的に行う。	校長	財務・ 経理	⑥ 本校ホームページ内で「研究不正等に対する取組」を掲載し、周知を行った。 ⑦ 平成27年4月1日付けで「鳥羽商船高等専門学校における公的研究費等の取扱いに関する内規」を制定し、コンプライアンス推進副責任者を定めた。 ⑧ 平成27年度版「公的研究費使用マニュアル」を作成し、平成28年1月19日開催の教員会議にて教員へ配布した。また、文書管理に掲載し、全教職員へ周知を行った。 ⑨ 4月3日に新規採用者及び他機関からの異動者に対するオリエンテーションにおいて、「公的研究費使用マニュアル」を配布し、公的研究費使用に関する説明を行い、教員3名、職員8名が参加した。 ⑩ 全教職員を対象にした公的研究費の不正使用についての研修会を実施する（2～3月に複数回実施予定）。 ⑪ 研究者の一部を対象に旅費のヒアリング及び非常勤雇用者の一部を対象に勤務状況についてヒアリングを実施する（2～3月実施予定）。 ⑫ 不正に対する意識向上を図るため、全教職員から公的研究費に関する誓約書を提出させた。
⑥	事務職員及び技術職員の能力向上のため、高専機構等が主催する研修会等に積極的に参加させる。また、職員のSD研修を実施する。	事務部	人事労務	⑬ 平成29年度高専機構主催の初任職員研修に4名、情報担当者研修会に3名の計7名が参加した。若手職員研修会に1名が参加予定。 ⑭ 平成29年度東海北陸地区高専主催の係長級事務研修に3名、技術職員研修に1名の計4名が参加した。 ⑮ 平成29年度国立大学法人主催の新任課長補佐研修に1名、係長研修に2名の計3名が参加した。 ⑯ その他国立大学法人等が主催する研修に12名が参加した。 ⑰ 商船高等専門学校商船系技術職員・船舶技術職員研修（3月1日～2日）を開催した。 ⑱ 平成29年度FD・SD研修として、練習船鳥羽丸による研修を実施し、15名が参加した。 ⑲ 鳥羽商船高専事務系SD研修を6回開催した。 ⑳ 鳥羽商船高専若手職員勉強会を2回開催した。 ㉑ 鳥羽商船高専語学研修を開催し、6名参加した。 ㉒ 鈴鹿高専主催のGi-netを利用した語学研修を周知し、1名が参加した。 ㉓ 三重県主催の「企業の働き方改革・次世代育成応援」シンポジウムを周知し、1名が参加した(2月23日予定)。 ㉔ 財務省主催の政府関係法人会計事務職員研修を周知し、1名が参加した。 ㉕ 鳥羽商船高専office365説明会を開催し、10名が参加した。
⑦	⑦ 事務職員については、国立大学法人、高専間等との人事交流を計画的に行う。	事務部	人事労務	㉖ 4月1日の人事において、三重大学から4名の人事交流者を得た。 ㉗ 高専間職員交流制度により、鈴鹿工業高専と相互に2名の人事交流を行っている（平成28年～平成30年度）。
⑧	⑧ 危機管理体制及び緊急時対応・設備についての見直しを行い、危機管理マニュアルの更新等を行う。	校長	総務	㉘ 危機管理体制及び緊急時対応・設備についての見直しを行い、危機管理マニュアルの更新を行った。

年度計画		委員会等	事務	判断理由 (計画の実施状況等)
Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべ				
①	事務の効率化及び管理経費の削減を推進する。	事務部	総務課 学生課	① 照明器具については、取り換えの必要なものからLED照明器具に取り換えて電気料の削減に努めている。 ② コピー用紙について、教育用、研究用、一般管理用の用途に応じて購入するなど、管理経費の 削減を図っている。
②	三重大学、鈴鹿工業高専等県内の高等教育機関との連携事業を推進する。	校長	総務課 学生課	③ 平成27年度に三重県内高等教育機関の教育、研究、地域貢献の各機能の向上を図り、もって人口減少の抑制及び地域活性化を実現するために県内14機関で構成された「高等教育コンソーシアムみえ」の企画運営委員会・地域貢献部会等の会議に副校長（または研究主事）が代表して出席し、構成機関代表者と地域活性活動について活発な意見交換を行った。また、コンソーシアムみえ事務局が企画したイベント、海外旅行・結婚意識等各種アンケート調査に協力した。 また、平成27年度から三重大学が雇用の創出と若年層の県内就職率向上を目指した事業として文部科学省より採択されている「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の事業機関として引き続き参加しており、平成29年度は三重県の地域創生、持続的な活性化のために必要な人材を育成するための教育実践の内容・方法を検討する「教育プログラム開発委員会」担当校として、上記委員会、上記委員会の下部組織である情報アセスメント分科会、教学WGに副校長（または研究主事）が代表して出席し、意見交換を行った。シンポジウムに学生が参加し、これまで取り組んだ研究成果を発表した（11月26日） 鈴鹿工業高専との間では第14回連携強化推進委員会を開催し、両校の教務、学生、寮務、研究の各主事間及び事務部長間での連携事項について協議し、協力体制の強化を協議した（7月13日）。また、3月9日に、鈴鹿との協力事業について総括し、次年度計画につなげる予定である。